

と欲す。

朝鮮には人心を感動して作興憤發せしむべき歴史なし。強ひて之を求むれば、徒らに漢々荒唐なる古代神話の事を談じて、空談迷信に耽けるの舊病を助長せしむるのみ。儒道久しく空文となり、佛教亦長く教化の勢力を失せり。尤も習慣的潜勢力の無意に行はるゝ者なきにあらざれども、之を復興せしめんとすれば、却つて守舊の念を鼓舞するに至らん。而して今日朝鮮人を開導するに於て、舊を億ひ背を顧みさしむるほど有害なるはなし。現時の最要は可成前を望み、外を眺め、新を追はしむるに如かず。而して同時に確實篤深なる道義を養はしめざるべからず。是れ或は二ヶの反對せる者を同時に求むるに似て、甚だ困難の業なりと雖も、幸にして基督教の傳播著しき者あり。是れ實に此の難問を解決する至便なりと云ふべし。其の歴史新しく其の關係は世界的にして進取日新の氣象識らず識らず養成せらるべし。天父を信じ人類を兄弟とするの信念は、他の強大誇るに足るべき國家を有せし者に比しては、鮮人をして容易に世界的人間とならしむべし。而して世界の大勢を無意識中に感得して思ひの外速に失望不満の凝結を溶解することを得べし。而して一方には仁政によりて生命財産の安全を覺え求るに至れば、茲に日本帝國國民たるの種を蒔くべき素地成れりと云ふべく、日本人の特別習氣に感染して、知らず識らず御自慢の氣風に感染すべく、始めて眞の日本人となるに至るべし。故に曰く朝鮮人を日本人になすの順序は先づ彼等を世界の眞中に導きて、其の上日本の特風を鼓吹せざる

べからず。然らずして一時に形式を強ふるは、彼等の長所なる面從背逆の惡徳を増長せしむるのみ、害ありて益なき事なるべし。朝鮮人程の程度にして公戰に拙きも、私闘に勇なるの惡癖ある者には、無神思想程有害なる毒藥はあらざるべし。

一、鮮人教化方法

幸ひに西洋人の傳道者々成功をなしつゝあり。之を保護して成功せしめ、同時によく我が眞意を洞徹せしむべし。

間々日本傳道者の鮮人教化に對し外國人と勢力の競争をなすべしと主張するあり。是れ絶対に不可能の事ならざるべしといへども、其の途には容易に打勝ち難き困難と忌むべき障害の生出し出し來る虞あり。

困難 現今世界の傳道地に稀なる程の傳播力を以て擴張しつゝある歐米人傳道の向ふを張りて、別手の傳道をなすには相當の設備なかるべからず。即ち多數の有力なる日本傳道者と之れに要する適當の住所、會堂、學校、醫院、通譯者等を有せざるべからず。否らざれば勞して功なきに終るべし。然るに内地の傳道すら有力者缺乏を告げつゝあり。焉ぞ能く相當の事をなし得んや。(他の設備並資金の出所ありとするも)。

鮮人由來日人を怨むのみならず、實に大いに輕蔑の意あり。基督信徒間には比較的相互敬愛の心あり

といへども、教外人にして虚心日人の教を受けんと欲する者甚だ稀れなり。藝術を學ばんと欲する者あるべし、勢利に頼らんとする者るべし。日本人の教化を受けんとする者蓋し稀ならん。或ひは既設教會の不平家又は教外の事大家を引き入るゝ事もあらん乎。甚だ頼母しからざる事なりとす。障害 日本の教勢遙かに彼に劣り、眼前に在る日人間にも布教の行届かざるに拘らず敢て鮮人教化に着手せんか。必ず外國宣教師の感情を傷ひ且嘲笑を促すべし。萬一彼等にして日本の政策に出づる者と猜疑せしむるに至らば、是れ地方的の害にあらずして全體の政策に影響すべし。

圖らざりき、朝鮮人の教會は由來自給の精神壯なり。随つて愛會の心強し。日人が宣教師の向を張るは、即ち彼等鮮人教會の向を張ると同一になる事を見れば、是れ亦決して快心なるべからず。左れば從來相愛親和の交際も自ら傷き、誘掖の道を失ふなきを保せず。

(一)、要之、外國宣教師の勢力感化を利用して、鮮人に適當なる精神修養をなさしむると共に、帝國民たるべき誘掖をなすの道を講ずるに如かず。間接後漸を遂うて直接に至るの道を取らざるべからず。猶具象的に云へば、日本教會は先づ日本人本位に傳道を爲さんがため、在留民の多き處に根據を置き、一方日本人教會を設立するに勉め、一方は宣教師と鮮人教會の主立たる者と交際をなし、日鮮朝野の意思疏通を圖る事。

(二)、除々として間接の運動をなす間に、鮮人にして日語に通ずる者、日本教會に列することを好むあ

らば之を收容し、有望有志の青年あらば日本に送りて神學の教會を受けしめ、鮮人教會に日本思想ある有爲の牧師を與へ、漸次教會の獨立を獎勵し、進んで日鮮諸教會の連合又は合同を圖らしむるを以て無害有効の策とす。

一、日本教會には精神上區別なしと雖も、朝鮮に於ては既に來住せる外國宣教師團體と縁故ある者をして従事せしむること相方の便利なるのみならず、取扱上にも簡便なるべし。而して目下期鮮には大小拾余の教團ありと雖も、最大なるは米國、加奈陀、濠州三ヶ國の長老教會派(凡て四派にし)、米國南州メソヂスト派、英國監督派、佛國の天主教派とす。聞く米國のコングリーショナル(會衆派にして日本の組合と縁故ある者)、并浸禮派は、朝鮮には宣教師を派出せざる事に一定し居れりと。左れば目下大別して長老、メソヂスト、監督、天主の四派なりとす。之れに加ふるに米國の青年會、英國の救世軍は純然たる教會にあらずと雖も又一種の有力なる教團なり。然れ共其の運動は主として京城に在り、未だ地方に蔓延せず。蓋し其の性質に於て然りとす。然れば主として考ふべきは、前の四教派にして、其の中監督派は未だ著しき成功なしと雖も、他の新舊三派は各皆數萬の信徒を有する者にして、天主教派の分を詳にせざれども、長老、美以の宣教師所在地は凡て二十二ヶ所左の如く配置せらる。

城北 城津 (加、長老)
城南 咸興 (加、長老)
平北 宣川 (北、長老)

元山 (加、長老、南、美以)
江界 (北、長老)

寧邊 (北、美以)

平南 平壤 (北、美以。北、長老)
 黄海 海州 (北、美以)
 京城 開城 (南、美以) 鐵寧 (北、長老)
 江原 春川 (南、美以) 京城 (南北、美以。南北、長老) 濟物浦 (北、美以)
 忠北 清州 (北、長老)
 忠南 公州 (北、美以)
 慶北 大邱 (北、長老)
 慶南 釜山 (北、薩、長老) 晋州 (薩、長老)
 全北 全州 (南、長老) 群山 (南、長老)
 全南 光州 (南、長老) 木浦 (南、長老)

右の内居留民の少数なる地方には、定住の日本傳道者を要せず。最寄掛持ちとして巡回せしむることを得べし。

一、教育機關 基督教の關係ある學校千五百有餘ある由なり。官廳の記録には概して外國人設立となり居る様なれども、是時の便利による者なるべく、其の小學校程度の者の多數は、全く朝鮮人の自給にして、宣教師の補助を仰がざる者なる由。例せば平壤長老教會の隣地にある崇徳小學校の如き三百餘名の生徒あり。一年の經費大凡三千圓斗にして、二千圓は月謝にて收入し、不足は教會有志者寄附による者なりと云ふ。貧弱なる教徒等が非常の奮發にて開設しつゝある者をば、寧ろ懇篤に獎勵して一般の標準に適合せしむることを圖らば、蓋し教育上の裨益大なる者あるべし。是等學校の方針は要するに教會の傾向如何に有る者にして、教會は順潮に乗り目下の如く公平安全なる取扱に満足して、

熟和の道を進み行くときは諸學校の風習も自ら穩當に至るべきこと難事にあらざるべし。

一、日本教會の傳道に従事し、日本傳道者を定住せしむる場所左の如し。

大邱 日本基督教會 一人
 京城 日本メソヂスト 二人、日本キリスト 一人、組合 一人
 仁川 日本メソヂスト 一人
 平壤 日本メソヂスト 一人、組合 一人
 元山 日本メソヂスト 一人
 新義州 日本メソヂスト 一人 (但シ安東縣より掛持)
 釜山 聖公會 一人

一、傳道の衰兆は發見しがたし。特に現下は諸集會なく獨り宗教の集會のみなると、昨年來計畫せる特別大學傳道とによりて、諸教會の集會は甚だ盛大なり。平壤は四萬の人口にして十ヶ所の教會に於て日曜毎に一萬内外の出席ある由なれば、世界中無双とふことを得べし。

京城の長老教會より分離して一團をなせる者あり。其の源因種々あるべしと雖も、其の主なる者は會内異分子の不折合にして、元來朝鮮の布教は始め賤民に普及し、近頃より少しづつ兩班又稍智識ある者も加はりたるが、故參の劣等者が巾を利かするより新參者の不平となることあり。右の分離も其の事情寧ろこゝにあるよしにして、政事上の意味を含まずと。蓋し眞に近し。

右の如き事あれば、宣教師等の勢力範圍外に鮮人教會を組織すること絶對に不可能の事にはあらざる

べしと雖も、是は穩かならざる分子を含み易く、却つて利害相償はざるべし。新附の同胞を誘掖して進歩開發せしむる點多しといへども、之を概言すれば生活精神の進歩に在り。

韓國往復四週間

十月六日午前八時、新橋發最急行にて西方に向へり。近日秋冷の氣程加はりたれば行李を軽くせんが爲めに冬服を着し薄物をば態と携帯せざりしが、東海道通過中に大いに其の非なるを覺り、名古屋より宿元に申送りて薄物を取寄する事となせり。左れど是は早遅し。實際の必用ある場所には暑さを忍ばざるを得ぬ事となれり。翌る七日の早朝廣島停車場に於て、韓國にて待受らるゝ事と思ひし木原部長に邂逅せり。且つ驚き且喜びて行を共にせり。氏は北陸の特別傳道を助け、思ひしよりは手間取りたり。自分は十一月渡韓すべき筈なりしを急に繰上げて十月となしたれば、斯様の事となれり。七日二時過ぎ馬關に着せしが、釘宮部長等の待受に逢ひ打合せの上、部長は直ちに他の傳道に赴き、自分は今日日滞在し、木原部長は先づ京城に赴くべき事となりぬ。長崎部長中山兄も此の地に轉戦し來りて、今夜の戦線を共にせり。旅宿は日本基督教會の長老富海氏の金波樓にて、舊交を温めつゝ、二日の

間大屈なく働きたり。此の地の傳道我が教會としては未だ十分に手を盡さざる處なれ共、早く好兆を呈しつゝあるを覺ゆ。數年の後には此の地の堡壘の堅固なるが如き防長の重鎮たる一教會を築き上げんこと切禱する所なり。

八日には鐵道ミツシヨンの催しにて、鐵道員の集會に演說せり。運輸課の渡邊金吾氏並驛長の本間氏等を始め、篤志の信者の斡旋なれば都合よき集會なりき。

九日の夕には乗船前に門司の教會を訪問する事となり、急に集會を催はせしが、意外に好集會となれり。定刻壹岐丸に乗込みたれば鐵道部内諸氏の厚意により、船内最上の待遇を受くることとなれり(切符は勿論青色の往復切符なり)。乗客中には木内農工商工部次官、高峰讓吉博士(ダカツヤスマ)及洗禮教會の傳道局幹事パーバア氏、並横濱のゴーリン氏等乗組居りしが、前日來の疲労もあれば、今夜は實際の樂みを犠牲にして休息の益を受くる事となし、淡水温浴の快を取りて(船中に淡水浴とは實に贅澤のことなり、必竟は航程短くして給水の便多きが爲なるべし)、早く寢に就き、翌朝釜山の見ゆる處では夢裡の人となれり。

十日午前八時釜山港棧橋に横付けせり。和裝韓裝入り交りの群衆を見る、皆日語を語らざるなし。脊負木を負ひたる數十のチョンガ等我先にと荷物を争ふは、少しく異境の趣きあれども、見ゆる限りの家屋等は皆大和造にあらざれば洋風なり。卅年前樹林の影を絶ちたる絶影島と同じく、禿頭病にかゝ

れる丘陵山脈は唯依然として韓國の地と叫ぶに似たり。古人曰く、國はドウヤラして山河ありと。此の場合全然當嵌まる言にはあらねど、幾分か其の趣きあり。否猶ほ甚だしき者あり。此の國の山野は四十年前は斯の如き物にあらざりしと。秕政の國土を害すること地震洪水も及ぶべからず。諺に曰く、羅馬は一日にして建設せらるべからずと。然れども羅馬を滅ぼすは半日にてもなし得べけん。穴賢、猛省すべきことなりかし。

木内君が乗車し居らるゝが爲めに、何れの停車場にも地方官の伺候賑はしかりき。大邸驛(京釜間最大の邑なり)にて朴觀察使並久水理事官も出場し居られば、小生にも久濶を叙するの便を得たり。

沿道山河の風景賞すべき者寡しとせざれども、さまで驚くにも足らず。唯屢驚かざるゝは驛名郷名の雅なることなり。例せば三浪津、密陽達城(大邱の縣)、秋風嶺、天安、成歡等の如し。又怪しむ、何んと善くも漢土風に化せられたる事よ。其の語る所の語系は蒙古風にして、漢文とは全く其の類を異にせる者なるに、地名も人名も全く漢風と化して、少しも固有の名残なきに至れるは變化の大なるに驚かざるを得ざるなり。

他事は略すべし。各驛ともに日本家屋の増加したること夥しきなり。京城は殊に然りとす。高きに昇りて京城を瞰下せば、南山の麓は云ふも更なり、市の中央の大通路にも日本サラムが潮の寄する勢もて蔓延しつゝあるなり。南大門は通路を左右に開きたれば一層立派になれり。電車は外國人の所有な

れ共、氣の長さこと三千丈、逆も短氣なる吾々の間には合はずと諦めたり。物事の替り行く最中に電車ばかりはほとんど進化せずとは奇怪なり。人は言ふ、狡猾なる所有者は統監府が辛抱し切れずして高値に買上ぐるを待ちつゝありと。或ひは然らん。水道も某外國人の特權ものにて、既に布設せられたれ共請負人と悶着ありとかにて、何時迄不用になし置くかを知らずと。矢張り何かに甘き考をなし居るにはあらずやと邪推する人もあるよしなり。

十日の夕八時四十分頃に京城に着し、名古屋城内木原牧師の宅に投じて懇待を受ける事となれり。

天氣は日々秋晴打續けり。月は正に圓かなり。氣は乾けり澄めり。朝鮮の秋は聞きしに勝る者あり。天色の美麗なる月星の一際光明かなるを覺ゆ。東海の天には見られぬ趣あり。人は云ふ、全く乾く故に咽喉に注意せよと。蓋し是れ咽喉の強健なる人の語なり。余の如き東京の濕氣に困る弱咽喉には、尤も適當したる空氣なり。嗚呼朝鮮の秋は悲觀を催すよりは樂觀に富めりと云ふべきなり。春夏に殺風景なる山野も、秋には多少の紅葉も目立て見ゆるなり。秋風嶺近邊には諸樹の紅葉せるもの多し。韓國の人心も常に此の秋のごとく晴れて能く乾き活發ならんには、將來大いに見えるべき者あらん。韓國の傳道は甚だ盛んなり。天下無比の趣あり。是れ豈に秋天の光風霽月に類せずや。韓國の國命は春のごとく、夏の如くに見えざるなり。若し此の特遇の秋晴によりて元氣を復活することを得ば、大いに希望を懷いて進行すべきなり。

十一日は聖日なり。朝夕京城名古屋城の教會堂に禮拜説教を勤めたり。會衆は朝五十名余、夜は七十名位なり。多くは信徒又は求道者なり。神恩の日々に深厚なることを認めて感謝に耐へず。

二

十月十二日は韓國の紀元節とも云ふべき日なり。諸官衙は休み、大官等は宮廷に參内せりと云ふ。今夜は日本人基督教青年會の催しに係れる演說會に臨めり。場所は商業會議所樓上にして、演者は學部次官俵君と自分なりき。演說の主旨は韓國學事の概況と人格修養談なりき。俵君の説否寧ろ報告によれば、學部は五十萬圓の國債中其の多分を費して、全國に六十個の模範小學校を設立せりと云ふ。一千萬の人口ありとすれば、日本の比例によれば一百三十萬以上の學齡兒童を有する筈なり。所で六十計りの學校は甚だしき不足と云はざるを得ず。勿論舊來の寺小屋または基督教各派の學校もあるべし。日本の佛教各派、並同文會、海外教育會等の設立せる小數の學校もなきにあらざれ共、兒青年の數より之を見れば、需用の半をも充たすこと能はざるなり。而して或る私立學校中には、全く排日の精神を鼓吹するの目的にて存在するもありと云ふ。是等は大きい朝野の憂慮を促す者のごとしと雖も、愚考なれば是も猶なきにはまざる者なりとす。世界の大事を談ずるの素地となるべき智識を得れば、漸々自他の立場を見分くる事を得るなり。自分は東奥の邊報に生れ、維新已來西南勢力の壓迫を

受けて日々憤懣しつゝ成長せる者なれば、韓國人に同情を抱くには比較的恰好なる者なりと思ふ。韓國人にして氣骨ある者は實に憤慨に堪へざるべし。彼等は先づ第一に自國に對し排斥の心を抱かざるべからず。何れにても現代の大勢に於て、韓國は在來のまゝに有名無實なる獨立の醉夢を續くること能はず。必ず一度は更生の苦を嘗めざるべからず。實に氣の毒の至りなり。我が邦人は戊辰前後の狀態を記憶する者少くなれり。戰勝國民の樂觀中には多くの危險を胚胎することを警告せざるを得ざるなり。

十三、十四の兩日を仁川に費せり。同地に於ける鐵道の設備頗る増大せるを見る。月尾島に架せる半哩半の長橋も其の中なり。然れども港の形勢は振はざるに似たり。京釜鐵道の貫通、群山の繁榮等皆其の變勢を助くる物なりと云ふ。然れ共大連、芝罘、天津、上海等の交通は矢張此の港を使用せざるべからざれば、依然として一の開港場たることは疑ふべからず。

此地の教勢は遺憾ながら一度挫折せり。今や專任者を缺き集會の場所も便利善き所にあらざれば、何とか是等の缺點を補はざるべからず。然れども信者も二十名斗り有り、求道者もあり。他の教派にして盡力しさうにも見えず。さればどうしても我が教會の重荷として好運を迎ふことに盡力するより他なきことなるべし。十三日は民團議院選舉の當日にして、翌曉迄も選舉場は賑かなりき。此の地の警察署長宮波氏は同郷人なり。理事官の信夫氏も曾て面識あれ共、僅かに訪問の禮を取れるのみにし

て、閑談の違なかりしは物足らぬ事なりき。

十五日は京城に歸り、直ちに韓人青年會を訪ひ、總幹事ブロックマン氏京城幹事金氏等に導かれ、新會館を一覽せり。建築といひ地所と云ひ頗る佳良なる者なり。東京會館に比して便利なる點も數々ありと見えたり。北京の新館は如何にならん乎知らず。今日の處京城會館は東洋第一ならん。

今午後名古屋城内婦人會にて一場の演説をなせり。三十名斗の令嬢夫人の集會は頼母しく見えたり。

三

十月十六日早朝、南大門を發し平壤に向へり。好晴なれば途上に秋色賞すべき者少なからず。去年は松都(開城)に立寄りて南美ミツシヨンの病院敷地ならびに同學校(伊致吳氏管理に係る)の敷地等を實見せしが、頗る高燥にして廣き地積を有せり。本年は多分建築物も顯出せしならんと思はるれど、時日なきが故に下車せず、残り多く感じたりき。午後三時過ぎ平壤に着せり。何時もながら大同江の沿岸及び遠望の景は賞觀の價值ある者なり。村田牧師の案内にて昨年如く、丘上のドクトル、フルツエル氏方に寓すること、なれり。午後七時半より新市街民團役場の樓上にて演説會を開きたり。七十名の聴衆にて先づザツト満場なりき。

同十七日は午前十時より新會堂定礎式を執行せしが、組合の山田牧師、理事官菊池武一氏、民團長代

理平野某氏、長老派美以派の代表者、宣教師諸氏の祝辭等あり。終りて日本クラブにて茶菓の饗應あり。新しき教會としては盛會なりき。敷地の位置は始め齋藤氏より寄附せられしは市街内部なりしも計畫の進歩に従ひ狹隘を感じ、數百圓の足金をなして市の西端なる高地と交換すること、なれり。此の地は丘岡の一端にして今は隣家もなければ、小學校の通路に當り且つ近き將來に開かるべき鎮南浦街道に接近するなれば、教會としては都合よき處となるべし。本年は最早時節も遅れたれば、牧師の住居に充つべき部分だけを建て上げ、本會堂は明春に至り建て上ぐる事となるべし。然る上は韓人教會の如く大ならざれば、余程氣の利きたる一會堂となるべき見込なり。

此の夜鐵道クラブに演説會を催したれ共、種々なる衝突にて多數の聴衆を得ること能はざりき。

十八日は前十時より新市街壽町假會堂にて禮拜説教を勤めたり。七人の受洗者あり。木原部長の執行を助けたり。主の晚餐をも執行せり。

此の聖日には韓人教會を訪問する事能はざりしも、昨年よりも一層盛大になり、今は平壤内に八千の信徒ありと云ふ。昨夜歸途數組の日曜學校教師の準備會の解散して歸路に在るを實見せしが、思ひ合はして其の盛大を知るべきなり。

今夜は例會にて木原氏と共に説教せり。求道申込者四名ありと云ふ。

同十九日觀察使書記官檢事長典獄警察署長等を訪問せり。理事廳に理事官を訪ひ、建築の事に關して

協議をなせり。菊地理事は深き興味を以て助力を與へ、萬事肩を入れて盡力なし吳れば、意外の便利を得ることなれり。

今夜も假會堂に演說せり。求道者十名ありと云ふ。同廿日午前教友及有志者を訪問し、午後鎮南浦に向ひて平壤を辭せり。二時發車して黃州にて乗り換へ、兼二浦に至り、同處より常磐丸に乗込み、流を下りて南浦に急げり。大同江の秋色筆舌の及ばざる者多し。午後七時鎮南浦着松田氏の家に投じ、新設の講義所にて村田氏司會し、木原氏と共に説教をなせり。

同廿一日、此の日早朝濃霧あり。秋氣の老いたるを知る。飛渡島の公園を徘徊し又魚市場を見るに、潑瀾たる大小の鯛數千尾場の床を蔽ふ、見事なる物なり。而して之を漁せる者、競る者、買ふ者、皆日本人なるを見る。韓人は指を咬へて傍觀するのみなり。奇と云ふべし。亦氣の毒と云ふべし。然れ共三十年を顧みれば、日本の沿海には一隻の定期航海船なくして、外國船に便乘して横濱より北海道に往來せる實驗もあり、左まで不思議なる事にもあらず。

今夜も講義所にて演說せしが、昨夜よりは廣告も行届きしか滿堂立錫の地なしと注せられたり。三十七年戦後中に此の地に來りしが、今は非常の變化にて理事廳民團役場小學校等も整備し、市街も相應に立派にして嚴然たる日本の開港場なり。但し戦時の發達は自然を欠くもの多ければ、今は發達鈍くなれりと。左もあるべき事なり。

四

十月廿二日、黃州驛にて村田氏に別れ、京城に歸る。爾來廿六日京城を發して歸朝の途に上るまでに記すべき程の事は先づ相替らず好天氣の續く事なり。廿四日には大韓醫院の開院式に招待せられたれば、木原氏と共に借物の絹帽にて集會せり。該院東門内昌德宮に近き邊にて高陽の地に建てられ、京城の一名勝をなせり。東京澁谷の赤十字病院よりも遠望の便ある故に、一層引立て見ゆるなり。其の廣さも設備も、劣るべくも見えざるなり。廣庭に數千人を容るべき天幕を張りて、式場兼會堂となせり。勅語の奉讀もあり式辭等中々の盛典なりけり。園内には歌舞あり、摸擬飲食店あり、園遊會の趣向具さに盡せり。中に妓生を擁して散歩する絹帽の韓紳士も見受けたり。是れ抑韓國の習慣乎。若しくは或先進國の園遊會に此の例を示せる者ありて、鋭敏なる韓國貴公子が早くも此の實物教育を實習したるにはあらざるや。其の功罪は先進國紳士の分取すべき所ならん乎。此の夜龍山鐵道青年會の招きに應じ演說をなせり。鐵道部は結構なる場所を給して斯會の便利を圖れり。否寧ろ斯業に従事せる青年の利益を圖れり。是ん豈に他人の爲ならんや。其の業務に忠ならん者は其の執業者の利益を圖ること、斯くありてこそ其の本意叶ふと云ふべけれ。

廿五日の日曜には久しぶりにて降雨せり。道路の悪しきには無頓着なる能はざれ共、幾分の濕氣は却

て快感を與ふるものなり。今日教會禮拜説教の後、基督教青年會總幹事ブロックマン氏の午餐に招かれ、午後は韓人基督青年會に演説をなせり。聴衆は二百人計ありしならん。雨天に此の多人數を集めたるは大成功と云ふべし。由來韓人には雨程恐るべき者なし。然れ共時節の進運と共に器具を用ひて、此の惡敵に抗する事を勞苦とせざるの風を生ずるに至れるは頼母しき事なり。予の爲めに通譯せるは教會の青年教師玄氏にして、氏は曾て東京にて某中學校を卒へ、後布哇に渡航せり。日英共に自由にする人にして、音吐朗々力ある演説をなす人なり。蓋し予が演説は幾倍乎の勢力を得て聴衆に達せしならん。今日の聴衆は多く信者なりしが、元來此の青年會には千數百人の會員ありて、過半は半信者なりと。されど此の中には色々なる持論の人あるべし。動もすれば政論に傾かんとするの批評を受くることある怪しむべき事にあらざるなり。然れども是れ青年會の本旨にはあらざるなり。幹事諸氏の深く此の點に注意するは疑なきことなり。

廿六日には早朝木原部長と同伴し、南大門を發して東に向へり。午後四時大邱に着し、柏村美輪國廣等の信徒諸氏に面會せり。此の地に數名の信徒ありて、其の多數は美以派に屬する者なり。此の夜朴觀察使親しく我が旅宿を訪はれ、明日の事を約し去れり。氏の謙讓虚飾を用ゐざるは全く日本留學の結果なりと雖も、抑亦舊弊を一洗せんとするの一大決心を示さるゝなり。聞く五六年前李完用氏が觀察使として大邱に乗り入るや、其の行列數町に達せりと。勿論與なくして門を出づることあらざるべし。

然るに朴氏は一僕に蠟をとらしむるのみ。徒歩日人の旅館を訪ふ。其の簡にして便なる膏壤の差のみならずと云ふべし。

翌廿七日朴觀察使に導かれ泥路を歩みて市街を一週し、長老教會の宣教師スルミア、アダムスの兩氏を其の宅に其學校に訪へり。此の市街舊來丈余の城壁に取圍されたりしが、前朴氏郡主たりし時英明を以て之を毀ちたり。今は輪狀の廣小路となれば、將來市街發達の利益計るべからざる者あり。朴氏の邸宅に理事官、法官、軍人、日本人の代表者たるべき人二十餘名を招きて、午餐の宴を開きたり。朴氏曾て青山に客たりし時、予が家族と共に味噌汁を啜り澤庵をかじりしことあり。今や食前方丈漂母に報ゆるの觀を免れず。敬服又慚愧に堪へず。右宴會開席の前別室に於て特別に朴氏の北堂と令夫人に紹介せられたり。北堂は溫雅清秀にして品格ある老夫人なり。音聲亦自ら朗かにして氣高し。曰く、此の子を生みたるは吾身なり、此の子を賢ならしめたるは先生なり、感謝に耐へずと。亦辭令に巧みなりと云ふべし。聞く郷黨夙に賢母の稱ありと。蓋し然らん。午後四時大邱を發するに臨み、農工商工部大臣病を養はんが爲釜山に行かんとして車中に在りと。是れ即趙重應君にして、曾て久しく日本に亡命し、青山の宅をも訪はれしことある人なり。其の患を問へば神經衰弱なりと。今の政を爲す者は勞苦多し。特に韓政府に在る者此の病あるは寧ろ當然の事ならん。同情に堪へざるなり。國歩艱難の時に當り、要路に立ちて重きを負ふは難いかな。魏徵曾て忠臣ならんことを願はず、良臣たら

んことを願ふと云へり。韓國の爲政治家は忠臣たらんも、良臣たらんも、共に甚だ難きを感じるなるべし。

廿七日後六時過、釜山棧橋にて木原氏に別れ、同夜八時半會下山丸にて馬關に向へり。

廿八日朝六時半、馬關上陸九時半山陽線列車にて小郡に着せしは十一時なり。直ちに山口に赴き高師佐々木文美君の客となり、二日間山口メソヂスト教會に傳道せり。此の間羊牢會の懇親會高商の講演等にも與かれり。山口に來りしは二回目なれども、第一回は一泊をもなさざりければ、市街の半面をも知るべき様なかりしが、此の度は小閑を得て香山園並龜山公園等に登臨し、昔時大内家の規模を追想し、今代毛利家の經營をも望見することを得たり。今の山口は一見しては寧ろ聞きしに劣るの感なきに非ざれども、其の昔を懐ひ又其の四周の地理形勢等を案ずれば、今とて決して無味なる者にはあらざるなり。況んや明治の御代の大關係ある人物の緣故淺からざる者あれば、士を養ひ風を興すに於て大いに重んずべき者あるを信するなり。願くは教會の根柢一層深く其の枝葉大いに繁茂して、防長二州の蔭をなさんことを切に祈る所なり。

三十日山口を辭して東行を急げり。三十一日早朝名古屋に下車し暫時關澤部長と閑談し、八時同地を發し豊橋に下車し、吉田驛(豊橋驛と並ぶ)より和田秀實氏と共に長篠に向ふ。是れ此の線の極端なり。此處より雨中馬車に風景美しき山峽を過ぎ、三里餘にして海老町に達す。原田小林の兩兄弟に面會し、今夜

の演説に付打合せをなせり。聴衆は二十餘名もありつらん。雨こそ今日の敵なれと思はれたり。

十一月一日は昨日と變れる好晴となれり。谷間なれば未だ朝霧の晴れやらぬ八時頃、馬車を驅り立て長篠發十時廿分の汽車にて新城に至り、後二時十二三名の信者と共に今日の禮拜を共にせり。

昨日は長篠の古戰場を挟みて傳道をなせり。豈に懷古の情を懐かさらんや。武田諸將の忠諫を偲び鳥居強右衛門の忠死をも慕ひ、山縣猛將の戰死否寧ろ憤死を憫み、總て之を觀れば武田の敗亡、織田徳川の勝利皆其の故あり。嗚呼、此の街道は武田軍の敗走せし處、又織田徳川勢の長驅して凱歌を唱へし處なり。我が傳道の將來は甲軍の運命を取らん乎、將尾參連合軍の運命を迎へん乎、慨然たらざるを得ざるなり。

此の夜豊橋教會に於て説教を勤め、十時過同地發の列車にて東京に向ひ、二日午前七時四十一分新橋に着せり。(明治四十一年十一月)

朝鮮視察記

朝鮮美以宣教廿五年記念祝會は、十一月一日午後二時より李花學堂(女學)の講堂に開かれたり。始め午前十時よりの豫定なりしが、英國教會監督ターナー氏の葬儀と時日衝突することゝなれりければ、午前を午後として翌二日の午前まで及ぼせり。而して其の執行順序は時節柄を遠慮せし爲か、朝鮮人

側の祝賀は三十日の日曜の集會に其の意を含めて之を濟まし、宣教師側の分丈け特別に一日二日の兩日に執行する事となせり。委員の報告は歴史、教育、傳道者の個人に關する事、醫療に關すること等種々ありたれども、要するに左の略統計は其の概況を窺はしむるに足る者あり。

	一八九三年	一九一〇年	増加
志願者	一七三	一八、一三四	一七、九六一
正道員	六八	六、五九〇	六、五二二
求道者		二五、二七六	二五、二七六
合計	二四一	五〇、〇〇〇	四九、七五九
定住傳道者	四	五〇	四九
勸士	七	一六五	一五八
朝鮮人年會員		一八	一八
同執事		一二	一二
同長老		二	二
同學生		一五〇	一五〇
神學給金	一八、九五二		一八、九五二

生は十一月五日京城を發し平壤に赴けり。途中開城驛よりガウチヤ、ゲームウエル、ノープルの三博士も同車せられたり。有吉總務長官も乗組み居りて、朝鮮現狀に就て色々話合ふ便宜あり。平壤にては和田純兄（津田仙君の三男にして判事なり、幼年にして受洗し、近頃平壤日美教會に入會せり。令夫人花子は英學塾の出身にして、一昨年受洗入會せり）の宅に投じ、懇待を受けたり。

平壤教會は唯一の日本人教會堂にして、伊藤公記念物と云ふも可なり。遺憾なるは豫定の道路改修未だ實行せられざる爲め新市街への往來不便にして、夜の集會には殊に來會を引付くること能はざるの嫌ひあり。然しながら之あるは無きにまさること萬々なりとす。六日には堀君も來着せられたれば、三日間の連夜説教會を實行することを得たれども、七日は雨天にて一方ならぬ妨となりぬ。

八日には鎮南浦に赴きたり。此の地の講義所は一旦閉鎖せしよしなるが、今は三和通の便利なる處に出で働きの爲めには都合よき趣きなり。此の道の運動を二日となしたれば、九日には自分のみ黃州に移り、堀氏は南浦に留ることゝなれり。此處にては松山氏の客となり舊交を温めたり。

九日は雨天にて急に冷氣となりしが、黃州にては森口氏の客となれり。俱樂部にて説教をなせり。會衆は少なけれども裁判所、大隊本部等より出席ありて、雨天にもかゝはらぬ盛會と云ふことを得べしとなり。過日より咽喉の工合宜しからざるに加へて、頃日の天氣不良と働に少々無理ありしにて咽喉の故障俄かに其の度を進め、翌日はとんと發聲出來ぬ様になり了れり。開城に一泊して堀木原兩氏と一所になり同所の働きは兩氏に任じて、十一日には一同京城に引上げたり。

十二日には懇親會出席と演説の企ありし由なれども、演説は斷りて懇親の會食丈け押して出席せり。此の會は日韓英亞四國民族の代表的信者會にして四十名許有之頗る良好なる會合なりき。諸氏より同

情深き歓迎の辭をも受けたれ共、沈黙の自由を許されて答辭をもなさず、謹んで御馳走を認め満足の微笑を呈するに止むるより致し方なかりし也。

爾來一週間木原氏の樓上に立て籠り頻りに加養致し居候得共、未だ意のごとく談話をなし兼ね候體なり。然し少々づゝ恢復致し候間、數日中には緊要の訪問丈を濟まし徐々歸途に上り可申候。

朝鮮の模様を概言すれば、先づ沈靜平和の體をなし居り候と認められ候。何を申すも併合發表後僅かに三ヶ月と申すことを忘れてはならぬ。未だ何とも評語を下すべき時期にあらずと存候。

總督府にては建増最中に候。各部を可成一所に纏めて事務の敏捷を圖るとの事に御座候。

朝鮮人中の特別傳道は盛んなる由に御座候。又特別と云はず平生のまゝにて依然盛に御座候。過日臨席したる平壤長老教會午後の集會は一千五百人の出席にて、献金六十圓許有之候。又此の教會の維持致し居る一小學校は、一年の經費三千圓にして二千圓は授業料より得れ共、千圓は教徒の寄附に候。

校監は曾て東京に學びたる青年にして小生の知る人に候。右は少しも修飾なき事實に候。併合成りて教勢衰ふ採とは妄言に候。或は自然多少の影響ありとすれば、却つて雷同者を除くの好方便とならんも知るべからず。寧ろよろしき方なるべしと存候。

或地方にて朝鮮人間の教會餘り宜しき爲めに、居留日本人の妬心を喚起し、吾人の傳道に困難を加ふる氣味もなきにあらずと承り候。蓋し然らんと存じ候。

某官邊の言には曾て妄慢粗暴なりし居留民又小吏等も我が物となりては同情を起し、朝鮮人に對する態度一變せりと、誠に佳音に候。どうぞ此の様の事、永く續く様にいたし度事に御座候。

又聞く、或工事場にて人夫の小頭が鮮人を「ヨボ〜」と呼ぶは氣の毒に感せしが「ヨボさん」と呼び始めしとは近頃の滑稽に候が、一寸今の人氣を表はしたる者と存候。元來朝鮮語「ヨボ〜」は日本語の「もし〜」と同じ様なものなるを、日本人が朝鮮人の異稱のごとく心得て居る者多きは、是れも大いに普通の滑稽に御座候。

朝鮮にある日本人の傳道は實に急務に御座候と同じく、日本に在る日本人の傳道また甚だ急務に御座候。若し本國に於て基督精神が普及し居らんには、新附の版圖にも外國の移住にも言ひがたき勢力と便利と甚だ多からん事は智者を待ちて知るべきことにあらずと存候。吾人の傳道事業は宇宙的精神世界の要のみならず、又個人的靈魂の救拯のみならず、實に國民的發展福利の爲にも甚だ緊要に御座候。米國の信徒傳道運動に於て、或論者が熱心の餘り、外國傳道が外國貿易に大關係ありと慥したりとて非難する人もあり。慥かに議論になる事とは存じ候得共、決して虚構の説にはあらずと存候。基督精神が國民發展を大目的として傳へらるゝ者にあらずと駁せらるゝ人ありなば、是れも議論否寧ろ高論なるやも知るべからざれども、去りとして基督精神が國民發展に大關係あることは虚構の言にあらずるべしと存候。國家衰運の場合に於ては反省と共に考慮すべき點と存候。視よ、日本國民は發展せざ

るべからず。否發展しつゝあり。然るに其の前途を遮りて屢困難を感せしむる者は外よりする物のみなるか、將内より湧き出るさびの多きには非るか。外よりする物は他を咎むるの理もあらん。内より湧き出る者をば誰か之に任ずべきや。朝鮮の統治と進歩とは大日本の世界に於ける大試験なり。國民發展の消息は蓋し此の一大案に在り。而して何人も之が爲めに一指の妨をなすものなし。列國は高棧敷にて見物しつゝあり。嗚呼之を如何せん……日本國朝野の責任甚大なりと云ふべし。之を思へば未だ萬歳を高唱すべき時節到來せざるなり。吾人よろしく謹慎努力天助を祈るべきのみ。謹言。

(明治四十三年十一月廿日、京城にて)

(三) 歐米之部

遊西記事

明治三十三年六月二日、天氣清明なり。朝五時起床して旅装を整へ、六時半澁谷停車場に到れば青山學院同女學院同手藝學校の職員生徒諸氏、學生、青年會中央部諸氏、修養社諸氏、東京美以各教會牧師諸氏、東京青年會、大日本海外教育會本部諸氏、其の他知友親戚並家眷長幼の見送りにあづかり、

七時五分の定刻には淺からぬ感を以て出立せり。列車の動き始むるや、忽ち誰殿やらん萬歳を唱へられたれば、忽ちに和聲どよめきわたれり。斯様の場合には常の事となりつれば、其の好意を享けぬにはあらねど、己れは平生萬歳の祈語を以て常人を祝するは古き禮に當らず、今の秩序にも如何あらんと思ふ者なれば、我身の爲と覺えては少し興さめたる心地せざるにもあらざりき。歐米人はよく祝聲を以て人を送迎するの習を有すれ共、ホラホラと云ふ様なる響にて萬歳と云ふ意味にあらず。萬歳は東西古今共に國家の至尊を祝する爲めにのみ用ふる事禮なれば、祝聲を發するの習は採るべし、萬歳の語を用ゐずもがなと感せられ候なり。

列車は七時二十分餘りにして品川停車場に着せり。此處にて新橋よりの列車を待ち受くる間に、三好退藏氏、鶴飼猛氏、元田作之進氏等見送られ、井深梶之助氏には一行に加はりて横濱まで同行せられたり。待ち受たる新橋發列車は來れり。中等室は充滿して初は坐席を得難き位なりき。其れが仕合の種となり、一等室に入りて謹責なく、横濱に達せる人も我が一行にあり。僥倖と云ふべし。横濱停車場にて木村中學校長(繁四郎君)原誼太郎君等の迎ふるに打連れて海岸通郵船會社支店に至れば、結構なる控所に請せられ十時になりければ小蒸汽にて阿波丸に送られたり。斯くして旅店の出入もなく失費もなく、殊に手荷物の吟味免狀の検査等の手數更に無く無事安閑として本船に上れり。余曾て之を知らずして態々旅店の世話になり。失費を懸けし事の愚かなりしを知れり。誰も心し給ふべき事にこそ。

汽船阿波丸は日本郵船會社第一の大船にして全長七十五間噸數六千三百噸、昨年長崎の三菱造船所に竣成せる美船なり。一切の代價一百万圓、乗組百二十人餘、一日の經費一千万圓、船長及運用機關の重なる職員は皆外國人なれ共、事務長は弘前東興義塾出身の村上雄次郎氏、事務員青山學院出身の宮下龍三氏なり。生が身の上を知り給ふ讀者は此の船の如何に生に適せる者なりやと想知するに難からざるべし。此の行吾人乗客の爲には甚だ幸ひにして、上等乗客の歐洲に直行する者二人（中に自由黨の櫻井駿氏あり）、中等には生一人（四五の乗客あれども皆神戸までなり）のみなれば、四人入の室に唯一人とは餘り結構過ぎる様なり。併し途中よりは乗合も増すべし。香港よりは支那學生青年同盟の總代として南京高等學校の教師マツング氏（黄？）も乗込まるゝ積りなりと聞く。阿波丸の代價一百万圓、經費毎日一千万圓と聞かば、讀者何と感ぜらるゝや。或は一才大いなるに驚かんと計るべからず。然れども之を不生産的なる軍艦に比せば、船體の大小を以てすれば一千万圓以上の戰艦と雖も、阿波丸には及ばず。況して人員は少くも二百人多きは三百人餘なれば經費の大なるは云ふまでもなし。軍備の今日に必要なるは云ふ迄もなけれ共、其の國民の重荷なること又驚嘆に堪へざるなり。軍備擴張の經濟界に影響せること怪しむに足らざるなり。

正十二時に横濱を解纜せり。天晴浪靜かにして、婦人小兒に至るまで船病の憂ひ絶えてなさは幸ひなりき。午餐中に觀音崎を過ぎ、忽ちにして三浦の城ヶ島沖に達す。之まで後を追うて來りし東西洋汽船會社のドウリック號は道を左に取りて東を指し、影も最早小く見ゆる事となれり。我が阿波丸は大島を左にして駿々遠州灘に向へり。此の邊よりは伊豆諸山と富士の眺よき處なれど、霧立込めて濛々たるは遺憾の事なりき。夕八時過ぎ御前崎を過ぐ、遠州灘茫茫たり。幸ひにして浪靜かなること晝に異ならず。九時には疲勞を覺えて寢に就けり。

三日曉天五時甲板に上れば、天氣の清明なる昨日にも勝れり。船は既に紀州熊野沖にあり。陸を距る僅かに數里風光の明媚なる眞に娛しむべきなり。汐之岬日之岬等を経て和歌の浦を過ぎ正午には苦ヶ島即ち紀淡海峡に入る。海峡の堅め或は未だ馬關及東京灣口の如く全からざるやも計られざれども、既に相當の設備あるは素人目にもト知せらるゝ也。茅渚の海の風景は拙き言葉もて云はぬ方却つて勝らん。暫らくにして摩耶山の緑に迎へられて、神戸灣内深く碇を投せり。時は三時半頃なりき。此の地に上る人々は急ぎて上陸したれ共、己れは何の急ぐべき事もなく晝間は餘程温度も高く覺ゆれば、六時頃までは獨り甲板に止まりて徐かに心身を休養せり。夕飯を済まして上陸し、下山手通五丁目の美以教會にて晩の禮拜に臨み、牧師の説教濟みたる後少しく感話をなして留別の語に換へ、北長狹通中別園に投じて二三の教友と款談し、十一時過ぎ寢に就けり。

四日早天此の稿を脱し、是より大阪に赴かんと欲す。阿波丸は來る六日正午神戸を發し、再び紀淡海峡を出で、土佐沖より香港に直航せんとすれば、香港までは記すべき事もあらざるべし。（六月四日）

二

第一報は六月四日神戸にて認めたりき。四日と五日とは神戸と大阪に知人を訪問せり。然れ共始め思ひし半にも達せず、残り多く覺えたりき。四日の夜は大阪の木村靜幽君の客となり、夜更くるまで語り合ひき。五日は午前神戸に歸りて農工銀行の伊藤俊介氏（東京にありし時學生青年同盟の爲に一方ならず盡粹せられたれば、余が此の行に就きては偶然ならざる關係もあるなり）を訪ひしが伴はれて、音羽花壇に午餐饗應せられぬ。數時間語り合へり。晚餐は三井銀行の間島氏の主唱にて自由亭に席を設け青山學院の連中とて集まれるは佐藤信孝氏、關某、上領某の諸氏にして、大阪よりは米山梅吉氏來會せり（米山氏は舊知なれども青山出身にはあらず、氏の内室春子姉は青山女學院の出身なれば是も又淺からぬ縁故なりき）。最後には我が阿波丸の事務長村上雄次郎氏も來會せらる。氏は東奥義塾の出身にて余と共に東奥紳士を代表する事なれば、爰に集會は一層廣く又深き者となりて、一見皆故の如く談笑涌くが如き刻もありき。華人會て云ふ『衣不_レ如_レ新、人不_レ如_レ故』と是れ尋常の歡のみ、何ぞ必ずしも故を尊び新を疏んせんや。

五日の夜は神戸郊外殆ど一里摩耶山麓なる關西學院々長吉岡美國氏宅に投じ、新を語り舊を追ひ深更

に到れり。翌六日は午前八時より關西學院の講堂に於て始業式に列し、便を得て同學院の青年會員に別意を告げたり。九時同院を辭して神戸市に出づれば、右學院長并青年會の代表者數名は波止場に送り『神汝と伴ふ』なる訣別の唱歌を以て相別れたり。是れ即ち日本學生同盟の一部にして最終の送別者なり。余は謹んで全同盟の代表として之を欣收し同じく其の唱歌に和して留別の意を寓するなり。

此の日は晴天なれども港内風浪甚だ高くして、本船に達する間には度々潮水を被れり。大阪より貴田庄助氏、神戸の木村虎三郎氏、伊藤俊介氏、本船まで見送られたり。

阿波丸は定刻正午十二時を以て解纜せり。乗客は上等に増減なく、中等には一の英國婦人と大阪商人の香港に行く者と新たに乗込みたれ共、神戸上陸の中等五人と差引すれば三人の不足を見る。

船は見る／＼摩耶山を離れたり。和田の岬の阿房臺（維新前に勝安房守が築造せる圓形の砲臺にして實用に適すべしとも見えねば、時の人之を阿房臺と嘲けりしとぞ。偶然勝氏の名（安房）にも通ふとて、旅人は笑壺にいりて唱ふるなりとぞ）を忽ちに遠く、須磨明石をば得訪はで、遠く名残を惜しみつゝ午後二時には早や紀淡海峡を通過することゝはなれり。此の度は前回よりは淡路島に近く路を取りければ由良の要害は能く見られたり。東京灣とは異りて幅も狭ければ、兩岸の警備も一層其の効果著しかるべしと、素人ながら（或はなればこそかも知れず）心強く覺えける。船は既に外洋に出で左方には遠く熊野の連山を望み、右には阿波の諸山を眺めたり。阿波の鳴門が見ゆるとも見えぬとも云ひあへ

る内に、船は猶豫なく沖へ出でたり。我が船より一湮許り引き下りて後を追ひ來れるは、同じ會社の一等汽船にて、是まで同じ針路をとりしも、彼は今より左に折れて横濱に向はんとする鎌倉丸なり。彼は左し我は右して土佐沖に進めり。互ひに汽笛を吹きかはして一刻一時と遠ざかり、遂には煙も見えずなりけり。風は吹き頻りて浪も高ければ、女々しき様にはあれ共晩の食事は廢止せり。夕刻よりは地方は全く見えなくなりければ日の暮るゝを待ちて皆々寢床に上り、唯明くるを待つ許りなりけり。六月七日は明け放れて麗かならぬにはあらねど、風浪は未だ昨日の名残を留めて穩なりとは言ひ難かりき。されど寝ざめのよかりしは、右舷數里の内に地方ありて、大小山岳奇を競ふに似たり。島嶼あり、灣あり、草木の色さへめでたくして、岸には白浪霧をなすばかりに躍り狂へる様、得も言ひ難き景色なりけり。して此の邊はと問ふに、答へて此は日向大隅の境目あたりなるべしとの事なりしが、是より絶えず先より先、次より次と景色新にして、晝頃には、半島の峰稍低き處より突兀として顯出せるは駿河のにはあらぬ薩摩富士にして、本名をば海門と呼ぶなる名山なり。陸の奥の津輕富士を誇らん人は

富士見ずば富士とやいはん陸の奥の岩木の嶽の雪の曙

を引きて自慢の勢援となせども、定家卿（もし此の歌にして眞に卿のものなりせば）にして、一度薩摩に下りし事あらば、恐くはこれ海門のものなりしならん。扱て彌々船の進み往くまゝに、右舷の沖

にも一の大島嶼見えたり。是即ち種子島なり。忽ちにして前面を遮ぎるが如く見えしは名に負かざる硫磺島にして、頂よりも腹よりも腰よりも、滿山皆火ならんかと疑はるゝ程に雲煙立上り舞ひ擴がる有様は、奇乎又壯乎。とかうする間に一層高く大いなる峰の徐ろに煙を吐くものに目當れるは、一つのみか二つ三つあり。是れなん屋久島、口の永良部、沖の永良部等なりき。己れは元來此の邊の地理に暗く生憎よき地圖をも携へざりし故、名を定めかねたる島も多かりしが、此處に連想するを免れざりしは薩摩瀧に月照と男心中をなせる西郷、大島に又夫等の島に孤囚たりし西郷、遂に風雲に際會して王政復古の名物となれる西郷、再び故山に引籠り又々隼人の荒男共と城山に心中を遂げたりし西郷の如き人物は、何様薩南山水の精とも云ふべき歟、薩南山海の景色ほど壯大にして、亦秀麗亦奇變なるものは甚だ稀なり。此の精たる者亦稀有なるべくして衆多なる可からざるは、自然の數ならんか。然れども余は今既に薩南山水の精なりと言へり。山水は何處までも山水なり、形而下の物なり。之によりて心を養ひ練るものは、ドコまでも自家中心にして自尊獨立に歸するより外あらざるべし。若し西郷の資質を以て秀山麗水の背後にあるもの、否其の上に超越し其の内外に遍滿し、虚なるが如くして實なる、現在にして而無限なる、靈にして神なる絶對者に接觸し、其の前の責任を擔ふことを知るの日ありしならば、其の終りは果して如何なるべきか。否彼は今猶吾人は二十世紀との人として、世界中稀有の先輩として、東洋の一大名物たること一大正氣の源泉なること疑ふべからざるものあらん。嗚

呼西郷は遊けり。山海は未だ盡さず、山水は盡くる時あらん、惟山海の主は亡ぶことあるべからず。後の西郷たらんもの宜しく山海の主に接して、以て其命を聞くことを勉むべし。徒らに西郷を學ぶものは恐くは虎を描いて狗に類するの嘆をなさんのみ。

記事は横道を辿れり。歸らんと欲して既に遠く且つおそし。寧ろ明日を期して再び記する所あらん。明くれば六月八日、船は針路を轉じて漸く西南に赴き、風は甚だ強きにあらざれども、常に逆風なりければ、此の征客をして常に不快の感あらしめたるも是非なき次第なりけり。四面茫洋として際涯もなく、船もなく島もなく、一物の目を娛ましむべき物なかりしは此の日の全景なり。趣味を附せんと欲すれば、其の大を觀じ其の閑を貪るとも云ふべきか。椅子に倚りて書を讀まんとすれば、勿ち睡魔に襲はれ、幾時間ありても同じ頁を玩味しつゝあり。さりとて暗誦し得可きにもあらず。是は一は季候の賜物にして、毎日毎時其の度を加へつゝあることなれば、出立前に豫想せし勉強の五分も六分も算盤違ひとなれるはをかしきことなり。

船長の偶々我が甲板を通過するに逢ひければ、此の邊は何處ぞと問ふに、答へて琉球の沖に當れり、見られよ、左舷の遙か東南の雲は何れ陸地のある模様とぞ見ゆるをと思ひるが如くして過ぎ去れり。嗚呼琉球可憐沖那覇是れぞ二十年來一度はと思ひて遂に其の機を得ざりしところなり。山も丘も今見えざれ共、支那海中の一大問題たりし一小群島、然も布哇よりも大なる人口と久しき歴史とを有した

る小王國は、今は我が版圖内にありて、東洋全般の爲に宜しきを得たりし經過をなせりと云ふも、是れ十が七までは日本人の氣休め話にして、我等が慰めらるゝ丈け、其の割合にて心を傷め思を惱まし、其の厄運を悲しむものあらん。西にも東にも斯かる事の止むを得ずして起る事やみがたきは是非なしとは言ふものゝ、果して止なきと否とは萬事の隱微を明知する心にて、始めて眞の審定をなし得べしとす。左れば入事として抽象的の理論動もすれば跋なる理論に空頼みをなさんよりは、精勵克己徳を立て智を研き、實力を具へて經綸を盡し、始めて公明正大なる判定を待つ價ありとすべし。徒らに誤謬に陥り易き理論と頼みがたき人情に訴へて、貴重なる運命をトするが如きは愚と云はざるべからず。嗚呼是れも亦茫洋夢裡の小言に過ぎるなり。今宵は月未だ圓かならざれど、既に彎形の成れるを見る。金波人を射て寢室に入ること許さるるに似たり。夜半漸く寢に就く。夢の記すべきなし。六月九日午前五時、寢室を出れば朝氣清爽、風なく浪靜かにして水面宛ら鏡の如く、本日正午までに經過せる距離二百八十八哩、船は今北緯二十六度經百二十二度にあり。午後二時東方に當りて模糊たる間に一大山派を見る。又西方にも雲煙のごとく地方あるを見る。前なるは高砂の臺灣なる北端基隆淡水の間なる富基角にして、後なるは支那なるべしとは、某運轉士の教ふる處なり。漸く彼の山に近づきては、又其の先前途に連るもの見え、新高山如何など、素人話を語り續けて、暮色蒼然たる頃なつかしき高砂には次第に遠くなり、大陸の煙りはいよゝ山と極りて、月の一層明なるを賞しつ

、夜を惜しみて寝に就けり。

此の日午前十一時常陸丸に邂逅せり。彼は歐洲より家郷に向つて急ぎつゝあり。我は征途に上りて郷關の情將さに起らんとするの時、旗と汽笛とに迎へ且つ送りて別れたるは、興ありとも亦凄しとも人の感ずるにまかすべし。

六月十日は日曜日なれ共此の船には何の異状もなし。一人心計に禮拜を記憶して讀物杯の選擇に注意せるのみなりけり。正午には北緯二十三度にあり。東經は記せざれども、殆んど同じく、距離は二百九十九哩、此の日は早朝より大陸南清の地方に接近して丸山の燈臺去れりと見る内に、亦連山の漸く青色を帯べるを見る。午前十時には驟雨襲ひ來り、忽ち晦冥四塞の中にありと雖も、消暑の効能著しく人皆生意を増せり。雨晴れ嶋嶼出沒し、燈臺隱顯して南清の好風景を想はしむるに足るものあり。今夜は乗船以來の日本食にて、味噌汁、さしみ、なら漬、味噌漬、福神漬、ラッキョウの酢漬、何れか旅情を慰めざる。御茶漬何碗の如きは、白狀せずとも強ち道德上の問題となすに足らざるべし。余輩は今日日本の領海の外に出でたり。北緯五十度と二十二度の間、東經百二十度より百五十五度に達するまで、斜に蜿蜒たる二千哩餘の島帝國を離れたり。明日は其の領地に日没なしと謂はるゝ英國政府直轄殖民地たる香港に達すべし。

六月十一日、曉來降雨、四面濛々たり。船は徐々として香港に近づき豫定のごとく午前八時港内に進

入の定處に投錨せり。

香港は廣東河口に布き列れる群島の一にして、長サ十一哩、幅は二哩より四哩に至り、周圍二十七哩にして巖岩礫礫の一島なり。高低數峰あり。其の最も高きはグイクトリヤ峰にして一千八百尺、市の後ろに屹立して灣の全面を瞰下すること、恰も函館港の臥牛山に似たり。北方對岸の九龍(カウ)と指呼の間に臨むこと馬關の門司に於けるが如く、概して言へば灣廣く水深く、四方圍むに山嶺を以てし、實に稀有の良港なり。日本に於て其の類似を求めば宇品と函館の二港、其れ或は近からん歟。此れ亦素人の獨斷に過ぎざるのみ。

此の港は千八百四十一年支那政府より英國に割與せる者にして、是れ高慢無智なる滿清政府の兒戯に類せる廣東壞夷の結果なりとは、情けなき事にぞある。去れど當時よりして繁華なる港灣たりしにはあらず。英國が引渡を受けし時には「ブランチス」、「ハッカス」、「ホックロ」等、異種族を合して僅かに二千人の貧窮痴鈍なる漁夫者に過ぎざりしが、六十年の後の今日は歐人壹萬壹千人、清人二十五萬、凡て二十六萬壹千人と註せらる。而して巍々たる高堂山腹に列を連ね簇をなして、宛然西洋の飛地と見ゆるは東方より來る者の先づ以て驚く處なり。此の市街を通常香港と呼びなせども、嚴格に之を呼ばばグイクトクア市なりとぞ。

委しく香港を説くは我が目的にあらず。又二日の碇泊中普く見聞すべくもあらず。今唯一見目に觸れ

たる中の數奇を記すべし。

(一)此の港内舟を住家とする清人二萬人、一家或は五人又は七人、老幼男女互ひに相扶けて、艦を押し通ひ、船の用を勤むるは奇にして又便なりと云ふべし。

(二)陸は輿と人力車と待ち設けたるよりも多きことなり。之に伴ひて道路修繕の宜しきことなり。

(三)ピーク(山嶺)に登るべき鐵道勾配の急なることは、亦思の外なり。桑港並にポルトランド等には鋼索を以て坂路に街車を降昇せしむること珍らしかざれども、香港の如く急なるは初めて見たる所なり。

(四)査官には御定りの長辯者は勿論、揚々たる白人も珍らしからねど、丈ヶ高く身瘦せ、色黒けれど鼻高く、眼回み、赤布を以て頭を包み、沈々又閑々、悄然として佇立せる印度人こそ、直ちに目を引く者なれ。一層黒く愚かに見ゆる馬乗巡查も氣に障らぬ者にあらず。

(五)一層氣ざなるは日本婦人の浴衣に常の帯して揚々徒歩するなり。日本にて見ると異れる風にはあらねど、イヤミ深く感ぜらるゝは別に此に至らしむる原因あるなるべし。其は言はざるの勝れる方ならん。

(六)我が日本郵船會社、正金銀行、三井物産會社等が市内の立派なる區にあるは心地よろし。領事館も相當の家屋を有すれども、矢張借家なるは毎度足らぬ心地するなり。當時在勤の領事は上野季三

郎君にて秋田縣龜田の出身なるが、長崎市の上野家に養子となりて今は長崎の人なり。野田醫學士櫻井峻氏と共に上野氏に招待せられ、日本料理の饗應を受けたりしが、流石は長崎産れの細君と女中の御手ぎはにて物々皆賞味せざるものなかりしは海外にて一幸福と記憶して忘れ難き所なり。

(七)香港市は毎年三百萬餘圓の歳出入となす由。二十六萬の人口に三百萬圓を費さば百六十萬の東京は幾干を費して相近き者となるべきや。巨細の事は知り易からねど、道路の善惡は尤も手近き徴候なるべきか。

(八)收税法の甚だ簡易にして家賃税の一方あるのみなる由。自家の所有にも相當の評価を定めて之を課する由。

(九)ベストは仲々絶ゆべくもあらず。最近の報告にては毎日十人位あるべき割合なりと。されど左支で動搖する様もなし。

(十)軍艦も數隻碇泊せり。中に大巡洋艦テリブル(南阿より廻航せる由)もあり、砲臺も數ヶ所にある模様なれ共、目立つ程のもの見えず。兵營は山上にも山下にもあり、一寸生兵の訓練を立見せしが、三十年前の英式と異なるところ無き模様にて、日本の騎兵よりは式に於ては稍後れたるならん様見ゆるなり。

十一、十二兩日、滯泊中は毎日驟雨數度なりしも、夜は月明星稀の好天にして、毎夜甲板を去ること

を惜しみたり。且つ暑氣は非常の高度にて、少しく身を動かせば流汗身を濕すに至る。一日四度襟布を替へたる人さへありし程なり。

十二日夕刻、獨船サクセン入港せり。是れ六月二日朝我輩よりも早く横濱を出で、上海に寄港して今此處に到れる也。此の船にて南京滙文書院の教員黃氏來り、我が阿波丸に移れり。氏も亦全清國青年會合同盟を代表して佛國に赴くなり。新知といへども、其の目的を共にして其の信操、其の責任を同じうする者なり。在南京の山田良政氏(弘前出身にして東亞同文會の派出員)より紹介状を持參せり。今夜より我が中等に廣東人の醫士(英語を解する者にしてマラッカに赴かんと欲するもの)、獨逸人にして新に英國婦人を娶り、新婦と共に獨國に赴く者、マニラ人にして龍動に赴く者、上等には英人家族六人、米婦人一人乗組みたり。船は明十三日曉天を以て發せんと定まれり。爰に第二報を結ぶ。

三

香港には見るべく聴くべきもの猶あるべきは勿論なれ共、十二日の朝萬國青年會の書記サルン氏來訪あるべき筈にて、午前十一時(十二時には領事館に約束あり)まで待ちたれ共、何かさし支へありしなるべく來られず等の故障ありて、遂に青年會を訪ふの違さへなきに至れり。余の上陸と引違ひにサ氏は本船まで來れりとは、彌以て残り多き事なりけり。香港に就て一事の忘るべからざる事あり。

本島は巖石不毛の嶮山にして、初め英國の手に入りし頃は一本の樹木もあらざりしと。随つて飲料水に乏しきは勿論なり。然るに人口は俄かに増加し給水彌急を告ぐるを以て水道の計畫も立てたれ共、最も頼むべき水源は唯一の天水即ち雨水也。(降雨の時は滿山數十百の懸水俄かに顯れ見事なるもの、其れを一滴も無益にせざる様貯水池に導き、之を濾して二十萬人の爲めに備へざるべからざるなり。而して、現今は全島に三箇處の貯水池を有し居る由なり。其の經營慘憺今日に至れること以て模範となすに足るものあるなり)

六月十三日は好天氣にして船は前七時を以て香港を發せり。暑威頗に加はり船は群島の間、語を換ふれば砲臺の間を通りて西南に進行せり。風光甚だ愛すべき者あり。

香港を去るにのぞみて残り惜しきは、九十哩外の廣東府を見ずして過ぐる事なり。廣東は兩廣の首府にして百萬以上の人口を有する所なり。近世の廣東史は名譽ある者にはあらざれ共、最も早く西洋諸國の人に接し、久しく中華の驕傲政略を代表して、屢々屈辱を被むりし處なるも、其の結果支那八百餘州中海外思想に富む者兩廣人に過ぐるものなし。全世界に散布せる支那人は、皆兩廣人と云ふも妨なき程なるのみならず、現時支那に於て稍世體に通ずる者、多くは兩廣の人なり。長髮賊の首領太平王と稱して、十五年間南京を占領せし洪秀全も廣西の人なり。昨年急劇なる改革を圖りて挫折せし康有爲も廣東の人なり。人は云ふ、兩湖の人は慄悍にして支那の薩摩なりと。去らば兩廣は長州ならん

今夜天晴れ月圓かにして浪亦静かなり。風濤に妨げられ、錦衣故郷に歸る能はずして、空しく三笠の山の月を詠せし仲麿とは事情の異なる身にしあれども、月やは物を思はするの句は、古今萬里の差別なく何に付けても忍ばるゝなり。

翌十四日は船既に洋心にあり。何れの島も山も見ゆるものなし。好天氣にはあれ共、水天の間にさまよふとなれば誠に淋しきものなり。今日は暑氣甚だ強し。正午の測量によれば北緯十七度、東經百十一度、香港を距ること二百九十一哩にして、北緯の十七度は丁度太陽の直下となるべき所にはあらざるか。前後を照し見て此の頃は最も暑威強き様に思はるゝなり。今晚食卓の果物は水瓜にして、陸上にては左まで賞すべき程の物にはあらねど、船中にては實に賞味せらるゝ者となれり。

今日も晴天、微風、月明にして、一望はてしを知らざる景色なり。夜の更くるを知らざりき。十五日は晴天なれ共風強く、大いに暑威を避くるに便なり。朝右方(西方)に陸地を見たり。晝頃最も近きは二十五哩もあらんか。高山の連線たるあり。即ち交趾支那の南部にして柴棍市の近傍なるべしと云ふ。正午の測量左に

北緯十二度、東經百零九度、此日正午より二八八哩。

午後に至り船大いに動搖し、船暈を感じるものポツポツ出来たり。勿論其の一人と數へられたり。

十六日、雨晴れ風和ぎたり。浪未だ全く治まらずと雖も、病者は大概皆恢復せり。正午の測量

北緯八度、東經百零八度、距離二二六哩

航程の短きは風浪のためなりしかを表するに足るなり。記事の短さも矢張同じ徴候となすべし。

十七日、曇天、涼風大いに爽快を覺えたり。

今日は日曜日なれ共禮拜もなし。黃氏と共に福音唱歌を誦し、後ち又二人の英國婦人に歌本を貸して之を唱せしむれば、我等よりは稍優れる音調を奏し、以て互ひに心計りの禮拜に換へたり。晝頃より風浪平和にして東方に山岳を見たり。即ちボルネオ島の北端なり。

今夜始めて十字星を見る。是れ日本にては見る能はざる南天の星なり。是れと同じく日本にては頭上に見ゆる處の北極星が、地平を上ること僅かに數尋なるを認めたり。且つ暑氣の稍凌ぎよきは、太陽既に我等の北方にあるが故ならんか。此の日正午の測量

北緯四度、東經百零六度、距離二九六哩。

十八日早天、覺めて窓外を望めば天晴れ浪靜かにして、右舷遙かに連波の如き小岳を見る。早々起き出で甲板に上れば、左舷即ち東南の方にも亦同様なるを見る。右なるは馬來半島の南端にして、左なるは半島對岸スマトラ島の北面なり。忽ち視る峽の中央に圓形の巖礁あり。白色なる燈臺突兀として其の上に坐せり。ペドロブランカ又はホルストポロ(馬丘の意か)と稱する由。是れ即ち新嘉坡港の灣口

なり。午前十時船は徐々として入港し、頓て投錨しければ、身は再び連橋林立の間に在り。

午後事務長村上氏並に外敷氏と上陸し、先づ郵便局を訪ひ、其れより馬車（一頭引き四人乗にして構造裝飾共に驕らず、賤しからず、之を東京に移さば、蓋し中等人の便利をなすものならんと語りあり）を驅つて、先づ領事館に至る、高燥にして手廣き建物なり。庭園の植物など香港に比して一層熱帯の眞面目をあらはすものなり。領事は中山某氏にして、久しく海外諸邦に在り。中々物慣れたる人と見受けられたり。中山氏の話にて一昨日（日^{十六}）の新聞上香港電報によれば、北京公使館書記生杉山某支那兵の爲めに殺されたる由を聞き、何れも甚だ驚きたり。又是れと共に昨日の紙上に太浩砲臺の陥落等をも知り。事の餘りに急卒なるに茫然たらざるを得ざりき。嗚呼支那、嗚呼滿廷、何んぞ醒めざるの甚だしき。況んや其の輔全に於て最も衆多の朋友を有する日本と西洋との區別をなすことを知らず、驅つて之を群狼と共に馳せざるを得ざるに至らしむるは甚だ悲しむべき事なり。此の度の事變に就き如何なる結果を來すべきかは知り難きも、滿廷にして速かに列強に屈せば、直ちに分割に著手するまでには行かざるも、恐らくは是より彌海陸軍を増し、第二次の機會を待つに怠らざるべし。危いかな。

領事館を辭して市の他端なる植物園に赴きたり。道路は何れも平滑にして、巾も廣く、並樹よく茂りて車馬を驅るに適せり。時既に斜陽の頃なりければ、園の一小部を逍遙せるのみなれども、目新しき

草木甚だ多し。或ひは曰ふ、是れ東邦第一なりと。其の區分排列の巧拙如何の如きは素人の云ふべき事ならねば云はず。其の廣くして數多きと鬱蒼として既に古色ある等は東京植物園に勝る者あらん。若し余輩をしてモウ少し植物學に嗜好を有せしめば、蓋し大いに紹介するものありしならんを。動物も少々あれどもさしたるものはなし。鰐の稍大なるは珍らしき位のことなり。歸途日新館なる日本旅館に立寄り晩食をなせり。香港以來の日本食にして、大いに満足せり。試みに其の獻立を略記せん。第一に果物は紫ザボン、バナナ、マンゴスチン（外形無花果に似て猶丸く、皮厚くして中心には白色の實あり、三者中には尤も賞すべきものなり）鯛鹽燒、同さし味、味噌汁、吸物、上等日本米、漬物は奈良漬、味噌漬、福神漬等随分宜しき獻立なり。而して御勘定は壹人前三圓、是も相當に氣張りの者と云ふべし。然れ共高き屋賃を拂ひ高き人を雇ひ、物品多くは輸入品を用ゆるとは甚だ不廉とは云ふべからず。新嘉坡（獅子市の義なりと）は馬來半島南端の一島（半島を隔つるに一狹峽を以てするのみ）にして同名の市は又其の東南端にあり。ヌマトラ島を西南對岸に有し、相擁して一大灣形をなせり。島の大きさは東西廿八哩、南北十四哩、高山なしと雖も、丘陵起伏し、樹木鬱蒼滿地綠ならざるなし。赤道を距ること北八十哩、最近の火山は東南三十哩を隔つるカリモン島にあれ共、久しく死睡して動かさず此の地方の人未だ曾て地震を知らずと云ふ。

一千八百十九年、英國印度殖民會社のラッフルス氏議を獻じて此の港を開けり。當時の人口僅に二百

人にして、海濱浪打際まで森林に掩はれたりしを、先づ領主ジョホールラジャ（ラジャは王と云ふがごとく又サルタンとも稱す）より六萬弗にて買入れたり。人口の増加甚だ速かにして、一八二〇年には五千となり、三年目には一萬となり、二十一年目には三萬九千餘となり、當今の正確なる者は知り難きも殆んど二十萬なるべしと云ふ。一八六七年以來は英王直轄殖民地となり、且つ海峽殖民地の首府としてジョホール初め近傍の保護附庸の諸邦及諸領地の重鎮たり。繁昌進歩の勢隆々たる者あり。香港に比すれば猶一層異種の住民多く、寺院等も印度の波羅門あり、佛教あり、回々あり、新舊耶蘇教あり、而して其の最も多數なる住民は、此處も矢張支那人なり。此の地の人力車夫は凡て支那人なるが斯の如く急に繁榮をなせるは地勢の宜しきと、英の國勢に歸すべきは勿論なれ共、其の一大秘訣は自由貿易にありといへり。少許の關稅を拋棄して地方の隆盛を助け、外に大なる稅源を得るは智と云はざるべからざるなり。初め此の地を開かんとせしとき強き反對もありけるが、其の理由の一是港灣防禦の形勝に缺くるありとの事なりしが、今は中央並東西南の砲臺等もありて場所相應の警備を有せり。

海峽殖民地政廳の歲入は大凡三百萬弗にして、重なる稅源は阿片、火酒、質屋等なりと。

此の地の勞働者は一方には外來の支那人あり。一方には土人振をなす數種の馬來印度人にして、波止場の解も支那人は西側にあり、黑人等は東側にあり、本船に來りても全く組合を分ちて働き居るなり。

黒色連は食ふに箸もなく、匕もなく、天授のフォルクを活潑に運用して、ブリキの大皿に五六人づゝ、經居し、先を争うて頬張る様二千年前羅漢達の園遊會は斯くもありしか、何時まで此のまゝに世界の一奇觀を保存する積なるかと思へば、轉た愁情に堪へざるなり。我か同胞の是等の群中に見えざるは、稍心安き様にはあれ共、是れ又皮相の考のみ。試みに日本人の數を問へば、六百餘人とぞ註せらる。而して此の中領事館等に平生出入をなすべき者は僅に三十人内外にして、二百名餘は氏無くして玉の輿に乗ると云ふ階級にて、市の一區に下宿屋の名目を以て繁昌なる生活をなし居る由。他の二百名は間接直接に先づ二百餘名に關連せる商賈をなし、残りの人が純粹なる職業をなすとの概評は、蓋し其の實に遠からざるべし。佛國博覽會の爲め頓に往來の日本人も多く隨つて新嘉坡の探檢も大いに屆きて、本國の新聞に紹介せらるゝ事なるが、多くの通信者は探檢に念が入り過ぎる様なりとは、某居留人の眞面目なる嘆聲と聞き取られたり。此の地には監督、長老、美以等の宣教師社團あり。教育慈善等の事にも相應に着手せる様子なるが、就中美以の英支學校は五百餘の生徒にて、政廳よりも保護を受け、官立の高等學校と共に二つの名物となり居る由。惜むらくは夏期休業の期に入り、萬事凡て休するの有様なれば、宣教師等も多く不在にして、自分共も暑氣を侵して奔走する勇氣乏しければ委しき觀察をなすことを廢したり。

十九日晴天、本船滯泊せり。船中に書狀並記事を寫せり。一寸上陸したれ共一宣教師を訪問せるまで

にて罷みたり。

二十日、晴天、輕風、船中凌ぎよし。午後六時本船拔錨し、夕陽に迎へられて風光明媚なる海峡を徐航せるは、嬉しとも樂しとも云ふべし。此の峡中島嶼多きを以て燈臺の數亦頗る多し。一星未だ去らざるに一星迎へ、左に右に相照らすこと此の長航中始めて見るところなり。

二十一日、晴天、微風あり。船は西北を指して往くにも拘はらず暑氣は却つて減せず、正午報ずる所北緯二度、東經一百度、距離二二〇哩

二十二日、晴天、午前六時彼南港に入る。是も亦馬來半島の西面に列る一島にして、新嘉坡よりは大ならざるも、島嶼皆山嶺にして、前面には數千尺の大嶺横はり、神戸の自ら摩耶を負うて淡路島に對するに似たり。其の風光實に愛すべし。市街は曾て一度海峡殖民地の首府たる俤ありて、相應の建造物あり。山谷に添うて設けたる植物園あり。瀑布ありて水道の源をなすあり。新嘉坡の少しく小なるものにして人口十二三萬もあるべしと云ふ。

二十三日、晴天、午後四時彼南を出發して先づ南方に向ひて海峡を出で、其れより西に向ひて進航す。二十四日、晴天なれども風浪稍高し。朝來南方に大山脈を見る。是れスマトラの西部なり。夕刻に漸く此の大島に分れ、海峡を逸して印度洋の北部即ちベルガン海の南に出でしなり。流石は大洋にて、大ウネリに逢ひ、稍困難せる人もありしが、幸にして之を免れ、日本食の饗應に逢へり。廿四、五、

六、七の四日、大洋茫茫の中多少の風浪に苦しみ、不快を感じたるのみ。又記すべきものなし。

四

六月二十八日、午前十一時半錫奇島コロンポ港に投錨せり。此の地北緯六度五七、東經七十九度五六に位す。今朝前八時の溫度海水八十一度、空氣八十度なり。先づ本島の概路を記して次に本港及其の他に及ぶべし(通常 Ceylon と書けども本島政廳の出版物に Ceylan とあり)。錫奇島は古代に於て「セレンブ」又は「ランカ」又は「タプロバネ」と稱せられしことあり。北緯五度五十三より九度五十一に延長し、東經七十九度四十二より八十一度五十五に廣まり、印度大陸の東南端に於て狹隘にして甚だ淺き「バーク」海峡を以て隔てたる一島にして、幅員二萬五千三百六十五英里、我が九州よりも少し大なるべし。人口は大凡三百五十五萬餘にして、細別すれば本島の主人なる「シンガリス」種二百二十三萬、大陸出稼人の大多數なる「タミルス」種族百六萬四千、回教人なる「ムールメン」二十萬九千、馬來種一萬二千、「ジャウアニス」(ジャバニリス即日本人にあらず)、「ネグロ」(アフガン)、「アラブス」(バルシリス)等の雜數九千三百人、「ヴェネチヤ」(最古の土人にして甚だ蠢愚なる者)一千人、歐人の雜種二萬四千人、純粹なる歐州人種七千人、以上の各種土人と新主人たる歐洲人の數を比較すれば、土人一千人に對し歐洲人種かに二人に當るといふ。

扱て本島の歐洲人の手に入れる歴史を略説すれば、葡萄牙人最も先に渡來し、十六世紀の初より十七世紀の中頃まで、且つ戦ひ且つ領するの状態なりしが、十七世紀の半には和蘭の奪ふ所となり、百四十年間繼續せしと雖も其の實は沿海地方を領有せるのみにして、中部の高地は全く土人主長の領有する所なりき。一千七百九十六年に於て英國の爲に掠略せられしが、中部「キアンデ」王領の英國に歸して、全島の英皇の直轄殖民地になりしは一千八百十五年の事なりき。

本島は山水森林に富める一美郷にして、熱帯地方とは云ひながら、通常平均の熱度は華氏八十一度を上下するものにして、其の高地なる「スワラエリア」として養生園の設けある所は通常華氏五十八度なりと云ふ。但し海を抜く六千二百尺なり。本島輸出の物産は寶石、眞珠、黒鉛、肉桂、コブラ油(椰子油)、茶は其の重なる者にして製鹽は政府の專賣なり。

本島輸出品中珈琲は一時盛大を極めたる事ありしと雖も虫害の爲全く廢産となり、之に代りて茶の栽培甚だ盛大に至り、此の二十年間新に開殖せし者三十八萬エーカーに達せり。此の栽培及び製造に要する者三十五萬のタミル人は、各耕地に居住せりと云ふ。生産額年々増加して、印度産には拮抗し、支那産をば英國の輸入目録より消え去らしめんとする勢なり。一千八百九十八年の調査によれば、輸出價格三百十六萬九千八百五十三磅にして、日本貨幣にて三千餘萬圓なり。其の長足の進歩實に思ふしべし。同船乗客中本島にて茶の栽培に従事せる者の云ふ所によれば、四季一回づ、摘み取りをなし

得可しといふ、是れ全く天候の賜なり。

教育は盛んなりと云ひがたきも、一千八百六十九年本島英國政廳が教育局を開設せし以來、漸次歩を進め、同局直轄の小學校は全島四百七十九校にして、四萬六千二百七十九人の生徒を有し模範の務をなすに似たり。諸教會設立に係り政府の補助を受ける者一千二百二十校、此の生徒十萬五千九百五十一人、補助を得ざるもの(蓋設備の不充分なるものならん)二千三百三十校、此の生徒三萬四千八百五人なりと云ふ。教育局は直轄中には高等學校中學校の程度なる者又は工業學校に類する者もありと云ふ。諸教派の學校にもコレツヂと稱するものなきにあらざれども、大學程度の修學をなすべき設備あるものなし。故に政廳は毎年百五十磅を支出して優秀者の英國に遊學する者を補助すると云ふ。本島官業の重大なる者を數ふれば、第一灌漑の便利を増さんために用水池を築くことにして、寧ろ古代の廢池を回復することなり(第一世紀より十五世紀までの間に築立たる廣大なる溜池の蹟甚多しといふ)。第二コロンボ港改良、第三水道、第四市街電氣鐵道(既成二百九十七哩)、第六郵便、電信、電話等にして、何れも皆相當の發達を爲せり。之に加ふるに官府は全島に六十四個の各病院及二百四十個の藥店を開設して衛生の便に供せり。

宗教を大別すれば四種にして、基督教徒三十五萬人、印度教徒九十四萬人、佛教二百三十萬人、回々教徒二十三萬人、而して基督教徒三十五萬人中二十七萬五千人の天主教徒は、葡國領たる時劍光燦爛

たるを以て畏服せしめたるものなるべしといふ。新教には英國基督教會は無論の事にして、ウエスレアン、長老派、浸禮派等もありといふ。而して佛教は本島の最大舊教なれば人員堂塔の數も最も多し。増侶の數は殆ど一萬人、黄色の衣を片裸きて往來するもの都鄙の差別なく續々絶えざるがごとし。教義は小乗にして僧中行蹟の賞すべき者も少からずと云ふ。

錫崙島に就き翻譯的の説をなすは際限なし。是よりコロソポ港、及キアンデに於ける實驗談を記すべし。

コロソポは錫崙の西南端に位する港にして、本島の首府なり。先づ第一に觀容を驚かすは防波堤にして、延長四千二百尺、高サ廣サ共に横濱防波堤に倍すると云ふも過言にはあらず。是によりてコロソポは初めて港灣たりといふべきものなり。時は今貿易風の西南より印度洋を吹き渡るなれば、高堤に大波激して澎湃天を突き倒れて堤上を洗ひ、見る／＼數百尺の間忽ち大瀧となる者數ヶ處を生ず。實に是れ世界の一大異觀なり。堤内には大小汽船艀を並べて碇泊す。皆之れ此の長堤あるが故にしてコロソポは人造良港といふも妨げなかるべし。市街を概評すれば是迄經過せる新殖民地に比して何様サビたる所あるに似たり。例によりて東邦各種の羅漢的人體多し。人力車もあれども、支那人は見えず。蓬萊島の仙女も此の港には蹟なしとなり。必竟無風流なる本島政廳が苛酷なる賦税法を設けて、其の降路を遮りたるによると云ふ。無風流も亦益あるかな。此の地には我が領事館なし。日郵會社も

代理店のみにて、小蒸汽の通もなし。着港の午後南京の黃氏並に櫻井、野田兩氏と四人にて上陸し、馬車を賃して青年會館に米國人ヘーブ氏を訪ひ、遂に其の宅に至り、歸路公園博物館を一覽せり。該館は一切本島の新古物を陳列せる者にて、西國のもの少からず。中に釋聖の齒なりとて當島の山城聖地とも云はるべきキアンデなる古刹に珍藏せるもの、模造品あり。恭しく金龜の中心に捧鎮する者あり。長サ一寸五分位あり。根の口徑五分内外にして、鈍き尖頭を有する白色の牙と見ゆるは、唯忝なく目交せをなすのみ。妄に批評を試むべからず。かしく。

此の港の通船は四人に漕ぎ付くる大形のボートと二人にて漕ぐ一種異様なる小ボートなり。丈だけは四間内外もあれども巾は僅かに二本の脚を容るゝに足るのみにして、深さは二尺もあるべし。長さ角桶の如きものなり。左ながら丸木船にもあらず、其の一方に二本の一丈斗の舷を差出し、此の端に一本の貫を結び付けたるものにて轉覆の憂は更になし。はしけ賃は往復共晝間片道二十五錢の定めなれども、動もすれば不足を唱へて食らんとす。上陸場には巡查あれば毎度其の世話を蒙る事あるなり。上陸場は廣濶なる二階造にして、便利なる構造なり。之をジェタイと云ふ。上陸場の義なれ共通常の英學者には耳新らしくして、佛語にてもあらずや杯思ふはおかし。余も其の一人にて自ら其の迂濶に驚きたり。案内者は免許の印を肩にかけ、或は日本人の名刺杯を示し、ウルサク付き纏ふものあり。寶石入指環を賣る者も亦甚だうるさし。彼等の厚顔にして粘着力の強さは支那商も一步を譲るならんか。

併して寶石は本島の名産なり。少しも賈物とのみ思ふべからず。但し或者は二三倍の價值を云ふもあり、現に目撃して驚きたり。中には一割よりドウしても引かぬと云ふ者あり。林董氏の名刺を有す。是は正直として評判なり。玉を要せぬ吾には關係なけれど、天賦の立派なる手が足らぬにや、金玉を指にしたる紳士も少からざれば一寸御参考までに一言せり。

翌二十九日、午前七時三十分櫻井野田の兩氏と共に汽車にて本島中央なるキアンデ市に遊ぶ。行程七十五哩、中等切符往復六ルピー(大凡四圓)。最初の二時間は平野にして林地澤池又は田間（水田を走る或る部分は稲苗正に發生の場合なり。概して苗代を設けず。直ちに田面に種を下すもの多しと云ふ。水牛を役して耕耘を助くるなり。百姓家は憐れ極るものにして家とは名づけ難きもの多し。蓋し是れ貧の故にあらず、天候温和にして堅牢なる屋舎の必要なきが故なるべし）。後の二時間は山間各地を回旋して、漸く遂に一千二百十三尺の高地に攀ぢ登るなり。此の間風景の大艶美名狀すべからず。セイラン島は風色に富めり。而して熱帯の樹木何處にも鬱蒼として、巖々たる嶺峰を包むは筋骨逞しき大男に刺繡の衣をユツタリと着せしめたるが如し。キアンデに着せるは十一時過なり。直ちにグラントホタルに投じて、朝飯の不足を補ひ、馬車にて巡視をなせり。此の地は古來中央部の王城なり。現今人口二萬二千清冽なる湖水の邊にありて樹はすべて鬱蒼として天を蔽ふ。尤も自立つ者は榕樹即ちベンヤンにして、無数の幹を以て強大の枝を支へ、盤根錯節とは實に此の歎なるべしと思はるゝなり。有名

なる佛寺は凡て石造にして、種々の彫刻全面を掩ふに似たり。例の佛牙は通常見らるべき者にあらず。文庫即ち經藏も時刻悪くして入る能はず。案内者と乞食のうるさに渴仰の念も何處へやら飛び去り、身も亦早足に門外に飛出で、直ちに馬車を驅つて植物園に至れり。是迄見たる二三の園は比ぶべきものにあらず。無類の美園なり。若しボタニの思想少しにてもあらば蓋し一泊の上研究するの價值十分なるべし。此の地には諸王の墓地もあり、英傑アラビバシヤも鎬流の餘生を送りつゝある由なれ共、時刻の切迫するに驅られ名殘惜くも車を停車場に向け、二時十五分の列車にて歸路に就けり。道はもと來し道なれども、此の度谷に臨みて羊腸を下るなれば、遠近山水の眺も大いに趣を異にせり。殊に眼界は遙かに遠く渡りて絶景言ふ斗りなし。我が信州路、箱根、米澤鐵道等も此の景には及ぶまじとは、必ずしも海に飽きたる僻目にはあるまじ。コロンボ港に數日の碇泊をなす旅客は、須く六七圓を氣張つて措しむところあるべからずとは、決してシャルレのみにあらざるなり。午後八時阿波丸に歸る。

同三十日午前、佛國郵船入港せり。山根醫學士並三名の日本乗客あり。往いて之を訪ひ直ちに支那事件に入れば、彼方は六月六日の出發にて別に我の知ざる者を知るべき様なく、却つてコンボ新聞電報にて讀みたる者を語る位なりき。午後青年會館に約束あり。六時半より黃氏と其の集會に臨めり。幹事ヘーブ氏は京尹某氏を迎へて司會者となせり。集會若約五十餘名以て會堂に充満せり。讚美祈禱の

後司會者の紹介にて、余先づ立ちて一節の談話をなし、終に黃氏談話をなせり。不勝手なる英語演説なる上に昨日來用意の違なし。依て携へ居る我が學生同盟の報告書に就き要點を語り、且つ附して曰く當港着以來一種趣味ある感觸を懷けり、曰く佛敎國より來れる余佛敎徒にあらず、佛敎國の紳士にて余を迎ふる人亦佛敎徒にあらず、豈に平氣に過ぐることを得んや。又曰く、昨日キャンデ、即ち佛牙を藏する所に往き適々思ひ回す所あり。近時我が郷國の佛徒大金を費して佛骨を暹羅に迎ふる事を、稀世の聖人の遺骨ならば珍重するも無理なるまじ、然るに我等基督信徒には、斯様の場合永劫來るまじ。何となれば主は昇天し給へり。骸骨を世界に遺し給はず。否我等より隠し給へり。故に如何なる迷信家も基督の遺骨に思及ばざるなり。宜しく大いに感謝すべし。主は我等の弱點を知りて此の迷路を絶ち給へり。然れど主は我等を去る事遠からざるなり。慰むる靈を以て我等の心裏に住み、又我が群中に働き給ふなり。我等には骨なし、我等には主の靈あり。讚美すべきかな。九時歸船せり。

七月一日、日曜日、午前八時黃氏と共に上陸、來り迎へたるジャインズ氏とてタミル人種にして宮立高等學校教師(禁酒運動者)に導かれて、電車にて當港最古のダツチレフォムド(即蘭領時代のものにて百五十餘の建築なり)教會に出席せり。堂は頑丈なる煉瓦造にして十字形を象り、二百五十餘の禮拜者時を違へず、着席嚴肅に執行せられたり。教師はクレメン氏とて四十斗の英人と見えたり。會衆の大數は歐人なれども、中には黒色の者雜種の者も少からず見えたり。十一時半歸船せり。

本日午後四時スエズニに向つて發す。是より九日間紅海に入るまでの間は、唯水天の間であり。毎夜北極星を水平線より二間斗上に見て南方十字星を高く仰ぐのみ、アラビヤ海の風浪に揉まれて不快を感じるのみ。七日の午後六時にソコトラ島を見て風浪大いに和ぎたり。夜間室内に眠むる事稀なり。紅海に入れば浪靜かなるべきも暑氣は甚だしからん。ドチカラ見てもアラビヤは荒び屋に相違なしと云ふべし。(明治三十三年)

馬耳塞港

去月十一日以來伊太利、獨逸間に旅行して、數日前當地に來り、前稿を携帯せざる爲め接續を明にせず。仍て直ちに馬耳塞に入港せる事を記せり。

七月二十一日早天馬港に近き島嶼を見、身は彌々佛國領海中に在りて上陸程遠からざるを知れり。午前五時我が阿波丸は港外砲臺下なる檢疫所沖に投錨せり。事務長及び醫員は輕舸を驅りて檢疫所に至り、檢疫員の出張を促せり。待つこと久しうして前七時頃、二三の風采揚らざる小吏と三十前後と覺ばしき醫員一人身輕に裝ひて本船に來り、乗容並船員を二三箇所に整列せしめ、ザット見渡して檢疫の儀式は相濟たみり。扱々簡易なる檢疫かなと、一同稍失望の顔色なりき。然るに又一方には水火夫の藁蒲團を悉く持ち出し、大傳馬に積み込み、陸上さして漕ぎ出せるは、念の入りたる事かなと一同大いに驚きたり。

扱て馬耳塞は佛國第三(人口に於て)の大都市にして、人口四十四萬二千二百三十九人(一八九六年の調査にして、今は猶數萬の増加あるべし。里昂市に比して二萬三千餘の少數なるも、港灣なれば賑かさは却つて其の右に出づ。其の港は天然の地利よりは寧ろ人工に成るものにして數個の小島と稍屈曲せる海濱を利用し、強大長廣なる防波堤を鉛直に突出せしめ、長狹なる水路を造りて、他方より長堤に向つて無數の船渠を突出せしめ、一箇處毎に大船三四艘を横付けし得べき様なしたるものなれば、港外には一隻の汽船も碇泊せる者なく、輕舸を以て荷物の運搬をなすの要なし。我が阿波丸の如き大船も小汽船に引かれて萬橋林立の間を縫ひ、深く港袋の底に達し、大小船舶の櫛比せる中を割りてサット倉庫の前面なる大道に横付させるは心地よかりき。直に上陸して先づ税關に至り荷物の検査(佛國にて検査の尤も厳しきは烟草にして、是さへなくば他の自用の物品に對しては寛容無爲と云ふも可なるが如し)を終りグラントホテルジュエネグなる旅館に投じ晝食をなせり。一行四人中一泊して市中の見物をなさんと企もありたれども、余と黃氏との本能寺は此處にあらず、遂に他の人に辭して午後三時五十五分巴里行急行列車第三等の乗客となれり。斯れば市中の景況を説くべき様もなし。打見たる通路の模様遠望せる寺院堂塔の美麗壯嚴なる流石は佛國第一の港灣なりと想へるのみ。停車場迄は旅館の世話人と領事館の某氏附添ひ呉れたれば、滞なく(不慣なる佛貨の受授などは、何だか甚だ不懂なりしも、發車の時間に迫まられ兩替の御稽古には便利よからず、ドサクサの間に)汽笛一聲進行を始め

たり。是より黃氏の外は言語不通となれり。一婦人二兒を携へたるもの里昂まで同室なりしも、彼は少しも英語を解せず、停車場毎には物賣も來り又食事の爲め十分なる時間ある處ありしも、これは皆發車に至り、時計を案じて知るのみなれば事に益なし。此の日は非常の炎天にて水や氷を欲せぬにあらずれども、言語不通の悲しさ、十度思ひ立ちて一度よりも成功せぬ割合なれば、翌る朝までは十分に飢を凌ぐの方法を得ざりしは、我ながら笑止の至りなりき。三等に乗りしは克己の業の様聞ゆれども、車室の装置は名目よりも餘程よく、日本の三等とは大いに異れり。運賃が高等の物に比して廉なるには相違なけれ共、大小は荷物を携へたる乗客には荷物の過量賃を計算すれば、二等に乗らざりしは失策たるを免がれず。是れ言語不自由にて十分の間合せをなしかねたる結果にして、歐洲大陸に在りては佛獨の語學を知らざる者の無學に對する科料は、中々安くなきものと觀念せざるべからず。金錢の損のみかは、心中の不安、不満足、不愉快、皆是れ無學者の刑罰と觀るべきものなりかし。地中海の島嶼沿岸を望見して馬耳塞に達する迄に面白き節なきにあらずれども、概して草綠樹翠の義に乏しき方なれば兎角物足らず感せしが、我が列車は一時三十哩餘の速力を以て里昂河岸に沿うて早くも南部佛蘭西の中心に入れり。高きにあらず水清きにあらずれども、滿目到處橄欖樹園にあらずれば葡萄園なり。然らざれば青々たる牧場にして、又野菜穀禾の丁寧に耕作せられたる滑かなる道路に並び、青き並木繁茂せる樹林(古大木は餘り見當らぬ様なり)、而して山坡林間に隱顯せる村落堂塔

も壯嚴なるは少なけども、清潔にして堅牢なるは遠見ながら疑ふべくもあらず。地味の如何は汽車にて疾行せる素人の見分くべきに非ざれども、多くは灰色の砂土にして草木の矩合より見ても豊饒たる地味とは思ひがたし。唯綜合して誠に美しき田舎と賞せざるを得ず。而して是は十の七八までは地利天候より、人民の知識と勤儉とより成れる者なるに似たり。知識とは申す者の人民皆敏捷利達なりと云ふにあらず、又學者めきたりと云ふにもあらず、沿道の農民は純然なる田舎人、無邪氣にして質素純朴なる、しかも坦懐忌み隠す所なき良民多しとぞ見ゆ。然れども是等の田舎人も社會全般の程度に伴れて、學者や發明家の刻苦せる結果をば鋭敏に採用して實用に供する丈の腦力と習慣とを有するにあらざるなきを得んや。一言に云へば佛蘭西の田舎は奇麗なり。其の田野は耕耘能く行届きて不毛の地なく、山野皆庭園のごとしと云ふも不可なるべし。斯く思ひ續けて此の夜は寝るとも覺むるともなく、里昂京を過ぎマコン、デジョン等の大驛をも過ぎて、明くれば七月二十二日巴里に近づくに従ひ、田舎の風景も一層美にして汽車の從來彌類繁に乗合の人数も増加し、僅かに膝を容るゝに足るのみとなれ共、我れと語り合ふべき人は一人もなしとは本意なき次第なりけり。十一時五十分と云ふ頃列車は廣大なる停車場に着きて、乗合の男女皆ドヤ〜と先を争うて下車するは、全世界第三番の大市巴里府なりとは疑ひなく問ふまでもなき事なれば、手荷物を提げて下車したれ共、勝手は知らず少しグヅ〜する中に群衆の人も蔭なくなれり。出口の見ゆるまゝに外の方に出でたれば、馬車は列

びをれど、乗れといふ者なし。蓋し是れ迎への馬車と早呑込をなし、構外に出で、大道の空馬車を認め、幸ひに英語を談ずる若者あれば、其をして馬車を呼ばしめ(勿論口入にあらずと知るべし)、船中にて得たる引札を示してマラコフ街の諏訪ホテルへと急ぎたり。此は日本人にして佛國婦人を娶り、數十年巴里に居住せる諏訪某氏の者にて、巴里にても中等より下らざる旅館なり。後にて聞けば下車、否、さしもの群衆の見えずなりしは入市税を徴する検査所に入りたるなるべく、馬車に乗れと云はざるは各検査の済みたる者共が、驛夫をして係員より番號附の印鑑様の物を得しめ、始めて馬車が動くものなりと。左れば己れは知らざるにもせよ、税關破りの罪人なりと後にて共に笑ひ合へり。誰にも見咎められざりしは全く本心から無罪なりし仕合にもあらんか坏、拙き申譯も餘程後に心付きたる者と知り給ふべし。先づ六月二日横濱出帆以來五十一日目にて志せる巴里に安着せり。

(和蘭國海牙府日本公使館にて)

巴里府

七月廿二日より八月三日までここに滞留し、同日汽車にて四十分許の距離あるヴェルサイユ市に移り、八月八日まで同所の萬國學堂基督教徒同盟大會に列席し、同日夕刻巴里に歸り、八月十一日夜同府を發して伊太利國に赴けり。

巴里府は佛國の首府にして北緯四十八度、東經二度に在り。セイヌ河に跨れる大都會なり。其の城壁の形を以て見れば東西に横はれる心臟形をなせり。人口二百五十三萬六千八百三十四人(一八九六)にし

て、幅員約二萬エーカー(一エーカーは日本の四段餘)にして、其の中一萬二千エーカーは全く堂塔家屋を以て被はる。人口中十八萬七千人は外國人なりとす。此の大市を貫流するセイヌ河には、三十一個の大橋を架して左右兩岸の交通を便にす。巴里府は其の昔羅馬のジュリアス・シーザーがゴール征討の頃は、現今市の真中なるセイヌ河の川中島とも云ふべきラシチ區に住せるパリジ一部落たるに過ぎざりしが、物替り星移り、幾多の慘劇なる歴史を有して、今は世界第三の大市とはなれり。第三とは人口に於ていふのみ。若し他の點に就いて云はゞ第一なる點多なるべし。歴史の翻譯は擱きて、巴里は佛國大政廳の在るのみにあらず、技藝、學術、商業、工業等、萬業の中心なることは東京の日本に於けるよりも、一層も二層も其の度を高うせるものなり。

巴里が佛國の精神なるは前のごとくなれ共、同時に又世界の巴里なり。前項のごとく外國人の多きにても知らるべし。況んや本年は博覽會の爲めに萬國各種の人入り込みて、市中到る處旅装の人ならざるはなし。聞く巴里人中には外國人の無作法なるにかぶれて、巴里風の雅調を失ふもの多しとて憂ひ居る向も寡からずと。蓋し然らん。巴里は歐洲開明の結果を集合せる者にして、頗る平和繁盛し、風光に充ちたる樂境なるべきも、其の歴史と經營とは全く軍事的なること亦奇異の感を起さしむ。第一に此の大市を圍むに二十一英里の長城壁を以てす。壁の高さ三丈二尺にして巾一丈九尺の胸壁を造り九十四個の鋒頭堡を適宜に配置し、其の外圍は總堀にて廣さ四丈八尺、之に加ふるに城壁を距る最遠

二英里の處に於て形勝の地點をトし、十七個の城砦を以てせり。一千八百四十年に工を起し五箇年にして竣成し、其の工費一億四千萬フランクにして、我が五千六百萬圓程に當るといふ。噫是れ宛然戰國爭亂の景色にあらずや。第二は市の内外何れに往きても軍人の多きことなり。殊に其の騎兵が白磨きの鐵兜に長き黒髪を垂れ、太く逞しき駿足を驅り行こと、古代武者其のまゝに見ゆるは、一際靈感を起さしむるなり。

右の如くに軍事的經營の中にある巴里なれども、其の殺氣を冷却して洋々たる和氣を發揚せしむべき者、亦市の内外に充滿せり。何人といへども意を用ゐずして直ちに是はと感ずべきは、街區井然として砥の如き大道には人道車道の區劃正しく、翠色滴るパークの並木の蔭涼しく、單線又は副線の轍路に馬車電氣車往來絶ゆる間なく、自動車(所謂自轉車は謂ふまでもなく是はオートモビルと稱する車輛にして、四人乗の馬車と大小形狀略同じくして、車輛中に電氣又は他の動力を蓄へ如何なる隈にも飛行自在なる者)各處の圓形又は方形なるプラトスに幾線となく輻輳して、最も多き處は大小十二筋の道路蟻集し、其の中心には高さ百六十二尺の凱旋門雲を凌いで屹立するあり。多數の宮殿、寺觀、大小の學校、病院、旅館、官廳、演劇場、商店等何れも壯大美麗を極むるものゝみなるが上に、都人士婦人の洒々として禮容あり。能く世界の賓客を接迎するの態度を具ふるが如く、以て軍國の殺風景を消散するに足るは、是れ亦奇大の魔力と云はざるを得ざるなり。

巴里の名所名物を説き悉きことは、拙筆の克く及ぶ所にあらざるなり。況んや親しく見たるものは十分の一にも足らざるをや。今僅かにその數個を略説せん。

夜景 巴里の全市は不夜城と云ふも不可なれ共別して凱旋門よりコンコルドの廣庭に達する迄十餘町の間街燈の星列せると兩側なる家屋内外の燈光幾百千萬なる眞に晝を欺くに足る。中に就きコンコルト廣庭は長さ三百九十ヤール(一ヤールは三尺三寸)巾二百三十五ヤールの長方形にして、其の中心には方尖石碑を立て噴水と彫像を排列せる場所にして、數千の街燈四邊を照し、目下大博覽會の正門も此の一方にありて、是れ光明を以て被はるゝ物眞に不夜城の粹と稱するに足る。加之シャンドマルスのエフェル塔が、時に九百尺の頂より數線の電光を射下ろして、此の廣庭の光明に加勢をなすに至つては筆舌の形容すべきにあらざるなり。

セーヌ河 隅田川(大)よりも狭けれども兩岸の石垣甚だ堅牢にして、川身は割合に深く、全川何の處とても川蒸汽の通せぬ處なし。去れば人工を以て出来る丈川巾を縮め、底を深くして通船の便を圖れるものなるべし。上下小蒸汽の頻繁なる五分の間隔もあらぬかと思ゆる程なり。

公園 巴里には公園甚だ多し。ジャードンと云ひブライースと稱し又はボアと云ふ。皆公園の異名と見て不可なからん。其の最も廣大なるはポアドブロンにして、二千二百五十エーカ(一エーカは四段餘)の面積を有する一大林なり。公園には適宜に多數の長椅子を排置して諸人自由に之を使用す。此外貨を取り

て貸すべき椅子數多あり。近邊の者等は自ら手輕き椅子を携へて來るもあり。一般に住民は能く公園を用ゐ、能く公園を愛護して一木の花葉も猥りに取り去るものなし。巴里の街道は又公園の性質を有す。到る處並木の蔭深き處に公共の長椅子を具へて、公衆の用に供するなり。巴里の小兒生れながら老成者たるにあらざるも、無用の樂書をなし或ひは本草を荒らすがごときは絶えてあらざるなり。東洋文明國の都市此の小事の競争にさへ果して顔色ありや、否や。

博物館 巴里名物の著しき者は博物館、殊に美術品陳列所の多きことなるべし。而して其の著大なる者はルーヴル・トロカデロ・ヴェルサイ(城外數里の地に於て一小市をなし、古王宮あり。大小二箇處に分る。今は美術品陳列場となる。其の殿堂の高大美麗、園庭の廣濶にして水利に富める、皆昔時の全盛を表して餘りあり。陳列品中名工の繪畫數ふるに違あらず。此の殿中には政府の各省を容るべき國會議事堂の設けもありと。現共和政府大統領の選舉並に就任式等も此の議事堂にて執行するの例なりとぞ)等にして、ルーヴル最も著名なり。是れ元來歴代の王宮にしてチユイラリの公園に續き、前面にカルーセル凱旋門を置きて、遙にエトアルブライースの大凱旋門(ナポレオン第一世の建築に係る)を望み、其の本部は方形にして左右に長翼を張り、廣大なる宮殿なり。列品の區分は古代東亞、埃及其他繪畫彫刻等十九部に分れ、名畫珍寶戰勝の餘威を以て蒐集せるもの甚だ多く、シャールマン大王並那翁第一世の王冠等もあり。世界最大の金剛石もあり。金銀の裝飾器物等は珍寶中の劣等なるも

のと思はるゝ程なり。少くも三日を費さざれば一通の見物を終り難からん。此の一宮殿のみにてさへも、東洋人の自惚熱を冷却して大いに反省せしめ、奮發の念を起すか又は失望落膽せしむるか、若しくは嫉妬怨恨の情を發せしむるか、必らず何れかの動機とならん。願くは反省、謙遜、奮發一番して東洋の進歩を圖らんことを。

寺觀 巴里の美術工藝を談せんと欲せば、必らず教堂寺閣を度外に置くこと能はざるべし。

是迄和蘭の首府海牙日本公使館(全權公使珍田拾己君)に於て認められたるも、巴里を攻陥すべき時間に達せずして再び巴里に歸りしは去る十八日なり。其已來毎日認め置かんとせしも、其の機を得ず、明晩に巴里を去りて龍動に移らんとす。旁巴里城は先づ攻圍のまゝにして機のを待つ事となせり。博覽會は秋晴の時となりて入場者六十萬人なりしと云ふ。米國又は東洋に歸る人には便船の都合つかずして空しく滞留する者も多き由。自今十月十二日龍動發常陸丸へ申込みて先づ好都合に相成候。

八月十一日巴里を發し候て已來、伊太利に入り、羅馬、フロレンス、ヴェニス、ヴェローナを徑て澳斯太利の山中を通り、パツアリアよりプロシヤの伯林に到り、二週間餘滞留致し、本月初旬和蘭海牙に移りて一週同休息し、去る十七日同地を發しウオタルルイの古戦場を弔ひ、十八日アルツセルより當地に來り候、右は何れ龍動より逐次御報知可申上候。十月十二日ロンドンを發すれば十一月廿八日頃神戸着の見込に御座候。

(明治三十三年十月)——通信續稿省略——

巴里通信

拜啓、横濱解纜後度々御通信可致思ひ出で候得共、葉書にても不相濟事故、知りつゝ、延引仕候。殊に船中は非常の人込にて騒々しく、且つ暑氣の爲何を爲すものうく候て遂に失禮仕候。船中は格別の事も

なし。新嘉坡にて日本巡洋艦が數日前來りしと聞き、コロンボを出て二日目やらに夜中二三十哩沖の方に探海燈を見候。日か露かと噂取々なりしが、後に聞けば露艦隊なりき。

四日十一日豫定の如くナールブルスに上陸せり。此の夜入港の節はヴェスヴィオス頻りに紅炎を噴出し盛んなる觀を呈し居候。十一日は直ちにボンペーの古蹟を尋ね、二千年前の文明には感ずべきもの嘆ずべき事、共にありしことは、猶今日の如きを知り申候。ボンペーより掘出せる物の多はナールブルスの博物館にあり。之を見て始めてボンペー觀光を全うすることに御座候へば、十二日の午前は之に費し、午後は二時より羅馬に向ひ八時同地に着し候處、外交官今井忍郎兄に迎へられ、所謂パンションと稱する高等下宿屋に投せり。但し今井氏の住居は同館の三階に在れば、今夜は久振にて日本食を振舞はれ、大に旅情を慰め申候。羅馬には十七日まで滞在の見込なりしが、生憎鐵道同盟罷業起り候爲二十一日まで滞在するに至り、遂ひに他所立寄を廢して巴里直行に變じ、二十三日朝巴里に到着致し候。東羅馬中には重なる教室博物館等を見物致し候は勿論、一日曜日には午後英米人の集會に談話を試み「戦争と傳道」に付、兩人にて短き話をなせり。一夜は美以教會にて八百人許りの伊國人に對し日露戦争に關し基督信徒の所感を演べ候。伊國人の日本に對する同情は盛んなる者に御座候。司會者なる牧師も亦演説を試みしが、是は非常に激烈に露國に反對する趣意を演べし由にて、某露國婦人の憤怒一方ならざりし由。羅馬觀光は頗る趣味ある事なれ共、今は述ぶるに便利無之候。

巴里の大會は豫定の通廿六日より始まり總人員七百二十名許、二十ヶ國より集り候。中にはスエデンの皇族オスカル、ベルナルド公あり、獨逸の伯爵ベルストルフ、英國のロルドキンネールド等の華胄も有之候。盛んなる會合に候得共、流石は舊教會の大都會なれば幾千の影響を與へしやは疑問に御座候。小生は代人委員(各國より一人づつ)と相成候に付、常に委員會に忙殺せられ、毎日の大集會に殆んど顔を出さず、演説討論等は一尙聞かざれども、井深氏日本を代表して禮辭を演べしときは着席いたし居り、上出來を喜び候。滿堂の拍手一方ならざる事に有之候。且つ丁度次に露國代員の禮辭あり。之も自由を渴望するの趣意を含み、大いに同情を得たり。此の一對の演説が一の光彩を大會に副へたる事に御座候。

當地の人氣日本に對し追々宜しき由、過日も代人委員長のデビレ氏が、自宅に寡會を開き十二人の客を晚餐に招きしが、其の中三人は我々日本人なりき。數多の内より十二人を撰び、其の四分の一を我々に與へしは非常の好意と存せられ候。

當國政府は目下頻りに政教分離を實行するに傾意し、大分出來る勢と相成候。中には宗教を嫌ふが故に勉むる政事家も稍勢力有候由。或は革命時代の覆轍を踏むことなくば幸に御座候。政教分離は我國にては苦もなく行はれ、歐洲諸國に對しては一日の長あるが如し。然れども此に大いに留意すべきは、政教分離と宗教撲滅とは決して混雜すべき者にあらざることに御座候。基督は政教分離の元祖に

ましませども、宗教振作の張本にましませり。

巴里の教堂も羅馬と同じく寺院的なり。之を觀る時は日本に居るが如く思はれ候。過日羅馬の演説に此の事を談じて一の諷刺と致し候處、新教徒は早くも合點して大いに喜び居り候。此の寺院風を撲滅すれば(假りに出來るとして)恐らくは共に宗教の信仰も亡ぶべきか。是れ大問題なり。佛國政教分離問題中には財産問題あり。凡ての寺院は皆國有なりとの主張は、此の問題の難所なる由に候。

巴里の公道は新緑を以て蔽はれ見事に御座候。旅客は毎日數を増して賑々しく相成候。斯の如く浮華に見ゆる佛國が毎年二十億フランクの餘裕を生じて、其の利殖に苦しむとのことは驚くべく羨むべき事に御座候。巴里の大會は去る三十日、六千人の集會あり、五十年記念祭を執行して完結いたし候。明朝は和蘭國ウトリヒト近傍ザイスト(フルベツキ博士出生地)の學生基督同盟大會に移り可申候。何れ又其中御報知申上候。(明治三十八年五月二日夜)

歐洲便り

拜啓仕候。各位益々御勇健奉賀候。小生儀も如何健康を保ち、各處跋涉仕り居候間御放意被成下度奉願候。

偕て三月四日東京出立以來、忽ち滿四ヶ月即ち一年三分の一を経過仕り候。時々旅行の模様等御報知致し度思ひ居候得共、何分多忙にて長文を認めかれ、知りつゝ御無沙汰仕り候。日本の事も戦報丈は却つて早く知り候事も有之候得共、學校の事教會の事等は久しく承らず候間、殆んど想像の緒を失ひ候様に御座候。昨七日博覽會場なるリエジより當地に参り候。先づ歐洲大陸だけは是にて切上げ申すべくと存申候に付、前四ヶ月間旅行の概略を左に申上候。御通讀の後護教社に御廻はし被成下度願上候。

横濱より錫倫島までの間は、何も御報知申すべき程の事無之候間相略し申候。

三月廿七日午後六時コロンボ港を解纜せり。幸ひ好晴なれば夜ふくるまで南天の星宿を眺めて、印度洋の夜景を味へり。翌二十八日の早朝には右舷に高山脈を見たり。蓋し印度大陸南端の高嶺ならん。正午北緯八度東經七十五度、亞典へ一千八百四十四海哩の點にあり。同夜九時南方十數海哩の外に探海燈を見る。甲板上俄かに群をなし、甲は云ふ「日艦來る」、乙は曰く「露のボルチック艦隊なり」と。然れ共其の何れが眞なるを知らざりしが、後に露艦なりしことを知れり。

四月二日、此のアラビヤ海を渡り終りて亞典港に達せり。當港は今回始めての處なれば、都合よくば上陸せんと望みもありしが、過日より船中に天然痘患者ありし故誰も上陸するを得ず唯一人の例外は露國の一人にて新嘉坡より乗込みし船客、昨夜劇しき吐血をなし瀕死の體につき陸上病院の迎ひに伴はれて上陸せり。彼は數百人を除きて上陸の特權を得たるなり。吾人やもすれば人の有せざる特權を我れ一人得んとするの慾を逞うす。而して得る所の者多くは右の病人の如きに類せざるやを省みるべきなり。亞典は山骨稜々、一樹の綠なるものなき處にして、四季綠色を見ず。日本人には甚だ快からざる風光なり。然れども紅海の南口を扼しアラビヤ海を監視するが爲めには、英國の要港とし

て輕かざる者なるべし。此の夕刻拔錨して紅海に進入せしが、左舷遙かに雲霧の彼方はチブチー港(佛領にしてボルチック艦隊の用便をなす處)なるべきも、ボルチック第三艦隊が最早或ひは途中にて出迎ふべきやなど噂とりくなりしが、五日間紅海航走中途ひにこれを見ざりしが、ポルトサイド着の後に至れば、數日前此處を通過せりとのことなりければ、遠く西岸近く航海せし爲め相見ざりしならん。四月六日の早朝右舷に高山脈を見る。即ちシナイ山脈なり。當日午後五時頃スエズの堀割に進入せり。溝巾は五年前に比し一倍も廣くなれる様に思はれたり。溝口にて英國新聞一葉をニシルリング(四疊)に購へり。生來初めて新聞紙に此の高價を拂へり。然れども交戰國なる故國の事情の幾分を知ることを得れば甚だ高しとは感ぜざるなり。粹客一杯のシャンペンに比すれば甚だ廉なりと云ふべし。

四月七日早朝、ポルトサイド(即ち長溝の北端にして地中海門なり)に達せり。コロムボ以西には日本人を見るの希望なかりしが、偶然金子某なる日本人の伊國人の店に居るに逢へり。導かれて其の店に至れば、他にも亦一人の日本人ありて我等と面を知れる者なり。此處にて數葉の繪葉書並除蟲散を購へり。船室にて毎夜臭虫の襲撃を受くる爲め此の薬を要するに至れり。露の艦隊は恐れざるも、毎夜の蟲害には甚だ困難せり。地中海に入りて俄かに涼氣を覺え、三週間前に行季に納めたる冬服を取り出せり。幸ひ好晴なれども時候は甚だ異なれり。四月十日は早朝伊太利半島に雪峰を見、暫しにしてシ、リ島のエトナ山(一〇〇、八)の白妙の帽子を戴きて、看護婦然と顯はれたるを見る。然るに時々薄き烟

を吹き出すは、婦人には不似合なれ共伊太利程度にては婦人の喫煙は止むを得ざる事ならんと勘辨する事となせり。麗しきメシナ海岸を過ぎ（先年は夜分兩岸の電燈に前後を照して通過せしが、晝の景は一段美しきなり）、薩南の櫻島に類似せるストロンボリ島の直下を航し、夕七時黄昏頃よりヴェスヴィアス噴火嶽の黒煙を吐きつゝ、一定の間隔を以て紅焰を迸出するを観る。刻一刻天色の暗さを増すに隨ひ、紅焰の色彌さえ來りて壯美を極むるに至れり。夜九時半名にしちふナール港に入りしが、今夜は上陸叶ひ難き趣にて聊か失望せしも、噴火山の眺望に浮かれて夜の更くるまで甲板に上り居れり。翌くれば四月十一日、朝來雨模様なりしが九時上陸の頃は降雨頻りなり。宿引に導かれてホテル、ド、ナールに投じたり。雨晴れたり。一人の案内者を雇ひて十時半の汽車にてボムベイに至る。二千年前の文明と腐敗とを併せ忍びて轉た感慨する所あり。ヴェスヴィアス今猶火焰鳴動を以て古の如く驚聲を發するを思へば忽ち肌に粟を生ぜざるを得ず、今のナールス、ローマ、グイアナ、パリ、ロンドン等をも一夕の中に埋没し、百年の後之を發掘せばボムベイに百倍するの怪感を興すことあらんも知るべからざるなり。少くも其の罪惡の巧みにして深刻なるボムベイの上數百歩を越ゆることならんかと思はるゝなり。ボムベイの舊蹟には役所もあり法廷もあれ共、尤も贅澤に尤も巧なる所は、温泉花柳の場所なりとす。而してボムベイを知らんが爲めには、ナールの博物館を一覽することを忘るべからず。發掘せる人體併に古器物の多數は皆博物館に貯藏せらるるなり。（七月八日）

二

四月十二日午後ナールを發して羅馬に向ひ、午後八時同市に着せり。羅馬は二度目なれども、矢張初度同様に珍しき物を見候得共、一々其の物其の處に言及するの遺無之付、二三の所感を左に陳すべし。

米國美以教會傳道會社の事業にかゝれる男女の學校あり、教會あり。一夕宣教師クラーク博士の宅にて有志者の會合あり。其の席にて短き話をなせしことありき。一節に曰く「羅馬に來りて忽ち戀郷病を得たり。其の原因は伊太利の風景日本に似たる者多きは一なり。其の教會は餘りに我が佛寺に似たるは其の二なり」と、實に然り伊太利は日本人にとりて樂しき所なり、又甚だ戀しき所なり。堂塔寺觀の壯麗なる之を美術とし珍寶として賞玩すれば宜しけれども、其の物現在の目的性質より之を見れば、悚然として悲觀に陥るより他なし。實に是れ前代基督教の屍骸なりと見ゆるなり。

自由民權の説盛んにして、社會主義の普きは、甚だ進歩せるが如きも、是れ亦寧ろ其の社會に疾病多きが爲めなるが如し。日露戰爭に對し日本を賞揚して露國を嫌ふこと甚だしきは、一時我等に快感を與ふるがごときも、輕躁客氣にはやり、屢突飛なる騒ぎをなす所を見れば、尊敬の意は少しも起らざるを如何せん。然れども試みに伊國をして東洋の一國たらしめば、決して侮るべき國にはあらざるなり。國中にはらめる財産を數ふれば、日本に數倍する者あるべし。其の強大を誇る能はざるは畢竟歐洲強國の間に介在する爲なるべし。

羅馬の滞在は計畫よりも三日程延引せり。是れ鐵道同盟罷業の爲めにして、不得止北部伊太利各地と瑞西の探勝を廢して、直ちに巴里に向へり。此の途中は巴里公使館の甘利氏と同行することを得たれば、便利多かりき。氏は東京の人にして英・佛・獨・伊・ス・ペイン語をも能くする由なり。歐洲人にて三ヶ國位の語に通ずる者珍しからざれども、東洋人にして甘利氏の如きは天材の人と云ふべし。

巴里府にては十日間居りたれ共、見物の邊は甚だ少く大凡は萬國青年會大會又は之に關する事等に時を費せり。青年會大會の準備は巴里市青年會専ら之に應じ非常に盡力せられしに相違なきも、いかにせん大勢は天主教の掌握する所なれば、新聞紙等も餘り多く紙面を假さざるが如し。去れども流石は歐洲の中心として便利も宜しければ、各國の總代七百數十人中には皇族もあり、有爵者もあり、軍人も文士も、商人も、農工者も、各種の熱心家東西南北より星の如く集來せり。大會の末トロカデロの大館に五十年祝典を擧げたる日には、さしにも廣き堂中立錐の地もなく、五千餘人同音に讚美(英・佛・獨三國語にて)をなす様は、壯大にして亦盛美を極めたり。

佛國は露國の同盟國なり。莫大の金を貸して戰爭の利害を鋭敏に感ずるも避くべからざる所なり。故に初めて露の勝利を冀望せし者多數なりしも、追々露國に醜體暴露(露國の敗戦は人心と社會との腐敗に原因する所尤多し)するに及び、輿論公平に復し、日本に對し同情を表するに至れり。而して既に同盟の實効なきを見ては、一日も手を空しうして危険を犯すべからず。是れ急に英國に厚くして其

の權衡を維持する所以なるべし。名譽と勢力とに渴せる獨逸帝は虚に乗じてモロッコを擾亂し、佛國を困らせる事あり。日本は中立問題を以て談判をなす。内には羅馬教會と、教育事業とに付き葛藤あり。政教分離の必要を認めて其の實行に苦しむ等、伊國の苦業察するに餘あることなり。

四月三十日を以て巴里の會を終りたれば、五月三日には蘭國ザイストに移れり。是は蘭國の大磯(海はなけれども)にして、富家の別墅多し。清潔にして閑靜なる小邑なれば、學生大會の地として選びたるは尤も適當なり。會場はモラビアン教徒の殖民教會堂にして、別に裝飾もなければ清潔なる會堂なり。此の會は巴里の大會の如く大勢ならざりしも、代表せられたる國の數は却つて多く、人數の寡き丈け顔をもよく見知り、却つて有益に有之候。

此の地方の人は初めて日本人を見たる事とて大いに珍しが、殊に戰捷の評判高きにより大いに注目し、逢ふ人毎に脱帽の禮を受くること、特に小兒は前後に取巻きて禮をなすことも有之候。大陸にては英米と異なり、脱帽の禮をなし候。此の邊は日本と相近くと被思候。

五月八日ザイストを辭して白耳義のアントワルプに着候。我等の荷物は便船にて此處まで送り日本領事館に達し居り候間、此處にて仕度を整へ申候。當地は河港に候得共、幾百の大船を自在に横付けせしむべき装置整ひ、盛んなる者に御座候。此の地は有名なる美街家ルーベンの生地とて、名高き大作物有之候。其の内大會堂にある基督の十字架に上る處、並に降る處の二枚尤も立派に御座候。

五月十日當地を去りて當國の首府ブラツセルに移り候。是は所謂小巴里にて立派なる市街に御座候。青年會は微小ながら大いに努力いたし候。此の地方は凡て天主教の金箱の由。新教は甚だ微弱に御座候。教育の權も悉皆天主教會の手に在り、従つて普通教育の學生も隣邦新教國の如くに行はれず、比較的就學兒童も少き由に御座候。

五月十二日ブラツセルを辭して、蘭國首府ヘーグに移り候。此の地は新教國にて青年會館も相應立派に御座候。男爵マケール氏等身分ある人々が盡力いたし居候。此の地の美術館には名高きラムプランの解剖の大作有之候。青年會館にて二度演説いたし候。其の一度は身分ある人々多く有之候。二三の大員連も有之候由。此の地方は、露國とは經濟上の關係深く、兩王室の間も近く、且つ日本が強大になり蘭領印度地方を侵略するの意志ありなど、色々の噂をなし、日本の武功を氣味悪く感ずる者に有之候由。

五月十四日アムステルダムに移り候。此の地は蘭國中の大都市にして盛なる處なり。是も場所相當の青年會館あり。一夕大學の講堂室にて學生青年會員に對し談話せり。此の地にてライン河より瑞西に溯り、獨逸オストリア・ホンガリ・スカンデナヴィアを巡廻する切符を買入れ、十六日に出立せり。今便は是丈けにして次便に相譲り申候。來る八月六日の船にて渡米の積に御座候。皆様によりしく願上候。敬具。

三

前回の通信は和蘭陀アムステルダムまでの記なりと記憶せり。扱て五月十六日には右同所を發し、ライン河を溯る事となれり。是より十日間にして、廿五日には埃太利國の首府ヴィエナに着せり。先づ此の十日間に於ける見聞中の數點を記すべし。

アムステルダムを發せしは午前九時半なりしが、午後三時にコローンに着せり。此の地は大聖堂を以て名高き處なれば、兎に角一泊する事となし、カテドラル(大聖堂)の近傍なるホテル、ミナルヴァに投宿せり。寢室を定めて、取敢へず此の寺院を一覽する事となせり。前面の双塔天に聳え立つ、其の高さ五百尺ありと。教堂の塔としては世界第一等なりと云ふ。四面玻璃窓の繪畫甚だ美なり。前面と左右の入口を飾れる幾百の彫像精妙なり。時代の後れたる(之を巴里のノートルダム等に比して)丈け彫刻の精妙なるは自然の事なり。今日は久し振りにて髪を刈り、飽くまで食ひ、入浴して安眠せり。髪を刈らざりしは閑を得ざりしが爲なり。飽くまで食ひしは、此の日まで三日間、某老婦人の客となり、丁重に接待せられしかど、老婦人の事とて食量の見積り兎角少量なり、遠來の珍客さう無遠慮に請求も出來ず、いと品よき人となりて三日を過せしは一種の難業なりき。是と同時に入浴の機會なかりし事も一の苦痛なりき。必要の路金を懐にせる歐洲の旅なれば、滿洲出征の人々に比すべき様もなければ

ども、萬事は日本的にあらずして、些々たる物も缺くが爲めに、他の金玉も日本旅客を慰めて甚だ不足あるが如きは一種の出征と認めざるを得ざる所なり。翌日は汽車にてコローンを發し、三時間許りにしてラインの西岸コブレンツに着せり。此處はモゼル河とラインとの落ち合ふ處にして、ライン地方のジブラルタルと稱せらる。兩岸の城砦として侵すべからず。山紫水明の間殺氣の磅礴するを見る、人をして慄然たらしむるものあり。是より上流ビンゲンの間尤も風景の勝りたる處にして美麗なる汽船の往復頻繁なり。生等もコブレンツより汽車を去りて、美麗輕快なる汽船に移り、流に溯りて西岸の田園、市邑、城砦、舊據を送迎し、午後三時ビンゲンに達せり。此の五時間に經過せし處は、兩岸高くして狭く、時には嵯峨として攀登り難き處も少からざれども、概しては兩岸の丘陵大浪のウネリの如くして、自ら大陸の風趣を脱せず。多くは葡萄園にして、いと丁寧に耕耘の効を顯せり。生等は佛蘭西の平坦耕地人工の美に飽き居たれば、ラインの谷地こそ我が野趣を飽かしむる者ならんと思ひしに、此處もヤツバリ文明の被服に戰魔を覆ひし處なるを見ては少しく失望せざるを得ざりき。然れ共是は全く注文の違ひにして、ラインは元來斯のごとき者なりしなり。扱て我が船は定時を違へずビンゲンに着しければ、谷地大いに開けて大世界に臨みたるの感あり。此處に再び汽車に移りて二時間足らずにしてハイデルベルグに達せり。汽車の都合にて一泊するを便として停車場に程近きグラントホテルに投じ、直ちに舊城地の公園に歩を移せり。城は一千尺もあるべき高丘の側面に突出せる

中腹にありて、數百年の古色蒼然たる者なり。綠滴る樹林に圍まれたる幽邃の地なり。園の一角より下方を眺むれば舟楫の便を有する河水市街の一方を回りにて、遠く平野に向つて奔流し風景絶佳なり。我が國笠置山に登りて山下を眺めたる趣あれども、人烟の濃密市區の壯麗なるは笠置の類にあらざるなり。

此の地に一泊してストットガルトに移れり。此の市はワルテムボルク王國の首府にして、西方山を以て圍まれたる美麗なる市區なり。ザイスト學生大會にて邂逅せる、獨逸學生同盟の委員なるグンデルト氏に迎へられ、氏の住家に伴はれたり。氏の家は市の一隅なる高地にありて果樹園に圍まれたり。尙數週間遅からば櫻桃將さに熟せんとす、惜しき事なりと語り合へり。氏の父は印度宣教師の子にして今は出版を業とす。内村鑑三氏の『余は如何にして基督信徒となりしか』を獨語に翻譯して出版せしは、此の父子なり。午後には父のグンデルト氏も歸れり。氏の契約ある婦人も來れり。(數哩外の田舎に住居する由なるが、日本の信徒に逢はんとて態々來れる由。尤も此の若き兩人は遠からず日本に往きて、主の王國の爲めに力を盡さんと志望ある人なり)。此の家には男女九人の子供あり、伯母もあり、家族總勢十二人。外に數人の奴婢あり。長幼の順整然として親和の氣、信仰の風、家内に充滿せり。人は云ふ獨逸の宗教は家庭に在りと。蓋し之を云ふなり。午後八時より青年會館の演說會に臨み兩人共通譯にて演說をなししが、會衆は千人計りと註せられ、立錫の地もなく同情に充ちたる聽衆な

りき。此の會館は近頃落成せる者の由にて、歐洲大陸第一の青年會館なり。凡ての設備能く整ひ、殊に寄宿舎は一室一人づゝとして百人を容るゝに足る。毎日此の館に食事をなす者三百餘人なりとは、餘押しして知るべし。翌日當會の幹事に伴はれて、ランテンバ氏なる老貴婦人を訪ふ。夫人は本國産にして故ワルデンセ伯夫人の姉妹なり。好んでワ將軍の日本を愛せし事を談ず。談話の一節に曰く「日本人は實に英智なり、彼等の戰略は義兄和將軍の考へと正に符合せり。和將軍の死後其の机の引出より一の草稿を發見せり。其は日露若し開戦せば、日本の取るべき戰略は斯くあらざるべからずとの考案なりしが、日本の行動は實に符節を合するが如くなり、云々」と。(夫人は翌日幹事に托して金三十マルクを我が青年會軍人慰勞の事業にとて生等に贈られたり)今夜は學生會に臨めり、會する者五十人計なりしが、是は全く専門學生のみなり。此の夜もグンデルト氏の通譯にて兩人とも談せり。ストットガルトより瑞西のバゼルに移りて三日間逗留せしが、一日有名の勝地ルサルンに至りしも、雨天にて高嶺諸峰を見る能はざりしは遺憾なりき。バゼルにても青年會館に三百人計りの集會あり、兩人共演説せり。此の地よりミュニツクに至る間には、山あり、湖あり、山水の眺望佳なり。折しも降雨し遂に雲となり(五月二、十三日)、四山皆銀色を呈せり。ミュニツクに着してホテルペリビユーに投じ、翌晩は少數の學生と共に懇談をなせり。此の地はパウアリア王國の首都にして繁昌美麗なる市街なり。ビール^{ビール}の産地として、亦人民がビールを多く呑む處として有名なり。宗教は天主教の盛んなる處にて

随つて青年會等は甚だ振はざるなり。學生の甚だ多き處なるが、決闘の蠻風獨逸中にも盛んなる處なりと云ふ。途上面部と頭部に繻帶を施して通行する者を見れば、大概は皆是れ決闘の結果にして、顔に疵なき青年は青年の資格なき者なりとは驚き入りたる事ならずや。是が獨逸の元氣なりと云へば、吾人少しく敬服も恐怖もすること能はざるなり。日本の青年は宜しく日本武士の古風を學び容易に險を弄すべからず。是れ義勇の眞道なり。輕躁に劍を弄し皮膚を破ぶりて、俄に敗を定むるが如きは市井無頼の戯れなり。沈勇を貴び士風を重んずる者の愧づべき事なりとす。余はビールをかぶりて猥りに險を弄する者を傍ながら愧づる者なり。當市には善き美術館あり、觀覽して價值あり。ミュニツクより塊太利ヴィエナに到るの道は、坦路にしてダニユフ河の上流に沿うて下る者也。大陸中央の中路なれば、眞に大陸らしく、路傍には多く十字架並辻堂のごとき物を見る。天主教と佛教と愚民を弄するの術、殆んど其の揆を一にするが如し。人情由來東西なし。可笑しくも亦哀れなりと云ふべし。

ミュニツクには米人デビス氏が學して、生等の爲めに周旋する處多し。氏は同志社デビス博士の子にして遠からざる内に日本に渡航し、青年會事業の爲に盡力する積りなりと云ふ。氏身の丈六尺餘、風采頗る博士に似たり。眞摯寛容温乎として國士の風あり。日本の青年に交るには適當の人なるべし。窃かに其の成功を祈る處なり。

ミニツクの集會は、歐洲大陸にて生等の臨席せる集會中最少數の者なりしと雖も、中に三人の同胞あり。三浦・石井・鶴見の三氏なり。而して三浦氏は曾て高等商業青年會の會員なりしと自ら語れり。生等は興味と獎勵とを與ふること少からざりき。

塙都維納に着せしは、五月廿五日の午後七時過なりしが、我が公使館書記生松本氏停車場に來り迎へて、色々世話をなし呉れたり。(過日來日耳曼南部に入りて後は車掌等に英語を解する者甚少く、色々の不都合を生せし事ありしが今日は列車同室中に二名の猶太人あり。一人は曾てラビたりし由にて、稍英語をも解し、懇ろに小生等を助け呉れたり)。松本氏に伴はれて、維納中央の一下宿屋バンションポールに投ず。此處には過日來元良榊の兩ドクトル在宿し、今夜十時の汽車にてボヘミアに向ひ出立の都合なりければ、互ひに久淵を叙し、懇話の後兩氏の室を引受くる事となり、好都合なりき。

翌廿六日にはブダペストを後にして、先づ維納の記事を了すべし。維納は流石に巴里と繁榮を競ふ程(其の實力は到底及ばざるべきも)の都府なれば、市區の整ひたる街車の便利道路の堅實なる殊に中央公衙の區の如き壯麗なる建物・王宮・議院・博物館・市廳・大聖堂及び他の中央官衙等が、公園を中心にして並よく配列したる様は、歐洲中何れの大都府も肩を並ぶる者あるべからず。實に秀麗華美なる都城なり。市の中央に輪廓と名づけらるゝ廣小路あり。數條の鐵路を布設し、電車の往復織るがごとし。其の形宛も王城の丈ヶを短くしたるが如し。往時は城壁と堀とありしを埋めて大路となししなりと、

或る處には今も猶其の名殘あり。歐大陸の舊都城には斯の如き處少からず。獨り巴里府(城)の一八七一年籠城の儘に遺れるは、再び籠城せんとする心にや、緣起悪き事と云ふべく、其れに付けても我が東京の外堀内堀をも埋め立て、便利と衛生との利を圖ること得策ならんと思はるゝなり。

此の市には二三の會堂を見舞ひたる外見物の違なかりき。否寧ろ見物に疲れたるの感あり。會堂には新古二大聖堂あり。何れも壯大なれ共、天主教的寺院的なるは例の如きなり。但し聖ステパノ聖堂は頗る古き者にて、參詣人の多さと懇懃たるとは他の堂に比して出色あるに似たり。

我が公使館は中央部に在り(但し三階なり、二階には或る他國の公使館ありと云ふ)。王宮の近傍にして便利なる處なり。牧野公使は夫人と共に懇切に待遇せられたり。公使の紹介にて色々の便利を得たり。日本海戰大勝利の詳報が公使館に達せしは生等が訪問せし日にして、互ひに祝意を述べたるは、異境にありて尤も心地善かりしことなり。當國は政事上の關係淺からざれば、王室は勿論政府の面々には明白に同情を表すること少き由なるも、一般人民に於ては獨逸聯邦と異なる所なく、公然同情を表し、日本萬歳の祝聲を惜まざるなり。當地英國大使館付教師ヘクラ氏なる人あり。篤信にして少しく奇趣を帯びたる人なり。氏は懇篤に生等を導きて訪問又は見物をなさしめ、集會の節には演説の通譯をなし呉れたり。氏は獨帝幼年の頃家庭教師たりし由。氏の説によれば當市の道德は頗る破れたり、信仰も亦振はずと云ふ。當市は前述のごとく天主教の一王城なるにも拘らず、新教も亦大いに力を盡

し居れり。隨而青年會は可なりに運動をなし會館をも有するなり。常置の幹事等も有するなり。右役員諸氏の斗らひにて、某新教會堂に集會を催し、五百人餘の集會あり。兩人とも演説せり。聽衆の過半は婦人なりしが、牧野公使は之を聽き、其は上出来なり、婦人は能く新聞を配布し輿論に力を添ふること或ひは男子に勝る者ありと。歐米にては蓋し然る者あらん。維納は天主教の金庫にして、有力なる福音的教會もあらぬこと故、生等は唯一の見物所と思ひしに、却つて見物の出来ぬ程忙かりしは望外の事なりし。

(明治三十八年七月) — 續稿省略 —

米遊略記

前略、去る七月十二日は港外に二時間ばかり止まりて、密航者を詮議致候ところ、兩人見出し候由、隨つて時間遅く相成、午後四時愈出帆致候。當日は何事もなく夜食を済まし眠に就き候。翌朝は大洋にて浪も大分荒く相成候。日中の天濃霧にて何處とも分らず、唯島洋航中とばかり相分り候。當日食事も唯形のごとくにて相進まず、三日間は毎日少しづつ進み、四日目よりは全く平生の人と相成候。天氣は悪しとは申されざるも、晴天遠山を見ること更に無之候。廿五日ヱイクトリア着まで食卓にワクを置きて食器のスベリを防ぎたること一度も無之候。ヱイクトリアよりは内海なれば、勿論のこ

となり。船客は一等二十一人、二等十三人、三等百八十人にして、之れに船員百余名を加ふれば三百幾十名なれども、六千噸の大船故少しも窮窶を感せず候。船長は大野錠太郎と申す人にして、此の下に二人の西洋人あるのみ。余は凡て日本人に御座候。清潔にして萬事行届き誠に心地よく食事も昨年のタアタアに比すれば大に宜しく、殊に三等の取扱は外國船と比較相成らず行届き居候。三等船客は日本船に限ること存候。船客中には聖公會のパンコム氏夫妻と少女あり。二度日曜日に逢ひ、兩人にて船長の許を受け一等の食堂にて禮拜をいたし候處、兩日共五十余名の出席有之、日本船にて日本語の禮拜をかく立派に致せしは始めての經驗に御座候。蓋し太平洋上始めての事ならんか、大勢の變遷を感謝致候。

此の度の航行中不足を云へば霧多かりしことに御座候。ヱイクトリア着の前日までは夜間星を見しことなし。晝間とても直接に日光を受けたること甚だ稀なり。隨つて海上にも見るものなし。廿四日に至り始めて鯨群を見、又日本行の汽船を見候。

眼の検査を恐るゝ人は多くヱイクトリアより上陸せり。三等客は半分位にて九十人もありしならん。然るにシャトルの検査は甚だ寛大にして酷なること無之候。三等客にて兩人故障有之由なれども、之も滞船中には許さるべきの見込ある由。却つてヱイクトリアの方は近頃嚴重になりたる由。合衆國の検査官は英領に上陸するを苦々しく思ひ居るとの事に候。唯彼地にては治療の上再試験を受くるの便

利有之候由なれ共、宿屋は随分儲ける由に御座候。

一昨日日本へ参りし南美以の監督キャンドライ氏が出立の際に、本部より受取りたる電報には、各派合同と決せりと有之候由、蓋し三派の事ならんか。當地の人は右問題不案内につき、右の報知も漠然として明瞭に無之候間、唯諸方へ通信して確報を得度試み居り候。其の模様により進退を決する積りに御座候。何れにしても八月七日頃には、監督克蘭ストン氏當地より二日路ばかりの處へ参るやうに相成居り候間、之れへは是非参り可申、其の上にて又考へやうも可有之候へども、カナダり總會に一寸参る事も必要ならんかと考へられ候。

スワルツ夫人二女一兒を率ひ、昨日當地を通過し、晚香坡へ向ひ候。三十日出帆のアセニアン乗込の都合に御座候。此の書面も其の船にて参り可申候。

一昨廿六日午後三時、當地に無事上陸、吉岡氏の美以教會へ投じ申候。(七月二十八日)

二

護教記者足下 小生は八月一日附を以て御報知申上候後、同八日を以て愈々シアトルを發するに相成、午前九時三十分大北鐵道にて東部に面を向け申候。カスケード山脈の幽谷大麗を通過し、天然の壯觀を嘆賞しつゝ十時スポケーン市に安着し、翌日は逗留して日本人會の正富氏並美以教會の諸兄弟

に面會し、諸氏の厚遇を受けたり。當夜は出立前に暫時演説をなせり。此の市は山水の美に富みたる新市にして、漸く繁昌の兆を顯すところなり。此處珍しく兵營もある處にて、後日の隆盛懐ふべきなり。夜半此の地を發せしが、翌十日は曉來平地より進み山嶽に迫り、遂ひにロッキーマン山脈に達せり。是も亦カスケードに次ぐべき森林數百哩に綿々たる所にして、山中の一邑白魚には美麗なる湖水數多あり。天は不文明の僻地に眞美を秘藏する乎と疑はるゝ斗なり。夕刻モンタナ州のシヌックなる新小邑に着すれば、同地方ミッシヨン總理ヴァンノルズデル長老に迎へられたり。監督克蘭ストン氏夫婦にも納涼旁々停車場邊に逍遙せるに邂逅せり。

此の地に止まること三日間、此の地目下宣教會開設中なれば、日々之に出席して諸兄弟に交際し、時々監督克蘭ストン氏に逢ひて合同問題の経過等を聴き申候。氏は我が教會を代表せる委員中一人の監督にて専ら他派の委員と折衝せる人なれば、色々心勞せる廉々も承れり。又教會中の然るべき邊にも勢力ある保守家もなきにあらざれば、之に對しても相應に配慮を要する事情なきに非る趣にも聞え候。各派の委員皆何れも相應に心配をなし、合同の協議を纏められたることを親しく監督より承れり。此の邊は未開の地方にて人口も少く、傳道の形勢も幼稚なり。某長老は土人の傳道に任じ居りしも、久しく詳なる報告をなさずとて、四方より詰問を受けたる様も有之候。邊陲に於ては日本の傳道よりも一層困難に見受けらるゝ所有之候。八月十三日夕刻シヌックを辭して猶ほ東方に進み、ミネソ

タ州の沃野千里一望無際の玉蜀黍畑を瞥見しつゝ、十四日の夜セントポール市に着せり。十五日夜明れば列車はミヅリ河に沿うてシカゴ大市に直行しつゝあり。後零時半、同停車場に着し、中川邦三郎高橋堅の兩兄に迎へられて、某の下宿屋に投せしが、翌日は清水領事の住宅に客となりて、二日間此の市に留り、十七日夜トロントに向へり。

シアトル出發以來、何地も大暑にて難儀せしが、明日はカナダに入ることなれば、少しは涼ぎよからんと夢裡に希望を懷きて夜の明ると國境を越ゆる事を樂しみしが、何の甲斐もなく、人間彌増し暑氣は少しも退かず、十八日の午後三時トロントに着せり。寄宿所は高木壬太郎氏と同所にて、美以教會傳道協會青年部の幹事たるステヴンソン氏と同居する事となり、大いに便利よく、倅二郎を始め数名の日本青年等と毎日面談するの便を得たり。唯恨むらくは暑氣凌ぎの點に於ては、全く意想外なりしことなり。當地留ること十一日間カウマン、サザランド兩博士は勿論、他の數氏にも面會して懇談することを得たり。紐育にも是非往くべきなれども一屢甚だしき暑さと聞き、且つ逢ひたき人々未だ諸方に居る由なれば猶豫せしが、八月卅日を以て船路湖水を横ぎりてナイアガラ大瀑布の此方に向へり。トロントは清潔にして静かなる都市なり。家教の勢力大いなるところなり。此の市の大にして（人口十五六萬もあらん）此の宗教的なる、恐らくは米大陸に於て此の上に在る者あらざるべし。大學亦盛大なる者あり。官立大學を中央にして各宗派の數大學を連絡し、共通の便利を與ふるが故に、其の

實一大大學となるなり。（羅馬のコロシムは高壁を廻らして築けるなり、此は精圓谷の内側に運動場を設くる者にして、趣向は異ならず、其の大きさは蓋しコロシムに過る者あるべし）。

此の日は紐育州シラキユース市に著して、ドレイバル氏の留守宅に一泊し、家族の厚待を受けたり。八月卅一日朝シラキユース大學の構内を逍遙して、五棟の大建物と窪地に一大運動場を築造しつゝあるを見たり。此の大學由來美以教會の一雄鎮に相違なきも、本年に於て俄かに此の大擴張をなすに至れるは驚くべきことなり。米國の諸事業が一旦好機に逢へば、如斯勃興をなすこと其の例に乏しからず。是れ此の國の特徴とも云ふべし。其の富力の大なる嘆美の他なきなり。當日夕紐育着石川和助兄其の他に迎へられ、ブルクリン市のミッシュンに投じ、近傍の支那料理屋にて米飯を喫し、温浴して寢に就けば高架鐵道の間袂まり、汽機洗濯屋の向側なる騒がしき所なるにも拘らず、安眠熟睡天の明くるを知らざりき。

紐育にて面會し度き歴々の人々は未だ避暑地より歸らず。カナダの總會には猶十有餘日あり。此處如何に身を處すべき。幸ひにしてニュージャージー州アトランチック市に開かる青年會萬國委員年會の懇なる招待に應じ翌九月二日同處に赴き、モット、ヘルムの兩氏は勿論數多の知友に面會し、青年會に就きて訴ふるの好機を得たり。又モット氏は美以教會傳道會社委員の一人なれば、日本合同新教會に就きても相談して益を得る所あるを信せり。此の地にて圖らずも本田増次郎氏と、當地に商店を有し大い

に成功せる近藤氏の宅に邂逅することを得、互ひに旅情を慰めたり。扱て此の地は名高き避暑地として群衆雑沓言はん方なし。眞に人に酔ふの感あり。大西洋に面せる海濱なれば、先づ第一に賞すべきは磯打浪の壯大なると、無際の大海を照せる月の光の妙なるとにあるべき筈なるに、當地に入込める充客は此の美なる水と天とを眺むる者甚だ稀にして、惟前後左右にある電機仕掛の觀せ物に其の心を奪はれ、小兒らしき遊びに満足するは頗る怪訝に堪へざる事なりき。此の海濱七哩の間に巾三間、高さ二間、又は三間位の長橋あり。歩みて納涼し浪と月とを眺むるは、人生の一快事なり。此處にて大いに感心したるはこれなり。

九月四日ブルックリンのミッションに歸れり。紐育は大なり、彌大なり。若し何かを見んと欲し又語らんと欲すれば際限なし。故に視ることを廢せり。去れども猶見えたる者もあれども、語ることを廢止せり。九月五日には更に方向を轉じ新英蘭のノースフィールドに往けり。アトランチック、シチイにてモット氏多忙の爲悉し能はざる所を悉さんが爲なり。今は夏季學校の時節も過ぎたれば至つて閑靜なり。されどノースフィールドホテルには數十名の客ありて徐かに閑靜を樂しむあり。我等も其の一部なる乎。十数名の青年會外國派遣幹事諸氏が、總幹事と懇談熱論して良法を講せんと欲するにてありき。此の地三日間逗留して諸氏と交歡するところあり。特にモット氏と新教會に付き又明年世界學生大會等に就き懇談することを得たり。此の地はムーデー氏の居村なり。子孫今猶盛なり。一影往きて

圓山(ラウンドタッフ)に詣れば、ムーデー氏夫妻は靜かに此の坡面に眠れり。此の小丘は幾百の青年をして其の心靈を主に献せしめし處なり。聖なる哉靈なるかな、低徊去る能はざる者數十分。

九月八日ノースフィールドを辭し、途中スプリングフィールドに下車し、青年會幹事傳習所を訪うて新來の守瀬氏と面會せり。斯て同午後六時紐育に着し、ブルックリンミッションの本陣に乗込めり。翌九日ハリス監督の書狀に接し、氏のペンシルヴァニア、ミッドウィルにあるを知りたれば、電報にて進退を諮りしに、明後日氏自ら紐育に來るの要ある由申し來りたれば、待合す事となせり。此の日近傍のプレマス教會に出席したれば、圖らずも前牧師ライマンアボット老師の説教あり。老來益々壯んなるの意氣を見、大いに愧ぢざるを得ざるを感せり。

九月十日石川氏と共に大暑を侵して東オレンジのヘボン老牧師を訪へり。氏齡九十二年。歩行稍健強ならざるの嫌あれ共眼力は未だ眼鏡を要せず。言語明瞭に思想正確、能く舊知を記憶し、談皆要領を得。當春老夫人を先立て今は矢張九十代なる従姉妹と同棲する由。談靈性の事に及びしとき徐ろに演べて曰く『子は悪しき世の中に飽きたれば、より善き國に到らん事を待ち望むのみなり』と。米國の變遷を問ふに答へて曰く『予が日本に傳道に赴きし頃は、米全州に未だ汽機を用ふる船車なし、カナルの遅緩なる引き船と馬車あるのみ。日本への航海にも五ヶ月餘を費したり』とて微笑せるさま神々しかりき。

此の日中大暑を侵してブロンキス公園に至れり。納涼せんとてなりしも失望せり。

九月十一日は監督ハリス氏の豫約に應じ、美以傳道會社幹事室に到れば、監督は既に着し居れり。氏の旅宿セントデニーに往き、久振にて閑談す。十一月一日の傳道會社總委員會まで諸方の年會を訪問すべしとは、監督の希望にて、概略の見込を立て、明日午後よりモントリオールなるカナダ教會の總會に赴くことなせり。

翌十二日此の日はカナダ總會の第一日なるが、予等は今晚シラキユースに一泊して、デ、エス、スベ
ンセル氏と會談し、明日モントリオールに着するの見込にて、一時二分紐育を發し七時シラキユース着、
豫定の如く一泊して用便をなせり。

同十三日午前十一時、シラキユースを發じ、コチカにて道を變じ、アデロンタックの山中を経てモン
トリオルに向ふ。途中降雨あり、少しく暑威を減せり。山間湖川其の數を知らず。勝景亦少からず。
夜十時過モントリオール着ウインヅル大旅館に投せり。外觀甚だ壯なれ共、内部の設備多くは舊式にし
て、英領一般のジミなる氣風顯然たるを見る。總てカナダは英米兩風の間在りて、程よき點も少か
らざれ共、合衆國に比して進歩遅緩なるを感せしむること往々これあり。

九月十四日午前九時總會々場たるセント、ジェームス大會堂に至り、カウマン博士に導かれて傳道協
會委員會を傍聽せり。サマランド博士亦在りて吾等を紹介せり。監督并自分も極めて簡短なる挨拶をな

せり。午後本會議場に至れば博士サマランド氏の紹介にて、先づ監督ハリス氏、次に微生總會に向つ
て演說せり。今日此の待遇を受くるは殊遇と云はざるを得ず。總會全員三百余名、傍聽席亦空位なし。
蓋し盛會なり。今夜ラチロナと云ふ第二等の旅館に引移れり。

十五日午前は一應總會々場に至り、監督ハリス氏、高木壬太郎氏と共にマウントロイヤルに登り、全
市を瞰下し遠近を眺むれば、實に是れ絶景なり。山麓には新舊兩部より成れる一大市あり。即ちモン
トリオルにして全カナダ中最大の市府なり。美麗高大なる建築物も屈指するに堪へず。セントローレ
ンスの大河洋々として市の東邊を流れ、西洋航行の大船舶を泊すべし。沿岩平野遠く天に接する所、
又遠山杳として連波の如くなくなるを見る。實に是れ大且美なる絶景なり。ハリス監督は今夜々行列
車にて紐育に出立せり。

三

九月十六日前九時よりセントジェームス大會堂のチャペルにて愛餐あり。十時よりは禮拜式あり。此の
日教壇に列席せる者は博士カアマン氏、英國の交際委員博士コリアル氏、牧師ヤング氏外一名、何れ
も黒色のガオンを被り立派に見えたり。コリアル氏の説教は頗る平易なる福音なりき。今夜は同處に
て美以教會の交際委員メンヂスト、レヅニの主筆博士ケリー氏の説教あり。森羅万象天則の微妙よ

り靈界倫理の妙法に及び、頗る思想に富み學理に訴へたり。寧ろ朝夕の辯士其處を替へたりしならば頗る有益なりしならんとの評もありき。

九月十七日は夜八時モントリオル市を發し、ラットランド鐵道に依りて紐育に向へり。翌十八日午後紐育傳道會社事務所に理事員會あり。出席傍聽せり。監督ハリス並博士ガウチャ氏にも面會せり。ガウチャ氏とは來る木曜日往訪を約せり。ハリス監督は今晚紐育を發し西部に向へり。各年會を訪問せんが爲なり。自分もボーチモア華盛頓を訪問の後、西部に赴くべき見込みなりき。

九月十九日石川和助兄と共にボーチモア市に向ひ、十二時四十五分ガウチャ博士に迎へられ、氏の別荘に往き二日間逗留せり。ボ市に南美以教會監督ウイルソン氏を訪問し、合同斡旋の勞を謝せんとするは此の行の目的なりしが、惜いかな氏は遠く某年會の提理に赴きて不在なりき。ガウチャ氏は來る十月下旬に三女を率ゐて印度に赴き、彼地に傳道五十年祝賀會を斡旋し、明春は我が邦に來遊すべきの見込なれば、教會の事學校の事等に就き熟談するを得たり。ガ氏の別荘はボ市郊外十余哩のバイクスヴィルに在り。アルトデールと稱する一地域にして、數十丁の耕地と森林とを前後にせる日受けよき丘上にあり。華奢ならねども清潔にして風致ある三階建の家屋なり。林中に數個の清泉あり、純清掬すべし。

此の地滞在中色々交歡する所あり。事業に熟せるガ氏の意見によるも、予が米國に永く逗留するより

速に歸期すること勝れるを觀たるが故に、茲に十月十二日の日本丸に乗込むの方針を定めて歸途に上る事となせり。然れども華盛頓にはまた少しく用事もあれば、九月二十二日ボ市を辭して華府に移れり。石川氏は初めての事故共に見物をなせり。二十三日の兩夜は、青木大使を訪問して閑談することを得たり。大使は一兩日前避暑地より歸れる斗にて、交際社會も未だ繁多に至らず、近日某某街に一層大なる家を賃して大使館に充つる積なりとのことなりき。

九月二十五日華府を發して紐育に歸り來り、二十八日桑港に向つて出發するの準備に取掛れり。ハリス監督とはシカゴ又は附近にて面會せんが爲めに書狀を發せり。

九月二十八日午後六時紐育を發してシカゴに向へり。二十九日夜十時シカゴ市、清水領事の宅に投せり。ハリス監督の出張分明ならずして、豫約の會見覺束なく十月二日まで滞在して、同三時過辛うじて監督に會する事を得、歸朝の決定を語りて同意を得、同夜十一時北西鐵道に依り桑港灣に向つて發せり。監督は先日來シカゴにインデアナにオハヨーに數ヶ所の年會にて、日本朝鮮の事、特に日本の合同教會に付演說せられたる由。随分色々の質問にも逢はれし由語られたり。質問の種類によりては我輩日本人の口よりは寧ろハリス監督より辯明するの便利なるもの甚だ多し。されど又是と反對なる場合も亦なしとせざるなり。

十月三日早朝、起出で、見れば列車は正にアイオワの廣原を疾走しつゝあり。滿目皆玉蜀黍の世界な

り。是より四日間は震動する一室内に起臥して、日の暮る事夜の明くるを待ち詫ぶるのみ。二日目には遠山を眺めたることありしが、三日目には段々高地に進みて、海拔四七七八尺の處に湖水を見、ロツキー山脈を越ゆる事となれり。北方山脈のごとき美景もなければ、變化少き平地よりは目を慰むること多かりき。遂に降りてユター州に入り、大鹽湖にさし懸れば、昔のごとく此の岸を迂回するとはせずして、湖心を貫通せる二十一哩の長橋を走過する事となれり。其の景色と其の壯圖とに一種奇なる感想を懷き、二時間に徐行して彼岸に達し、乗客皆嗚呼と嘆賞せり。是より長き砂漠を疾走し行けども、はてしを知らず、又も一夜を明かして車窓の外を見れば、再びシラネバダの山脈を通過するところにて、森林茂立の山間をウネリ、下りて、遂に加州の平原に出で、十月六日午後二時桑港の對岸なるオークランドに着し、ヴェール、相原、廣田等諸氏に迎へられ、暫時停車場に談話の後相原、廣田兩氏と共に桑港に渡り、帝國ホテルに投じて一室を賃せり。桑港災後の慘狀今猶人をして慄然たらしむ。街路の電車は大概運轉し居れ共、燒跡の取片付は未だ甚だ行届かざる模様なり。市内の取締も欠點なく、加ふるに惡漢他方より入込みて安寧を害する事少からざる趣なり。左りながら一方には既に大建築に着手せるもなきにあらず、舊の住宅地なる者今は商店に化して、繁華なる商區となれる所もあり。殊に日本商人は火災前に倍するの景氣を顯はし居れり。是れ亦排日論を挑むに類するなきを得ずと雖も、必竟機に應じて前進する者には困難を避くる能ざる事と知るべきなり。

日本丸の出帆までは僅かに六日間なれば、諸方の教會訪問の便宜も少く、僅かにサンノゼとオークランドを訪問せるのみ。桑港教會は舊教會と同町なる燒殘一屋を借り學校と教會とを兼用する由なるが禮拜の席には強て六七十名を容るゝほどに見ゆれど、今の場合には最上と思はざるべからず。何れも熱心に業務を勵み、教會にも割合よく出席する由なり。當地にては上野領事を初め有志者の厚遇を受けたり。十月十二日今朝美以教會の監督某氏と傳道書記ラム、マス氏他二名の紳士我が宿所を訪問し、暫時共に語り合へり。午後一時日本丸解纜せり。一等船客百余名と註せらる。近頃モンゴリア、マンチュリアの二大船坐礁の難ありしより、乗客皆東洋汽船會社の便に依るの必要を生じ、大繁昌となれり。十八日にはホノル、に着し本川三浦の兩牧師に迎へられ、望月と云ふ海水浴場に有志者の宴會に臨み、同夜は清潔閑靜なる此の館に一睡し、翌朝ワドマン氏夫婦を訪ひ、朝鮮人學校並日韓婦人館、美以教會等を通觀して十時の出帆に間に合せたり。教會は新築にしてピアノオルガンまで揃ひ居り、海外日本人の教會中にては最美にして整頓したるものならん。此の地十七年前に上陸して一泊せることありしが、其の是と進歩の度大いに變り、殊に日本人の事業の擴張は非常なる者を見受けたり。十九日十時ホノル、を發し、例よりは余程南方の航路を取る。百哩斗りの延長なれ共風潮の便を以て埋合せをなすの見込なりし由。果して見込通りに都合よく卅日午前六時横濱港外に達し、檢疫の後八時一同上陸するを得たり。十月十二日信濃丸にて横濱を發せし已來三ヶ月半餘にして無事本國に歸着

せり。感謝の至なり。航海中に三度日曜日に出ひしが船長フイマー氏等信者にして、毎度自ら禮拜を司り、監督教會の禮文に據りて執行し、献金を集め、日本海員の賑恤に供す。乗客中按手禮を受けたる宣教師數名あり。大概皆浸禮教會の人なり。船長は何か一種の主義を執りて他派の教師を認めざりしや、若しくは其の誰を擇ぶべきやに苦みしや知り難しといへども、一度も彼の教師等に依頼せしことなし。一日禮拜の後予に低語して曰く「誰か有名なる教師の乗船すれば、予は必ず説教司會を乞ふを例とすれども、此の度の乗客は皆概ね青年教師なり」云々と。恐くは是れ船長が有する理由の全部ならん。

船長は英人なれ共、其等運轉手機關長以下凡ての役員(事務長醫師給仕を除き)外は日本人にして、多くは東京商船學校の卒業生なり。船中に日本人某氏の妻女病死せり。日本人の乗客中香奠を醸集して二十有餘弗を得之を贈れり。又日本人某氏の妻女は男兒を擧げたり。船の當局にて赤飯を炊き隣席の人々に與へたりと云ふ。日本人が米領にて擧げたる小兒なればとて、日米雄と名づけたりと云ふ。乗客凡て五百餘人この中日本人三百人位なるべし。而して一等船客唯一人なりとは少し氣がひける様に思はれたれど、國の將に興らんとするに際しては免れがたき事歟。米國に渡航する者には大奮發にて一等に乗込む者比較的多きも、歸航には強く張り込まざるやうにも見ゆるは、上陸の難易にも關するもの乎。

海陸の旅程を略述したるうへに、更に首を回らして考ふれば、種々なる所感なきにあらず。其の一は米行の大目的たる合同は、上陸前一週間既に決着し居たれば、最早難産の濟みたる後に御祝ひに往きたる如く、又は歎願者が愁訴の代りに御禮廻りと變じたるなり。一寸考ふれば張合がなくなれる様にも感じたれど、相手が陣を構へて待つ處へ攻め寄するよりも、門を開いて御手柄を聞かさんと待つところへ、御禮旁推參するは氣持悪き者には無し。又何にか話をするにも仕易き心地もしたり。

各教會の全權委員は勿論なれ共、其の他機關新聞の主筆とか又は傳道會社委員の重立たる人々は、日本の合同に付或は我等の氣付かぬ處にも心配しつゝある様なれ共、一般の人々に於ては各自の責任に専らにして、外國教會の新運動等には甚だ不案内なれば、吾等を見ては今更の様に質問するあり。且甚だ要領を得ざる質問にて答辯に困ることまゝ有れ共、反對者としては稀なり。是も亦無頓着故の者、中には賛成々々と軽く受け容れて、次の間には夫では來年から日本の爲めに募金の勞を取るに及ばざらんと笑顔を示すもあり。然らずとの答に、それではつまらぬと失望したる面色を見ることもなきにはあらず。監督派とカナダ派の熱心者は、ドチラが多く譲りて又多く得たるかと考ふること十が九まではみな然るに似たり。而していづれも尤も多く譲りたる様に評し、且つ窃かには尤も多く得たる様に満足し居る様に察せらるゝ場合も少なからず。双方共に然か感ずるは協議の能く整ひたる證と見るも宜しからん。何卒永く此の調子にて進み、遂に合同體なるを忘却して昔からの一體のごとく、一同

に其の美を誇るに傾く様なり度き者なり。小生が機會に遭ふ度毎に致したる挨拶の要點は左の如し。

一、各母教會永年の間、財と人とを惜まずして日本に傳道したるを厚謝すること。

二、各母教會は時處人情を洞察して、合同獨立を許可し、且つ其の妥協成議の爲非常の勞を取りたることを感謝すること。

三、合同問題の發端を尋ねれば、各派宣教師の先輩が傳道の始に於て、早くも先見豫想して吾人後進を誘掖し、合同の必要を内外に唱へ來りしこと事實にして、吾人の先輩に感謝すると共に、此の具眼者を派遣せる母教會に感謝すること、而して合同の歴史既に如斯、是れ合同の主なる動機は有効なる傳道をなさんが爲にして、教權分争等の動機にあらざることを證明し得る者なる事。

四、合同獨立する以上は一個の團體なるは云ふ迄もなけれ共、新教會の幼弱なるは明白の事なり。新教會は全力を盡して母教會の負擔を軽くするに勉むべしと雖も、今の時に於て財と人と適當の補助を繼續するの必要は免れがたし。故に合同の第二の意義としては、内外又は母子協力の意義をも有する者と認むるも害なかるべしと思考する事。

五、母教會が新教會の發達に對しては其の時を假さざるべからず。又餘りに放棄疏遠なるべからず。發達整備を急迅にせんとすれば、自ら翻譯的煩瑣的の會政を布かざるべからず。是れ自然の發達を害して恐らくは萎憊衰廢に陥らん。否らざれば不測の反動起りて破裂壞滅の奇禍に罹らざるを保し

難し。然れども餘りに放棄自由に委する態度を取れば、恐らくは開花結實の時に至らざる前凋落せん。蓋し二十餘年間温室内に繁榮せる草木を一朝嚴冬に暴露せば、忽霜雪に死するが如けん。獅子の子を谷に投ずるがときは餘り暴なり。牝鷄が家鴨の水泳を危むが如きは甚痴なり。此の兩極端共に吾人新教會の歴史状態には適せざるなり。故に曰く發達進歩の時を假せよ、適度なる援助をして繼續せしめよ、要するに教育の如き出版の如き、他の特種なる聖書改良等の要件の如き、新教會が容易に負擔の得べき者にあらざるなり。然れども又一日も缺くべからざる者なり。

右のごとき要點を布衍して御禮廻りを勉めたる譯に御座候。而して殘る所の所感は日を経るに従ひ彌深く重く感せらるゝ所にして、即ち此の實行を如何せん、其の實効を如何にせんとの一事に御座候。諸君と共に天祐を祈るより他なき事に御座候。願くは教を受けて共に協力盡悴し、聖恩を徒らにせざらんことを。頓首。(明治三十九年)

外遊その折々

其の後は甚だ御無音に打過御申譯無之候。エデンボロ宣教大會終了の翌日、即ち六月廿四日夜同地を發してグラスゴウ市に赴き一泊致候。翌廿五日午時十時井深千葉兩兄と共に同市を發し、カリンフォル

ニア號に乗り組み、直ちに出帆いたしクライドの瀬戸とも申すべき風景絶佳なる内海を航して、遂に愛耳蘭土島を左舷に見て北海峽を通過し、大西洋に進入致候。航海中は兎角濃霧に襲はれ勝なりしも其の所爲かして甚だしき風浪も之れなく、七月三日無事紐育安着、矢張前の如く水野總領事の住宅に寄寓致居候。西部八十六街二號望園館とも譯すべき高壯なる家屋の第十一層に十間あり。中央公園に面し且つ東西北の三方郊外數里の眺望あり。紐育は英國の都市と異なること多々有之候が、當面の大差異は温度の高きことに御座候。昨日まで冬服にて好かりし者、急に夏服も其の厚さを厭ふの體に御座候。爾來驗温器の昇降多少有之候得共、八九十度の間に在りて屢々其の上に出づるの勢なれば、吾も人も碌な仕事は出来不申候。殊に平生繁忙の人程避暑休憩の必要多きことゝて、市外遠遊の人々甚だ多く諸教會も例の通り近傍の數教會(教派を問はず)協同交番に禮拜を行ふと云ふ姿に御座候。

右の體に付き寧ろ此の熱市を去りて、カナダ方面に移らんと存じ候得共、一度ハリス監督に面會致し度、同氏の來着を待受け居候處、小生の期待は度々外れ候得共、來る三十日着港の筈なるセントルイス號にて來ること稍慥かなる様に相成候間、其の上にて八月早々トロントに趣き、順路ヴィクトリアに進行可致と存候。カナダ總會は八月十八日より開設せらるべし。廿四日には南美以の交際委員と共に總會に挨拶をなすべき事と相成候由過日申來り居候間、其迄は是非滞留の必要有之事と存候。而して日本人美以ミツシヨンの年會は、九月二日桑港に開かるべく、是非出席の事申來り居候間、之に

應ずべき考へに御座候。左すれば八月三十日シアトル發の因幡丸には乗り兼ねる譯に御座候。されば九月十日の鎌倉丸に乗る爲に、桑港より再びシアトルに北行すべきや、又は桑港より東洋汽船又は他社の船に乗り可申や、種々研究を要する事に御座候間、追て決定可致考に御座候。

偕て宣教大會の模様は度々御送り申上候材料にて大體は御分りに相成候事と存じ、今更に縷述を試み申間敷候。惟大布呂敷にして申候へば、來會者何れも先づ可なりに満足致し其の成功を謠ひ申候。猶左に

(一)一見して氣付候事は、各派各國より普く出席したる事に御座候。新教各派はあらゆる者を代表したる様に御座候。但し歐米の諸教會の傳道局と絶えて縁故なき團體にして代表せざる者なきにあらざるべし。是等に迄行き届きたらば猶ほよかりしならんも、土臺は傳道會社より編み出したる者故此の位の不足は止むを得ることなるべし。

(二)どの集會にも出席の多き事。

通常の集會所は二ヶ所にして、(一)は千二百餘人の正格代員の集會にして、毎日朝晝暮の三回、(二)は猶々多數の客員にして、是も毎日二回より寡からざる集會あり。何れも開會定刻を過ぐれば、着席困難と云ふ有様なりき。

(三)整理の宜しき事。

會衆は何れも各教派傳道の熱心家、又は當局の委員共なれば、集會に慣れたると禮讓に注意する等如何にも宗教家の集會らしく有之候。殊に禮拜祈禱の性質を帯ぶる時間には、如何にも靜肅にして聖別の意氣堂に溢れ、敬虔の念深甚ならざるを得ず。眞に主今共に居給ふを感ずる事に有之候。

(四)協同一致の氣盛んになりし事。

五十年前迄は聞くもいまはしき争議あり。疏遠を極めたる各派の人も王國の大勢を眼前に控へて學ぶ所多かりしと見え、何事も協同の聲高く相成り候。各教派組織的の合同等は如何あるべき乎容易に論説する人多からず候得共、傳道地に於ける事業の協同に就きては、劇しく人心を刺衝致居る様に見え候。次の大會は何年後なるや豫言致兼候得共、其迄には各方面に於て種々なる協同一致の出來るならんと思はれ候。

(五)傳道上智識の進歩顯著なる事。

前項の氣風も此の進歩に相違なきも、此の外ミッションと政府或ひは教育慈善事業等各地方の實例に付き研究調査大いに進み候と見え、十年前に問題たりし事は今日は最早や問題にあらず、八九分までは了解せられたる様子にて、諸代員の所説能く一致し、地方人の所見も餘り遠からざるに至り候事多く見受けられ候。而して同時に傳道方法に就きても廣義の意見多き様なり。例令ば英國某監督にして三十九ヶ條の綱領を歴史の全く異なる外國傳道地に用ゐんとする坏、迂も亦極まれりと公

言する坏、中々の異彩にして全潮流の方向をも知り得べき一徴と存候。

(六)一寸餘所に解し兼ねる事。

大會中には歐洲の或部分南米の諸國等より立派なる宣教師や地方出身の教師等も寡からず來り居りしが、とんと公開壇上より演説をなさしめざりしは、生等の大いに怪とせし所なりしが、密かに承れば、是れは或強大なる教派にては、天主教國と認められし地方をば傳道地と認むる能はずとの定義を有するが故に、其の邊に波瀾の起らんことを避けたる當局者間の手加減なりとの事なり。果して然らば随分調和の六ヶ敷論點に御座候。

(七)一ツの不平。

斯る性質の大會に衆人皆満足すべきことは甚だ困難なる事なれば、各皆恩寵の下に海量の容捨をなして不平の聲甚だ少きは喜ばしき事に候得共、閉會の間際に於て繼續委員の指名には各派の宣教師たる者一人もなきは稍大なる一不平の點なりと聞え候。此の性質に於て既に宣教を目的とするなるに一切宣教師を加へざりしは一寸變にして、成程有理の不平だと思はるゝ事に御座候。然るに實際に當る委員の輿論にては、右の有理なる丈、其れ丈實行が困難なれば、寧ろ全く除外して徐かに良法に接するに如かずとの歸結に到りしとの事なり。實際と理論と一定の形式を以て調和し難き者あるは、斯様の類ならん乎と存候。

大會の事は先づ是丈けに致しおきて、歸米前後に見聞せる二三項の所感を左に申述候。

五月十七日南美の大會中來訪の博士カーマン氏、副幹事ショリア氏の談にて、始めて博士サラント氏の重患を承り候に付、萬一の事もあらば是非會葬致し度存じ其の事をショリア氏に談じて常に心配いたし居候が、幸ひにして華盛頓の大會を済ましてエデンボロに參るまでは未だに大事の事なく、或は回復する事もあらんとの事を聞きしが、七月三日着米後承れば小生等が航海中に終焉の期至り、疾くに埋葬式を了へたりと承り、悲嘆に暮れたる次第に御座候。小野善太郎兄、五月初旬トロントを發するに當り、病床中の博士に逢ひし時には、重患ながら博士は日本の傳道に付き、傳道者の將來に付き懇談ありし由、其の精神の常に此の神聖なる事業の上でありし事を知るべし。吾人は日本傳道史に大關係ある一老兄を失ひたり。彌深く過去を記憶し、將來の爲めに奮勵するところあるを要する事と存候。不取敢博士の遺族並トロント傳道局に對し弔意を表し置候。不遠彼地に赴き候間墓參も致度と存じ候。

神戸の吉岡兄の御母堂も逝かれたりと。同家の御愁情は申すも愚かなり。此の老姉や吉岡兄の改心奉教に付いては傳ふべき事寡からざる事と存じ候。過日船中にてのラムパス監督が吉岡兄受洗當時の老姉に付き感話ありき。記者は蓋し御承知の事ならん。疾く紙上に御紹介の機會ありしならん。もし否則ば吉岡氏に問ひて委しく御紹介あらん事を希望仕候。善き教へ草の必らず多からんことを信じ申

し候。昔し女の物堅き心より新なる信仰に移る迄の経路はいともゆかしき者と存候まゝかく申上候。三谷兄の御母堂も早逝かれたりと實に驚き申候。移轉間もなき事なりしならん。責めてもの御心やりと逝きし方にも遣りし方にも申すより外これなく候。是も亦地方傳道の先驅にして、一男一女を傳道隊の正面に献せられ、長の年月忍びがたきをも忍び給ひし種々の思ひ入り多き經驗もありし事と信じ申候。記者必ず御如才なかりし事と存候。

記し來れば三人の先輩は續けさまに高さ所に移りませり。平生兎角己れより年少者の死ぬる者多きに慣れたれど（十日前には領事館書記生中村重三君の未だ妙齡を以て此の地に病死するに逢ひ、其の葬式を司り申候。氏は青山學院に關係あるものにして温良清佳の君子人なりき）、老人も死ぬるとは今更に感じたり。些と迂なる様なれども若き男子の死を思はずして浮れ居るに比しては、左までに劣れるにはあるまじ。左は去りながら老若に關せず、油斷大敵の金言忘るべからずと、一寸ヘコ帯を直し申候。一昨日當家の家族一同田舎に一軒を賃して引移り、自分は昨今日は一青年と共に十一層の廣く涼しき家に留守居となり、浴衣一枚にて電氣扇に對し此の稿を起し候へば、思はずヘコ帯に手が届きたる寫真文に御座候。

健康は大いに宜しく御座候。併し可成高田國手の教訓を守り、餘り不規則なる生活をせぬ様に心掛け冷落も毎日少くとも一回は必ず致し居る次第に御座候。何れ不遠歸朝の上常務に服し度存候。願くば

紙上へよろしく御紹介被下度候。謹言頓首。(明治四十三年七月廿八日組書にて)

二

護教記者足下、庸一儀最早病人振も出来ぬ様に相成候て過ぐる三週間は頗る繁忙に暮し候爲め、最後の通信を何時頃に爲せしか、一寸記憶せぬ様になり、唯今日誌を繰り候得共猶分りかね候。仍て八月廿六日ヴィクトリアを發せし已來の概況を御通知可申上候。ヴィクトリア總會の月刊公報は順を逐うて郵送せられ候筈に付き、小生よりも終結までの處を早く御手に入れ候事と存候。小生は八月廿四日の夜に南美の博士デユボリス氏と共に、交際演説をなして廿六日に訣別の挨拶をなし、其の夕刻に發せし事に御座候。然るに廿五日の公報は些との間違より小生の手に入り申さず、今日まで演説の記事等の有無も相分らず候。南美の總會にても我が原稿を失ひたる由此頃相分り候。寧ろモツケの幸ひにて、其の原稿は甚だまづき者に有之候。此の度は多分廿五日の公報に掲載せられ居ることにして、記者足下既に御一覽の事と存候。ヴィクトリア總會議事の事項多々なりしも、加奈陀三派合同の件、任期制限の件、神學問題の件等は其の主なる者に有之、夫々御讀過にて御分り可相成、且つベーツ、コットの兩氏親しく目撃の點も不少、親しく御聞取の便も有之事と存候に付相略し申候。唯一言すべし加奈陀は實際一團の國民にして土地の豊饒廣濶なる山水の秀麗偉大なる世界に冠たる者ならん。人口の繁殖と共に教會も驚くべき發達をなし居候。今の勢にて進歩せば二十年の後に強大なる國民に盛

大なる教會と相成可申と相見え候。爰に謹んで此の教會の父老兄弟姉妹の我が教會に對する深厚なる親愛を紹介致し置き申候。

序に申候、晚香坡、ステヴストン、ヴィクトリアの三ヶ所共に適當なる家屋を具へて日本人傳道用のに供し居候。加奈陀母教會傳道局の好意、此の一事にて明瞭なり。右三ヶ所に働く三人の傳道者中、二人は我が年會員にして、加藤秋眞氏はステヴストンに、金澤敬次郎氏は晚香坡にあり。何れも適當の運動をなし居らるゝ事に候。

偕て八月廿六日ヴィクトリアを發せんとして波止場に赴き、何氣なく木戸口にて乗船切符(トロントよりの通じ切符の一部)を突出したれば、其の國籍を問はるゝ事となり、ハットと思ひ付きたるは旅行免狀が手提の中に入りて、赤帽が一足先きに持込みたる事なり。忽ち我も亦亞細亞人の一人なるの光榮と共に不便を感じたり。發船の時刻は迫る、手提を取返すの必要と、引返して移民官の承諾を得るの要あり。一寸面喰ひ候。先般田村直臣君の慷慨談を聞きて御尤もと思ひし事もありしが、今は我身の事。嗚呼何時になつたら旅行免狀が無用の者となる乎。四十年前の攘夷國には箇様の無駄事が忘れられて、世界最強の文明國と稱する所に必要なるは珍妙の至りにあらずや。待て〜内に願み、外に警めて、世界の通行安を完全にすれば矢張日本人の勉むべき處ならん。されど是は怒つたり騒いだりしては出来る者にあらず。冷然として靜かに智謀をめぐらし、實徳を積み、政事の方面と民力の方面

と歩調を整へて、適當の時間を費さねばならぬ事にして、努めて輕舉失敗を招くべからざる事と存候幸ひにして移民官は寛大にして公正なる人、一言の苦情もなく直ちに裏書をなして、時間中に間に合ひ申候。コック博士並に四五の同胞に見送られて正五時解纜せり。浪靜かなるビュージ灣を疾走中美麗なる食堂に夜食を喫して又々紳士らしく（先刻木戸口の窮狀とは事變りて）相成り申候。給仕人にチップを少し多くやつて少々胸が透きたる心地いたし候。尤も御馳走も中々よろしく、給士振りも氣に入りたるは直接の原因に御座候。

船は定時九時半にシアトルに着せり。吉岡牧師表笠教師其他十餘名の兄弟姉妹に迎へられ、愈紳士と相成り、四時間前の移民とは全く別の人種の如く相成候。此處黃白歐亞の差別なく荷物の嚴査を受け自分の物が尤も容易にして尤も先に済みたるは、吉岡牧師の斡旋による事に候得共、畢竟平等公正の行はるゝ餘地あることを見るは、頼母しき感じも致し候。是より教會の兄弟姉妹に擁せられて、メイン街のミッシヨン婦人ホームの客室にて、賑々しく茶菓を饗せられし後ち、廣き一室に安眠せるは感謝の至りなりき。四年前のミッシヨンにては景色の好き一室を占領せしが、其の代り毎夜南京軍と苦戦をなせし經驗有之候。是も亦忘るまじき一事に御座候。

沙市の隆盛は旭日の勢なり。我が同胞の数も中々に多し。餘り日本めきて小氣味悪きやうに感せられ候。此所には廿六日の夜より廿九日の晝まで滞在し、教會内外より一方ならぬ厚待を受け申候。自分

の働きとしては救世軍講堂の公衆演説、美以教會の禮拜説教、市中青年會々場に開ける日本人諸教會説教等に有之候。何れも同情相通じたる集會なりしと感じ申候。廿九日正吉岡兩牧師（一は沙市也）と共に乗車して、ポルトランド市に向ふ。タコマにて有馬牧師も乗合せ賑かになれり。（三氏桑港に開設する沿岸日本人美以ミッシヨン年會に臨席せんが爲めに、保市には一寸下車して即夜桑港に向ひ出發せり）豫定の時刻に着したれば藤井牧師初め下村祝其の他の諸氏に迎へられ、第十五街のミッシヨンに参り歡迎會に臨み、伴氏の歡迎の辭あり。形の如く厚遇を被ふれり。一場の挨拶も済み十一時頃ポルトランドホテルに投じたり。地方一二を争ふ旅館と見受けたり。手廣く奇麗なる浴室を具へたる室にして、朝夕冷温自在に入浴することを得。數週間餘儀なく廢したる沐浴も、完全に回復することを得たるは近頃の快事に御座候。

小生のトロントにて購ひたる割引切符は當地までなりけるが、幸ひ伴新三郎君が地方鐵道仲間に關係あるを以て、其の紹介にて桑港まで割引切符を購入することを得たり。因に云ふトロントの加奈陀太平洋鐵道にては、桑港まで切符を賣らぬ事はなけれど使用期限を十日間とし、保市までならば三十日間の期限を與ふることなれば、餘儀なく右の如くなせり。いかなる理由かは知らねども鐵道政治には又一乾坤あり。縦横擒放複雑なる懸引ある事押して知るべし。經濟上の戰機或は陸海軍の稀有なる衝突に幾倍する者あるべし。大陸に國をなして複雑なる交通機關を使用し、商業工業等の優劣を競ふ者

毎に危機一髪の間に立つ者あるべし。所謂文明程世に恐ろしき者はあるまじき乎。

右の旅館にて第一訪問を受けたるは、地方第一の新開オレゴニアンの探訪記者にして、電話の問答にて數分間の約をなし寢臺に請せしが、二十餘分となり十二時頃辛じて入寢せり。質問の第一矢は黃禍に付如何に考ふるやなりしかば、今日は白禍の時代にして黃禍は遠き未來の事なるべしと手短かに答へしかば、それでも支那には四億ありて今正に覺醒せりと聞く。五千萬の勇敢なる日本が之を導かば由々しき大事にあらずやと鋭く突込み來れり。否とよ四億の人口を有する一國民を見ればこそ恐ろしくも思ふならん。十八國に聯合の實なく、中心たるべき政府は僅かに一千万足らずの滿洲民族の朝廷にして、四億の漢人種の大多數は怨忌と侮蔑を以て待つ者とすれば如何になるべきや。其の十八所の獨立州が居村を距る百哩にして、一言一句も談話が出來ぬ者と知れたらば如何、五千萬の日本民族も如何に之を率ふべきや。此の邊の事を知りて其の上に黃禍を説くならば必ず何か爲にする所あるべし知らずして唱ふるならば憫笑に堪へざるなり。迂濶に支那國に足を踏み込んで男顔をする者はどんな馬鹿を見るも知るべからずと申せし處大口を開きてあされたる如き様なりしは無理もなき事なり。滿洲鐵道列國共有を敷から棒に呈出せる外交家の下に在る新聞記者には相當の態度ならんと、グロッド・ナイトを以て送り出し、早速休みに就き候。三十、三十一日を晝は自動車に乗廻し、數商店並領事館青年會館等を訪問、其の外御馳走にて忙しく相暮し、演説は救世軍の集會にて可なりの聴衆ありたり。

見物の中に珍しく思ひしはホーム・テレフォンとて交換所を経ず、自分にて番號を呼び出す様に出來たる電話の中央機械一覽をなしたる時と、ワイア・デパートメント・ストアに卸賣りの部ありし事なり。此の種の商店は如何に大なるも、皆各部小賣の制度にて、隨つて小商店の敵となることなるが、是は其の小商店にも便利なる様に構へたるものにして、利口なる處置と云ふべし。世界の子は本當に賢き極みに御座候。三十一日の夕六時藤井牧師と共に桑港に向へり。近頃は不運にして、汽車の寢臺は概ね上段にて不便を感せしこと多かりしに、今晚は伴君の周旋にて下段を占領する事となりしは仕合せの事に御座候。

保市以南はシャスタ線にて、一萬二千尺のシャスタ山脈を越ゆることなれば、蜿蜒々長蛇の形をなして白頭山下にては四千尺餘の高さに達するところ有之候。森林鬱蒼たる山嶺に鋼鐵の大道を施きたる壯觀は嘆賞に價ひする事に御座候。シャスタ鑛泉には五分間の停車あり。乗客争うて下車し、一酌を呑む。此處にも亦平野水(高山ながら)ありとは、日本旅客のしやれと御承知被下度候。此の邊の通過は九月一日の午前にして、午後三時頃には早サクラメント谷地の平原に出で、某驛にて早速カリフォルニア葡萄の一房を購ひ、焦がれ切りたる戀を果せるは愉快計ではない、眞實甘露の美味を賞美致候。九月一日後八時四十五分王苦蘭士^{オイクランド}第十六街停車場に着し、ジョンソン博士、川島牧師、森下龜太郎氏其他數名の兄弟に迎へられたり。中一人子を驚かしたるは、パークレ・コレ^{ジョージ}街美以教會の牧師ジ

レット氏にして、廿年前ドル神學校の同窓者なりき。此の夜森下氏に投じて之を當方面の本陣となせり。

九月二日より桑港バイン街千三百五十九日本人美以教會に於て、沿岸日本人美以ミツシヨンの年會を開く。桑港在住の監督ヒュース氏議長たり。

此の稿は先づ是にて一先づ打切り、餘は布哇より通信可仕候。因に小生の行程の第一案は加洲視察を了へて再び沙市に歸り、廿七日發の丹波丸にて歸朝の積りなりしが、ホノルルより是非にとて招待あり、監督ヒュース氏並博士ジョンソン氏等の勧めもありし故、急に行路を變じ、發程の時期を繰上げ十三日桑港發となし、十九日ホノルル着、十月十四日マンチユリア號(桑港廿七日發)にてホノルルを發し、十四日頃横濱着の見込に御座候。早々頓首。(九月十七日月圓かなる夜、階上は舞踏最中の刻サイベリア號にて)

三

十月十三日は豫定の時刻ジョンソン總理を始めとし、十數名の兄弟等に見送られ、一時と云ふに徐々として解纜し、晝食中には金門を出で、再び太平洋上の客となれり。

船室の組合は三人にして、關東總督府の吉村參事官と清國官費留學生謝某なりき。自分はソファに眠むるの光榮を得しが、未だ温度の高き此の頃にては眞に天井高きソファの方凌ぎ善くして、何が徳になるか分らぬ者なり。南加洲の運動は随分忙しくして、聲も殆んど枯れがれになりしが、辛うじてや

つて退けたり。今日より一週間咽喉を休めてホノルルの運動に備へんとす。

サイベリア號は一萬二千噸計にして、大さは地洋丸と伯仲すれども、設備裝飾とも餘程劣れる所あり待遇に至りては米國人と支那人との組合仕事なれば、何れ品よく出来る筈もなければ、大西洋の船病(假に病と云ふ)未だ全く醒めざる容には、餘り手ざわり悪く感ぜらるゝは、却つて此方の悪るゝなりしにや。殊に御馳走は餘程まづ思はるゝも、矢張僻目なりや。地洋丸等にもあり餘る邦人の給仕のみ用ゐずして、無作法にして氣の利かぬ支那人を多數に用ゐるは氣の知れぬ事なり。日本人ボーイを善く訓練して丁寧な利口に振舞はしめたならば、歐米の客もいやに思ふ者にあらざるべし。歐州船は概して給仕人が寡く手の廻はらぬ點が遺憾なれ共、給仕人共は中々勉強して上手に客を取扱ひ、可成多く心付を得るに勉むるがごとし。太平洋もモ少し利口にせざれば、餘り手加減の違ひがひど過ぎる様なり。

去る四月地洋丸にて渡れる太平洋とは大違にて、今度こそは眞の太平洋なりけれ。

出帆の節櫻井栴尾兩氏の丹精に成れる中輪の菊花數輪贈られたり。食堂には種々なる花もありしも、菊花は我が食卓と其餘分を配りたる他の一卓のみなりき。菊花の元は支那大陸の由なれ共、大和にては特別に由緒ある物となり、特別に培養せられ、遂に廣き世界に紹介せらるゝ事となれり。實にも菊花は愛度花なり、幾千代も榮えて其の芳しきを萬代に傳へんことを願はしけれ。

月は夜毎に圓かになりかゝれり。中秋の月どと語り合ふは滿船我室の客のみならん乎と思ひさや、十七日の夜には後甲板に清樂の音澄み渡りて聞えけり。流石は舊歴家の支那人なり。明月を賞するとはゆかしき事なり。惜いかな、今夜は晴空一碧とは參らぬなれども負け惜しみに斯くなん。

雲間もる秋の最中の月影は晴れわたるよりも哀なりけり

十八日は日曜日、早朝降雨せり。久振りにて雨に逢ふ。恰も是れ消暑の妙薬なり。皆々喜んで時雨の快を語れり。

午前六時半船は金剛岬(ダイヤモンド)沖に在り。徐々としてホノルル港外に進みて檢疫船の來るを待つ七時半食事をなして船は再び港内深く棧橋に近づき、八時繫纜、九時上陸と云ふ事になれり。ミツシヨン總理ワドマン氏夫婦、本川、中村、堀、奥村等の牧師諸君、並數多の教友に迎へられ、ワイキ、の望月亭に投ず。之を二週間の運動の根據地となせり。此の亭は東京人望月氏の海水浴を標榜せるものにして、庭園廣潤、熱帶の大樹は蔭をなし、綠氈の如き芝地は千疊敷を氣取り、日米往來の大船は正面一哩計の沖を通り、海風山雨時々襲來するも、皆暑を消し風光の變態を生ずるのみ。結勝の地と云ふべし。こゝに戎衣を脱して浴衣を着たる心地は、眞に樂土の夢かと疑はるゝぞかし。扱て生が僅かなる勤は廿日午前青年會館樓上に七八名の教役者並有志者に對し、旅中所感の一部を語るに始まり、廿一日夜はキング街の美以小教堂にて説教會を開き公式に鎬矢を射始めたり。

今夕東京電報なりとて、東京に於て至尊に對する陰謀暴露せりとあり。果して去る事實のありしにや然りとせば何の爲めに電報騒をなすにや。甚だ譯の分らぬ事ぞと感せり。

廿二日は午前中央太平洋學院女學院並オアフ高等學校に參觀の禮を盡し、加洲なるミルス高等學校の創立者なるミルス老夫人(八十餘歳)と晝食の御相伴をなし、晩は上野總領事の官邸に於て、我が教役者諸氏並正金銀行の諸氏と共に結構なる日本料理の饗應を受けたり。

右の三校中始めの三校は主として東洋人の爲めに設けられたる者にして、男子の方には日本青年五十名斗有之由、兩所とも出し抜けに演説を促され甚だ困りしが、最後に日本語をあやつるに到りて、五十有餘の童顔一時に咲きて爛熳たる花となり、問はずと知るゝ山櫻廣き世界の島々に盛り行くこそ愛たけれ。女校の方は唯六七人のみなりと聞きし故居残りて別に逢ひけり。邦語よりは英語の方勝手よしと聞きて左もあらんと感せり。是等は概して寄宿生なるがゆゑにして、民族發展には必要なる状態ぞと未頼母しく思はれたり。曾て新嘉坡の美以傳道學校にて十八異族の生徒に對せしことありしが、彼等は概して征服せられる種族の子孫にして、見るからに憫然たるを免れず。此處も稍似たる節ありと雖も、中には旭日東天の日人も多數なれば、是れ亦特別の問題として考究すべきものなりとす。嗚呼太平洋、汝の運命果して如何、汝は恒に太平洋なるべき乎。或は太兵洋たるの虞あるを免かれざる乎切に祈る、恒に名實不變にして大和民族の平和發展を證する者とならんことを。

廿三日晝間は接客夜はヌアヌ街組合教會にて説教をなせり。

廿四日は再び上野總領事の官邸にて午餐の饗應を受け、珍藏の書畫展覽をなし、旅情を慰むること大なり。今夜望月亭に有志者十七名斗來會、生の爲め歓迎會を開く。食後一場の演説をなして好意に酬いたり。

二十五日は日曜なり。午前の禮拜は白人美以教會に守り一場の談話をなせり。今晚はリバー街の日本人美以教會にて説教をなせり。此は布哇諸島日本人美以教會中の尤會堂らしき會堂の由にて會員七十有九人となり。美山氏の時代は稍古し。曾て木原氏の盡力せられたる教會にして、本川氏の代新築をなし、三浦氏も暫く之を牧し、今は中村忠藏氏の忠勤を試みつゝあるところなり。

二十六日午前青年會館にて教役者と有志輩に講演をなせり。午後は三田村國手の自動車にて金剛丘ボ
ンテポール、ヌアヌバリ等を巡覽せり。金剛丘は砲臺築造中の由にて、其の背面には二座の大臼砲を
見たり。而して丘の内部に通ずる隧道の門口あり。其の内部は雷盆狀をなせる由なれば自然一大砲臺
と云ふべし。

ヌアヌバリは古戰場にて布哇ブワ俱里加羅クリカとも唱ふべき者なり。百年前カメハメハ王が諸島統一の時に敵
軍を追詰め、ヌアヌ谷の極端なる絶壁より悉く突落して余類なきに至らしめ、今日にても猶懸崖の下
骸骨を拾ふ事ありと云ふ。險岸絶壁の上に立ちて海面を見下し、左右に突出づる兩翼の山脈は、奇峰

怪嶺連続して妙義山に上り麓を見るに似たりとは上州通の堀君の評なり。成程其の邊が落なるべし。

兎にも角にも勝景なり。此の谷驟雨忽ち至るの地、行人皆外套を携ふるの慣なりと云ふ。今日も一時
一陰、變幻不定なり。高度と位地の因多きにあるべしといへども、一將功成りて萬骨枯れ迷鬼處を得
ずして陰陽和せず杯、太平記の口調を真似度なるも無理ならずと自分免許を主張致し候。

ホノル、は海島なり、山地なり、好風光の地なり、驟雨の地なり、随つて虹の都なり、朝には西に夕に
は東に晝間は北に、山嶺に、海面に、庭前に、街路に、處嫌はず七色彩弓を顯はす。日々幾回なるを
知らず。奇勝の地なり。而して山の雲、谷の雨、皆共々神話の傳はりつゝある由なれ共、押して問ひ
究むる邊もなく、勿論此の紙上に記すべき餘地なし。後五時正金銀行赤井氏の饗應を受けし後ち、此
の夜はカタアコミ組合ミツシヨンの爲めに説教をなせり。上代氏の牧するところなり。

二十七日午前青年會講義の後ち、望月亭にて美以派役者の小會をなし、後ち三時出立、ワドマン氏と
馬車にて、アイエア耕地に赴く。路兵營前を通過し、又デーマン公園とて一富人デーマン氏の經營せ
る和洋兩種の庭園を一覽し、五時耕地に達し、支配人某氏に面會せり。氏は蘇國人にして好紳士なり
と云ふ。邸は丘山に在りて眞珠灣を一望の下に臨觀すべし。此の灣は太平洋鎮守府の根據とせらるべ
き處にして、幾多の艦隊を繋ぎ得べしと云ふ。目下巨資を投じて其の港路や船渠を浚渫中なり。數年
の後には立派なる軍港となるべしと云ふ。

此の地に本願寺の一字あり。丘上にあり。美以ミツシヨンの小會堂も亦他の丘上にあり。夜の集會は滿會立錫の地なき有様なりき。此の夜十時半ホノル、に歸る。

九月二十八日今夜はマキキ組合教會にて説教せり。奥村氏の牧するところなり。日本人教會中の尤も大なる者なりと云ふ。其の敷地も程よき一角を占めて都合よき會堂なり。

二十九日午前九時十五分の汽車にて中村氏と共にカンク耕地に赴く。時政氏の傳道するところなり。此の地にも本願寺の説教所あり。時政氏は俱樂部と幼稚園とを經營して働の一部とす。今夜クラブにて説教し支配人の離坐敷に一泊せり。

三十日は午前五時半の汽車にて出發し、途中より馬車に乗換へ、漠々たる甘蔗畑の中を通りてワヒアワの鳳梨耕地に達せしは前十時頃なり。此の地日人労働の結果を集めて、開きたる者の由にて、末頼もしき事業なり。憐れ失敗挫折の禍を來たさざれ。午後には會堂定礎式を行ひ説教をなせり。

今晚ホノル、に歸り、某教會に於て各派青年連合會に臨み、ワドマン氏の通譯にて演説せり。

十月一日午前正金銀行支店の家屋寶庫等を一見せり。甚だ大なるにはあらざれ共、所謂ファイア・ブルの最たる者にして、一も燃焼質のものなし。窓縁に至るまで皆金屬を木目に塗りたる者なり。本島日本人の財産中の珍寶なるべし。

此の地の領事廳も其の大其の壯、世界各國にある我が公使館の之に比すべき物なかるべし。況んや其

の所有權さへ我にありといへば、猶以て比すべきものなし。抑銀行と云ひ領事廳と云ひ、孰れも立派なる物を有するは、全く同胞七萬の労働の價值如何を證する者と云はざるべからず。布哇豈に悔るべけんや。國旗は星と筋となれ、人口の最大數は大和なり。布哇輕んずべからざるなり。今晚は再びキング街にて説教せり。本川氏の開拓地にして、近き内に新會堂建築に取かゝるべしとなり。リバ街と東西相呼應して、滿都を震動せしむるの時あらんことを祈る。

同二日 今日には滯布中第二の日曜なり。午前はリバ街にて禮拜説教を勤め歸れば布哇新報社主芝染太郎氏(望月の家)の振舞にて、本川中村兩氏と主客四人晝食を共にせり。芝氏は明治二十年頃の東京の英和學校生(青山院學の前身)なり。久しく布哇群島を跋渉して今は有數の人となれり。氏は曾て一度靈感を受けたる人なり。今回を機として一層精進の途に回らば、豈に獨り氏の幸のみならんや。

某兄弟が聖書をば坐右より離すまじき訓誨を誌せよと、新しき聖書をおこしければ斯く誌して返しぬ。離さじと誓ひたりとて甲斐もなし離さねばこそなるまじけれ。

今晚は石村老兄弟の饗應に與かれり。氏は四十餘年布哇に居る人にして、其の生涯の前部は恐るべき暗黒の境遇なりしが、安藤太郎氏領事任勤の頃のリバイバルにて驟然新生を得、爾來平和感謝の生涯を送り居る人なり。

八時よりリバ街會堂にて説教をなせり。是にて二週間のプログラムを了れり。感謝の至りなり。此の

上唯御祝福に委するより他に祈るべき所もなきなり。

十月三日、此の日何處よりの噂乎、マンチユリアは三日の午後に入港せんと云ひしが、今朝庭前に散歩しつゝあれば、七時頃除々として金剛の沖より進み来る物は、慥かに一萬八千噸の滿洲號と見受けたり。

歸館後ホノル、市各派牧師會に臨みたり。

午後五時此の頃中好意を受けたる教會内外の諸士令姉等の好意を擔ひて、ホノル、埠頭を解纜せり。船中には博士ガウチャ並エルナ、エリザベツの兩嬢あり、藤井大佐あり、大阪朝鮮支那暹羅印度等に赴く男女宣教師廿餘名あり。

航海平穩にして日々指折り數へ、今日は十月十三日となれり。明日は早朝横濱に入港すべしと、心せはしく此の稿を了せんとす。回顧すれば四月四日地洋丸にて此の航路を東に航せし日より、六ヶ月と八日なり。幾多の感想も一々感謝に包まれて、俄かに言ふところを知らず。茲に小心翼翼として筆を擱く。敬具。(明治四十三年十月十三日、滿洲號にて)

第十四編 書翰及日記

書 翰

眞理の探究

前略、過日御來弘の節は御互ひ多忙緩々御話可申上折も無之殘念至極に御座候。生の最御談話申上度は宗教上の事に御座候處、珍田兄とは隨分念を入御談論も有之由承り大に微衷を慰めたり。爾來珍田兄へ御通信によれば、頻に眞理を御究探のよし、愈小心を鼓し大に希望を起し候。東洋の士人宗教に遠ること久矣。愛兄の近時信仰世界に疎く單純の理界に在るは決して怪むに足らず。然りと雖是決して満足すべき事にあらず。信仰世界を離れて理論世界に在る人多くは云ふ、宇宙萬事盡く理を究めて知るべしと。然れ共愛兄歎所謂理は何れのものぞ、造化の顯象を彙類し分折し、其例の尤多きを以て初めて之を名けたるものならずや。故に世代進み研究を積むに従つて、昔の理とせる者今の笑柄となるものなしとせず。而して只理と云へば甚冷淡なる一思想を名狀したる者なれ共、萬物萬事を視るに決して冷淡なるものにあらず。各皆其企圖を備具する者なり。凡百の企圖は必ず企圖者ありて、初め

て生ず。無は有を生せず結果は原因を生せず。一の結果あれば必ず適應の原因なかるべからず。同一の結果は同一の原因に歸せざるべからず。是れ物理推究の原則なり。亦宇宙の物皆企圖なきものにあらず。鳥に羽翼あり、人に思想あり、此鳥と人とに具はれる羽翼思想は他に企圖者ありて賦せられたる者ならざるべからず。而して人類は教の動物と稱せらるゝ者なり（有名なるチンタルカハクスレいの内ならん）。此人間以上の者を崇敬し依頼するの念、即宗教の念は天賦の性にして人類の特權とも云ふべきものなり。徳義涵養の源泉なり。愛兄は知識と徳義の領分の區別は明知し玉ふ所なり。徳義を修むるの要は性情を耕耘するにあり。性情の耕耘は無形高尚の師を必要とす。言を替て言へば上天皇帝完全無数の徳を學ぶを必要とす。即ち眞正の宗教を奉じ、確然たる信仰の念を養ふに在り。愛兄歟理學は能く己が思想を緻密高尚ならしむべし。然れども吾をして安心立命の信仰を得せしめ、究遠不變の操を保たしむるの勢力なし。況んや理學界の大様は宛も楷梯を登り城門に至るがごとし。其門内の事は得て知るべからず。故にすベンサルの新哲學も到底一の無限なる不可識能力に溯りて止むと云ふ。是理學の限界なり。愛兄が人類に智情欲の性を賦し善惡憂歡の思想を懐かしめたる造物主を稱して、單に不可識能力と見做して満足し得べきか。彼企圖者に企圖を賦せられたる人間の關係を以て、江上の清風山間の明月の如く眺望して遺憾なきを得べきか。靜かに之を思へば實に偶然經過すべからざるなり。愛兄願くは之を翫味し玉へ。前に略陳するが如く現界の理學は假令萬有を知得するも靈妙な

る性情を備具する人類をして、安心立命の地に至らしむる能はず。或は能すべしと云ふは、多くは其性質の或部分を毀傷し、或は壓迫したる人に限るべし（佛徒の悟道老莊の世道を輕ずるの類）。幸に天啓教の稱あるものあり。即ち理學の達したる城門内の事情と城主の心意を示したるものなり。然れ共是理學限界の外にあれば、理學の丈尺度量を以て權衡すべからず。唯この天啓教なるものは、果して城内の事情にして城主の意を傳へたるものなる歟否を探究すべきのみ。之を要するに歴史上の事實の眞偽を判ずると異なることなし。此には物理も化學も數術も施すべからず。其傳來の由緒と其創始記者の知愚信義を吟味すべきのみ。而して天啓なるの信標立つときは之を奉じ、之に遵ひ、之に頼りて行き、之を愛して措かず。之を信仰と云ふ。信仰に二種あり。知得して歎はざるは普通の信にして、知識の明確なるものなり。管疑はざるのみならず、之に依り之を愛し、冥々中點識心通不言の味趣を懷きて行爲の樞機を取るものを得救の信といふ。基督教の信なるもの第二を重しとす。愛兄が深く之を察し玉へ。凡そ事思ざれば得ず行はざれば効なし。愛兄よ、我輩は何れより來り何れに行かんとす。我輩は造物主と何等の關係あるか。愛兄近頃之を思ひ玉ひしや。且是に對する解を得て満足し玉ふや近頃可敬度なる人歐洲に死せり。其名をジェーン、アイルといふ。此人初はラシヨナリスト（聖書を解するに一切常理を以てしキリストをば尋常聖賢となす學派）なりしが、或日近隣の牧師に説教を依頼せられたり。アイル氏答ふるに信せざるが故に能はずと云ふ。牧師曰く子は神あるを信ずるか。氏

曰く然り。牧師曰く、子は人神を愛せざるべからざるを信ずるか。氏曰く然り。牧師曰く、然らば耶蘇の心を盡し力を盡して主なる爾の神を愛すべしと云ふ語を説き玉へ。是れ子の信ずる處なり。氏言屈して諾す。是より氏説教の稿を起す。先一項には人神を愛せざるべからず、其理云々。第二項には凡の力を盡して愛せざるべからず。一も欠くる處あれば神の意に合はず云々。第三項には我輩は實に第二項の需に欠くる處なきかの問を設け其答を考へたるに、いかにしてもエースと書する事能はず。遂にノーと書したりしが、此思考の續きはノーの結果に至り、いまにして此欠典を補ふべきを知らず若慮憂愁の後豁然貫通する處あり。他なし、救主を要する事なり。且つ昨日迄唯視ること高山の如く仰ぐこと聖人の如くなりし基督は、俄かに吾が恩人にして、吾が仲保なるを感得するに至れりと。是實に眞に道を信ずる者の入道する順序なり。愛兄よ、之を思ひ玉へ。人若し神と人との關係一定せば人と人との關係も亦一定すべし。孔子曾て未だ人に仕ふる能はず焉能く鬼に仕へんと云ふは、天啓を知らざる學者にしてはさることなり。然れども、之を以て我輩の意を満足する能はざるなり。蓋し神人の關係を離れて別に人と人との關係を討究するは、猶源泉を知らずして下流を治めんとするが如し。焉ぞ潰ること多からざるを得んや。聞く大山綱吉（一字不明になれり、故鹿兒島縣令の事）明治十年に召されて家を出でんとす。其妻に耳語して云く、今回の出京歸郷覺束なし、若し予死せば遺體を葬ひるに佛を以てせよと。此事一談に似たりといへども人心幽冥を脱する能はざるを知るべし。氏

等は薩藩に佛を廢したる人なり。然共所謂究まりて本に歸るの場合に至り免るゝ能はざるものあり。宜なるかな、人類は宗教の動物なりとは。愛兄も曾て愛兄を失ひ玉し事ありと覺ゆ。彼の死者をして腐壞五行に歸すべき物質のみにして、心靈は存せずと思ひ玉ふか。宇宙に質と靈とありとせば、人の心神は靈にあらずとし得べきか。愛兄は五十年の人生を以て人類の資格に適當なる期限とし、疑ふ處なきか。予は思ふ、世の無神論者は凡事有神論者の信ずる處の點に於ては、いかで然あるべきと疑ひたるのみにて、有神論者の信仰に對する丈けの一種の信あるものにあらず。甚だしくは自ら疑ふべきの理由をも探究せず。漫然他人の疑ひに倣ふのみ。之を物理上の例を以て比せんに、猶寒熱の如し。寒は熱なきの名にして、寒なる者あるに非ず、宗教家は信仰なる熱を保つものにして、無宗教家は此熱なくして寒冷なるなり。即ち空なり無なり。有情の位地となすべけんや。人心決して無なる能はず。愛兄記憶し玉ふなるべし。聖書に鬼人より出で、荒地に彷徨し、歸りて故郷を見れば空虚にして裝飾あり、仍ち己に勝れる七鬼を伴ふて住すと。是れ高尚なる信心なくして物慾甚だ盛なるの比喻にあらずや。實に危きの至なり。愛兄が精神を空虚にして邪鬼に據らるゝを恐れよ。宜しく敬虔平和の信心を充塞して虚隙なからしめ玉へ。

心事一々盡す能はず。聊感ずる處を書して以て机下に呈す。願くは考察を玉へ。他日又た可申上且つ冬期の去るを待て、錦地へも御伺申度被存候。猶又本書關涉の御質問等は無御遠慮御仰越被下度、尤

も燈下筆に任せ草する所に御座候間、或は本意を呈出し兼候事も多々有之候。御推讀願上候。頓首。

二月十二日

規 雄 様

庸 一

—今規雄氏宛。明治十五、六年頃のものと—

日刊新聞計畫中止

拜啓、益御清榮被爲入奉賀候。陳ば先年春日刊新聞發行の儀に付御賛同を乞ひ候處速に御承諾被下前金（又は寄附金）御拂ひ被下、運動上淺らば御獎勵被下候段奉深謝候。然るに經濟界の不振を初め種々なる事情に妨げられ、兎角事志と違ひ候事二三のみならず、隨て内地の募集も思ふまゝに着手難相成次第に立至り、不得止昨年は布哇・米國えも募集委員を派し候得共、不幸にして不慮の災難に罹り、長々入院致候事等有之意外の不結果に相成り、斯くして内外とも見込の半だにも不相達次第に御座候就ては發起者に於て被格の計畫を立兎に角發刊可致歟、必ずしも成功なしとは申難く候得共、斯く危険を犯す事當初の志にあらず、去りとして又斷然企圖を停止すべきか、甚だ遺憾に耐へざる者有之、在再時機を待ち候處、忽ち三星霜を閱するに至り、賛成諸君の芳志に酬ゆるの見込立不申、最早猶豫も難相成候間一旦經過の實況を御報告仕り段落を作し候より他なく奉存候。就ては前金並寄附金等直ち

に返納可仕筈に候處出納の實況は別の通に有之、薄資の拙名共一時に上納仕候儀甚困難仕候間、恐縮の至に御座候得共、自今參ヶ年賦を以て返納の儀御承諾被成下度奉願候。右御報告旁御願まで如斯に御座候。謹言頓首。

未だ若齡にして單身なり

八月八日附御書面相誦仕候。御着任早々教會の模様等も御示し被下謝上候。私は未だ一回も豊橋に不參候間、鐵道停車場の外一向相分不申候得ども、諸人の嘶にては傳道に望みある處と承り候。私は本年の夏を如何にして暮さんかと七月末まで決せざりしが、愈年來の痔疾を根治することに決し、兩根より歸京否哉急用を片付、八月六日より赤十字社病院に入り手術を受け候處、大に好果を得て昨日退院仕り、猶數日間自宅に加養可仕程に御座候て、今日は近頃御返事残りの御手紙を調べ候處、先づ兄の御手紙に觸れ候間不取敢執筆仕候。三十七日間も病院に消過致しては、入費と共に一見無益の用に候得共休暇前後繁劇の時間を除きて、此時を自家の加養に用候事微意あり、數週間の遊び傳道よりは却て此休暇を有用ならしめたりと窃かに考候。御一笑可被下候。入院中私の病室受持の看護婦中に豊橋の人あり、市川たけと申者一日兄の御書面を思ひ出し市川氏に尋候は、豊橋の婦人も猶〇〇〇の婦人の如きか、私の教友は未だ若齡にして單身なり、然るに會友は大方婦人なりと聞き窃かに心配いた

し居る云々。氏微笑して曰く、豊橋は田舎なれば〇〇人とは大に異なり、御安心なり云々と。此市川と申人名古屋にて昨年の震災に夫を失ひし人のよし。東京邊には先づ珍らしき程おとなしく品のよき人なり。讀書の力もあり、言葉に見へ候。此婦人の事而已を信ずるには無之候得ども、私は大に信ずる處ありて餘心配は不仕候。併し随分被成要事も可有之候。適當の女子傳道者御必要なるべし。其後如何被成候哉。英學私塾御開きの事必ず善き方便ならん。處の様子にもよるべけれども、可然青年等を教會に呼ばんためには好方便と存じ候。

未だ御質驗は無之哉に存じ候得共、名古屋連回の苦情（重もに名古屋市なるべし）多かりしは御承知なるべし。殊に此年會前後には〇〇氏〇〇〇氏留任の事に就ては随分譯の分らぬ紛紜も有之しよし傍觀者の私共まで夢にも知らぬ傍杖評を蒙りしよしなれば、自然は色々の苦情を御聞き被成候事可有之哉。併し夫らには御頓着なく單純に御擔當の牧羊に御熱心被成候方可然奉存候。過日高北君より書面あり、天童の歴史の古さに驚き又其信徒の幼稚なるに驚き、愈責任の重きを感じたる様子に御座候豊橋も餘り新きにあらざれば、兄も高北君に類する感あらんか。併し御書面によれば兎に角單純なる信仰有之よし、愛度事に御座候。信仰の生命は感恩畏敬の二ツにあること、奉存候。此五週間病床にありて大に感じたるは、自分の神を畏敬するの淺き事なり。其結果として罪惡を惡むことの深からざることなり。實に慚愧に不堪候。嗚呼生等は僅かに徳義上の意志力により外見の罪惡を免るゝ而已。

若し其靈境之實狀を見れば實に憐むべきなり。抑如斯なるは畏敬感恩の情切ならざるが爲なるを知る愛兄よ、牧師は先導者なり、學者にはあらざるなり、發明者にもあらざるなり。然れ共會衆の先驅となりて神の恩威の御位に導くべきは、是其重任なり。亦貴權なり。何れ亦好機を得て御地に罷出候事も可有之候。先は御返事まで申上候。當地の御用は何なりとも可被仰越候。頓首。

（明治廿五年九月十三日、在豊橋別所梅之助氏宛）

自給傳道の望に對して

神戸氏に御預ケの御書面今日落手相誦仕候處、御紙上何となく凄凉として稍悲慘の色を帯び候様相見へ、安からず覺へ候まゝ不取敢執筆仕候。

「云ふにいはいはれぬ不快」と斗にては憶測もなしがたく候得ども、小生の經驗よりすれば二ツ斗有之候第一は長老司の服従すべき價なきとき、第二は外國人の手より受くると思ふとき、第三は他人の批判を思ふとき。右の三ツは小生をして長き間直接傳道に身を委するの決心より遠ざからしめたり（夫斗には無之候へども）。しかれども是は理にあらず、亦智にもあらず、寧ろ根深き名譽心が雲となりて天國の廣野を隔て、全局と現時の必要とを見へざらしめたるにてありき。兄は果して如何に候哉。若し右と同じく或ひは類することに候はゞ、勉めて之を壓し磊々として唯大主眼に向つて走らんこと必要に

御座候。なせなれば兄は最初直接傳道に身を委ねんと盟ひて（神にも人にも）學校に入り、又年會に入れり。最早躊躇して疑ふべき時處に無之候。必ずや非常の事なくんば神の召と兄の誓いとを更むべからざるなり。傳道仲間の生涯を見渡し候に、長く牧師をなしたる後新聞記者にせられたるあり、學校教師にせられたるあり、随分色々者に御座候。日本の年會も生長の途にあり、將來數多の記者を要せん、教師を要せん、又は著述者を要せん。其煩雜は今より豫想しがたし。兄も十年の後教會より如何なる注文を受けるや知るべからず。先づ傳道者として養ふべき處鮮しとせず。今より左までに隅々隈々まで考へ悉すことなくがな。寧ろ眞一文字に傳道の事を思ひて進み賜ふべし。憚なく申せば兄のごとく年末だ若くして、初めて傳道に従事し、競はぬ勢を挽回せんと勞苦し玉ふこと嘸かしうれたるは是れはどふしても涉らでならぬ瀬なり。努々うしと思ひな玉ひそ。氣を勵まし志を高くして磊々として細事の襲撃を防ぎ、落々として無感の耳目を衝動し、勞逸ともに主の事を學びて、徐々として福音を頒賦することに安じ玉ふべし。是予の深く兄に望む所に御座候。別所君よ、君は正愨の人なり。故に何事も嚴密に考へて露も洩さぬ様に御見受申なり。されど世の中は多少伸のあるものなり。少し優に考へ玉ふべし。鋼鐵の器械如何に精なりとはいへども、膏の兩者間に介するなければ能くすべること能はざるなり。器械には膏さすべし、食物には鹽梅を付くべし。別所君よ、君が歌文の嗜好

をば心して悲愴なる方にのみ向はしむるなよ。秋の月と云ふよりは、春の朧月もよからん。或ひは月と云ふことをばしばし忘れて、日の光の大きを思へ、花の散るあわれなどを味はんよりは、寧ろ山名川洋海の盛なるさまなどは、中々に君の養とこそはならんと存せられ申候。

一、今日神學部にて開校式を執行いたし候、出席生は二年生九名、新入生十名に有之候。

一、過日商議會にて本年卒業の神學生は凡て商議會賛助員に撰定相成申候。

一、私は去月廿二日より一旦醫者の支配を免れ候得共、出勤後少しく勞働いたし、其影響又々休養の爲引込み居申候。併し青山の自宅にて休養とは逆ても望み難き事に候間、來週には斷然東北旅行の途に就き東興義塾見舞に參可申候。是れ寧ろ療養に可相成と存候。先は御返事まで、早々頓首謹言。

（明治廿五年十月五日、同上）

清流女校奉職の件 其他

舊歲は度々御書面被下候得ども、御返事を怠り、不堪恐縮と奉存候、御海恕可被下候。

清流女校の件に付ては山鹿君の意見をも承り申候。或點より見れば御適任歟とも被考候。彼校は東海の牙營なる名古屋防戦の爲めには眞田丸に類するものに付、是に御盡力被成候事は決して壯士の名譽心に飢餓を感せしむべき憂はなかるべしと存じ申候。併し其他位の性質は牧師より容易なるものには

無之候間、充分胴胸を据へて驚かぬ様初より御覺悟無之ては相成間敷と奉存候。小生は賛否共に餘り熱心には無之候へども、御當人さへ御物好あればやつて見るも一佳件か位に感じ申候。今一事は明年（最早本年）は卒業生も有之間敷候間、長老司は人賦りに究する事可有之歟と奉存候。是は宜しく御相談ものと奉存候。

一、去月三十日より當地に参り居候。山田寅君はモウ少し早く参り居、今日歸京せり。小生も明後日方歸京仕候積に御座候。一兩日前元良博士名古屋の歸途當地に参り、名古屋は甚だ寒き處と申居候。左れば御地も随分寒からんと考えられ候。當地は流石に名ある暖地丈有之、只今火鉢に少しも火氣なく衣服も綿入に羽織にて、シャツなし、開口襦袢のみにて身體ゆたかに感じ申候。しかし昨日は降雪致し大分寒く有之候。御母様にもよろしく願上候。謹言。

御名を書きて思ひ出候。當地の梅園は山谷の閑を相し清流を狭んで栽培せるものにて、株數幾千怪岩奇石さへ散漫して、實に立派なるものに御座候。一の缺點と申すべきは梅櫻松楓未だ老せざるにあり。猶十星霜を閱さば實に海内稀有の花園となるべし。三島中洲の詩に結句あり、曰く二分人造八分天と能く眞を寫せり。（明治廿七年一月六日夜九時半、同上）

護教の編輯

拜誦仕候。御書面は前後兩回とも正に落掌仕候。事務及補助者の儀は小生の考なれば、是までの通全く編輯長に委任し、充分責分を負はすること至當と奉存候。何れ委員會にて相談の上相定まること、奉存候得共、小生の見込は如右に御座候。右の如く参り候へば何も皆編輯長の見込次第に可相成候。來る九日に委員會相開き可申積に御座候。品に寄り急電を以て御來京を願ひ候は、御來京相成候御心構被下度願上候。委員中他の指名等可有之歟、未だ何とも承らず候得ども、前任者の推薦に有之候間多分は貴兄に御願ひ申す事ならんと被考候。

一、護教經濟優には無之候得共、事務の方にモウ少し身を入れ候へば不足の事有之間敷と存候。四教會の補助金は八百圓有之、其外新聞代四百圓位（是迄の経験）、外に廣告料も少々有之候間、編輯費として四五拾圓を費すこと樂に可有之候。左すれば牧師の専門よりはモウ少し樂なる專業として御維持被成候事出來可申と奉存候。山路氏は實際外が忙しきゆえ人の手も多く入可申、專業として自分従事する事多ければ、種が多くなつて金も多くなり可申と奉存候。神學生の事に付御心添被下奉謝候。一、序ながら一寸御伺ひ致し候。〇〇の〇〇君の件を〇〇え送くる事に付御相談申上候事有之候哉。果して然らば貴兄は〇〇にさし置くは安全にして學校の寄宿舎え置くは甚危険なりと、餘程強き語調

にて御答被成候事は無之哉。〇〇〇君の談によれば、彼地方には〇〇の宿舎は非常に悪く〇〇君の悴入學せしめたる許にても念の入りたる尋問を受けたりとの事に御座候。百人近き青年輩の中には度々不心得者有之は御案内の通に有之候得ども、左りとて東風中の空氣に比して特に危険ある事は有之間敷候。右は或ひは貴兄又は成瀬君の通常の御話に羽が付き緒が生ひて廣まり候には無之哉と思ひ候まゝ、御序を以て解惑之御談話被成下度願上候。御返事旁略呈仕候。頓首。

(明治三十年六月三日、在川越別所梅之助氏宛)

博士號

拜誦仕候。護教助手配合の儀に付御意見の趣一々敬承仕候。御尤に奉存候。其積にて他に應對可仕候移轉御入費の儀は御考の通護教の經濟に屬するものと相成可申儀と奉存候。尤も他に費途の出づべきもの無之候間、總體の内にて御繰合せ被下候より外有之間敷奉存候。尤も勘定の立て方は編輯人の旅費として置くべきか、又は委員會計の帳簿に一項を設くべきものかは、一存にて御答申上兼候。何れ後の委員會にて御協議いたし候に可然事と奉存候。

一、博士云々の事、數年前何處とも知らぬ天の一方なるマウント・ヅアルナン・カレヂより贈與の決議を申來り候事有之候得共、一夜のやどりを許さずして斷り狀をさし立申候。爾來右校の決議丈け四方

に廣まり色々の新聞にも出候事に御座候。初めの程は成る丈け手を盡し、機會のある度ごとに解誤の手續をいたし候得ども、近頃は頗る面倒を感じ餘り注意不仕候間、于今何にか書きて居る歎も不被計候。御書中護教云々とは何號の何の部にあることに御座候哉。〇〇に付小生の感情を申し候へば、一成人が一心不亂に反省進徳の工夫をなして人評を顧みるに違なき時、無邪氣なる嬰兒が一個の草履を齎らして、背後よりコソコソ靜思中なる成人の頭上に置いて大に之を驚かしたるに似たり。驚き怒りて見れば、對手は罪なき嬰兒にして、叔父様を立派にする積りなりしとは甚だ茫然の次第ならずや末の世はうたてきものよとひもせず人の頭に履はかせとは

御一笑可被下候。早々頓首。(明治三十年六月十五日夜同上)

娼妓の廢業につき

拜啓、過日御來訪被下候得ども甚だ缺禮申上候。其節之事件は如何相成居候哉、今朝江原氏とも相語り、同前結局之勝利を祈る事に御座候。其に就ても當人之精神變易無之様可致は尤肝要之事に御座候此度之裁判は正理なれ共異例に御座候間、此末如何可成行かは輕卒に判定いたしがたく候。然れ共最後は真理之勝利に可有之候間、何分當人之安心して犠牲と相成る様否決して損がならぬ様に取計らひ候事勿論之事に御座候。御如才なく御措置有之事とは存候得ども、其邊は厚く當人に御含め被成候様

致度奉存候。假設敗訴に終るとも借銭之爲めに難儀を見ることなしと御請合被成候て當然之事と奉存候。二三百圓之事はどうなり出来ること、被存候。裁判之効力に關係無之事に候はゞ、兎に角金談を片付候ても可然と奉存候。尤金が手に在りて大言を吐くには無之候得ども、我黨内之義侠に訴へどの様にも可相成と奉存候。御見舞旁爲念略呈仕候。頓首謹言。

十二月五日

本多庸一

大儀見愛兄

平田愛兄

明治卅二年名古屋に於て、平田・大儀見諸氏數人發起者となり、娼妓の自由廢業が果して法律の文面通り實行出来得べきや否やを事實の上に見んと欲し、地方に於ては種々折衝を重ね、警察署との衝突となり、訴訟となり、終に地方官と意見を異にするの結果、大審院に上告し、遂に勝訴に歸したり。其際先生の後援を得たること少なからざりき。本書は其の際往復せし書信の一通なり。(今日自由廢業の實行は此の時を以て嚆矢とす)

山形日報の質問に應ふ

明治三十六年十月廿二日の山形日報、一昨廿四日夜入手致し候處、生憎多忙にて閱了致しかね今朝に

至り少閑を得一閱之處、角張月峰氏之名を以て『本多庸一に質す』の文章掲載有之候。謹んで誦讀仕候に、予が如き者の言論に對し斯く迄意を用る筆を勞せられ候事、感佩之至に御座候。而して質問之諸點は大概左之如く合點仕候。

- 一、釋尊と孔子と同一視するが如きは不當なる事。
- 二、佛教の經典中如何なる聖典によりて立論する乎との事。
- 三、某々の佛典を讀みながら斯の如き斷案を下すは良心を欺く者なりとの事。

右に對し解疑を試むる前に申述べ置くべき一事は、小生は普通基督教信者と同じく、一切の人靈は神恩之下永遠存在し得べき事を信する者に御座候間、釋迦孔子の如き大心靈は勿論、吾人の祖先と離れて存在し居る者と信する者に御座候。惟幽明界を異にして交接之便なきは、古今事實の徴するところなれば、現世を支配する普通之天則として之に甘ずる者に御座候。

依て第一の問題は、史上之事實なり。必ずしも佛典の詮索を要せざるべし。生も事實なれば死も事實なり、誰も疑ふ所なかるべし。惟其の佛身論に至りては、性質數種等につきて南方・北方自ら説あり、大乘小乗大いに別あり。千萬卷之佛典(凡て之を佛典と稱すること正常なりや否や一疑問なれ共、本論に關せず)中異論奇論悉くし知るべからずと云ふ佛教一派之撰定せる經卷を捕へて、正説とし、他派を以て異論とするの勇ある者は格別とし、生がごとき傍觀者に至つては之を知るの甚だ少きのみな

らず、一卷を加ふることに彌其の據るところを失ふに至るを免れず。且つ比較的古き宗教にてありながら、其の經卷の記述せられし考證批評等に至つては遅々とし進まず、専門之諸大家にして猶紛々として定まらず、往々にして最古と見えし經卷にして釋迦現在より四五百年も後に記述せられたらんと考證ある等に至りては、局外學生たる生等には惟茫然たるのみ。焉ぞ其の經典によつて意見を立つるを得んや。況んや博識なる佛敎家にして、猶釋迦を以て人間中の偉大なる者と公言して憚らざる者あるに於てをや。生は經典を以て之を論ずるにあらず、唯史上の大人物として之を見るに外ならず。且つ佛敎の行はるゝ實蹟を視るに、釋氏の敎説を重んずること甚しく、其の効果も最も此の側面に結ばれ、其の人格感應之如きは比較的輕視せらるゝに似たり。信徒之修養的工夫に至つても、釋氏之靈身に接して其の慈光に照らされんよりは、其の言敎の蘊奥を悟り、超然として一個の釋迦たらんことを求むるに似たり。故に我が心靈之上に對象を求むるよりは、我が心靈之内に向つて佛性を求め、孤身覺悟淨靜不動之地に達せんことを求むるに似たり。是れ皆獨修自覺自ら救ふ者なり。他の慰藉獎勵を求むる者にはあらざるなり。壯は即ち壯なりといへども、孤靜獨居凄然として雪山に坐するの觀を免がれず。人情之久しく耐ふるところならんや。凡夫萬姓の立ち得べき處ならんや。釋迦之高風後人を勵まし、其の智言能く其の心緒を導き、千萬人中之奇傑をして此の孤靜に達せしむることあらんや。れ共、慈悲同情に輝ける温き釋氏の靈身が修業者をして其の寂靜を得せしむることは、現に行はるゝ

靈界の實蹟ならんと思ふこと能はざるなり。故に釋氏の實身は如何なるにもせよ、信者に及ぼし居るところは大體が斯く見ゆるなり。中に一佛を奉じ多佛を信する人々あるにもせよ、知識あり品格ある信徒之修業的工夫は、孤靜入覺を勉むるに在り。其の對象者を有するがときは却つて工夫に害ありとするが如し。(彼の單純に佛を渴仰して、知らず識らず偶像崇拜者となり、禍福之念にのみ富みて倫理道德に遠さが如きは、一般凡骨の所謂方便渦流中に漂ふものにして、其の正法を去ること甚だ遠きにはあらざるか。實に憫然の至りに堪へざるなり)故に生は釋氏も孔氏も敎説と遺風とを以て世人を益するの外、其の靈身を以て親しく世人を化導し扶掖せざることを云ふなり。故に小生の言にして過ならば、經典論の詮索にあらずして現實觀察之誤なりと云ふべし。若し夫れ釋迦牟尼佛の實身即ち佛身論に至つては、經典之批評考誌と共に専門家の定論を待たんと欲す。敢て妄に管見を挟み申聞敷候。前二項之陳述にて經典論は本論の立場に非ざれば、良心問題之如きは自ら消滅する事と被存候。『良心を欺く云々』のごときは人身問題に稍切迫いたし候て、一論題を研究するの場合に於て輕易に言ひ立つべき儀には無之乎と被存候。

右は小生の思ふところ概略申上候處、結局小生之不學を表白するに當り候事には有之候得ども、有り體に申上候より外無之候。小生は此の瞬間にも猶は我が日本同胞之心中に好伴侶なきを感じて嘆息する者に御座候。否有益無害なる伴侶が余り多くして一も眞に人心を救ふ者無きを憂ふる者に御座候。

歸する處明白なる有神思想之缺乏と奉存候。責任之念強からざる、眞實を重んずるの心厚からざる、人の人たるを貴はざる現日本之病根と相觀え候者皆此有神思想に關する儀と奉存候。書不悉言敬白

(明治三十六年十月廿六日)

桂總理大臣の意向

日本福音同盟會委員本多庸一が去る四月八日井上伯爵に面談之節、伯は桂總理大臣が貴下に面談を望居に付直接訪問可然との事に付、同日前十時半桂總理を官邸に訪問致候處、桂總理大臣が本多に對し申され候處大意左之如し。

『日露交戦開始之機に臨み拙者が憂慮せる一は、内外人種並宗教の異同より感情の衝突を起し誤解を生じ、謬論を散布し、徒らに事情を糾紛して政府の主意、國論の本旨を貫徹するの妨害を來さん事なりき。依て當時内務大臣の資格を以て露國人保護の事を各府縣一般に訓令を發し、且可成丈け實際に保護を加へしめ置き、又文部大臣には教育界に訓令をなさせしめたる次第なり。然るに其後地方にて拙者が憂慮に符合せるが如き衝突、誤解、謬論等所々にあるべきなれば、基督教會並外來の宣教師諸士にも此意を體し、聊かも危懼誤解等の事無之様互ひに留意忍耐、行違等を生せざる様政府が期待する所を達せしむるの方法を採られんことを希望するところなり。神佛各宗には管長もあ

つて夫々示達の道も定まり居れ共、基督教には未だ其設け無之に付、本日貴下に談示する事如斯。可成貴下之縁故ある諸教會並諸宣教師等に此意を通達せられんことを希望する所なり』
右御通知申上候間御團體中に無漏様御通達被成下度此段得貴意候也。

(明治三十七年四月九日、日本福音同盟會長の手より通達せしもの)

内地より

拜啓御出陣御苦勞遙察仕候。廣島にて少く御煩ひ相成候よし、今程は御健康ならんと奉存候。偕て久く待ちたる陸戦も、手初として昨日は九連城占領相成候よし、本日は公報にて一同の喜び云はん方無之候。一昨日來の戦争は敵味方十萬計りの對戦と思はれ候。且つ海軍さへ参加いたし居候事にて、定めて非常の壯觀なりしならん。殊に敵は要地に據り利器を用ふ、流石に支那軍とは異り候半も、我も廿七年とは大に進歩いたし居り且つ數倍の大軍に付其旺盛なること言ふも愚と存候。死傷も七百計りとは中々に烈しき戦闘と存じ候。明日に相成候はゞ一層の詳報を得るならんと奉存候。廿七年には十月末に鴨綠江を涉り、十一月初めに花園河口の上陸と相成候。此度も第二軍の上陸近きにあるならんと待詫びしく存候。

一、日本海にては露艦未だ武運盡さず、去る廿五日には濃霧の中に我第二艦隊をやりこかして元山に

五洋丸、新浦沖に金州丸を轟沈して、一中隊の大坂兵を海死せしめたる悲惨無禮の技を演じ候は、近頃苦々しき事に御座候得ども、終は冥土に極まり居る露艦の事故、暫く跋扈を許しても恐るゝに足らずと存候。此度は戦闘員に不被爲有候間、齒がゆき事も不被爲有候得ども、御觀察は御都合よからんと奉存候。

一、學院はさしたる不都合なく進行いたし居候。體育部の總長なきは甚だ困入り候。假に小生選ばれ候得共、土偶に異らず。

一、松田は一旦召集せられ、停車場司令部に詰め候得ども、模様變りて又々學校に参り居候。

一、四月の入學は概して高等科の方多く、一年級は六拾人近く相成候に付、英語科丈は二級に分つべき計畫に御座候。

一、建築圖案は今以決し不申候。米國主義と文部省主義と折居六ヶ敷候得ども、折衷したる者出来る様勤め居候。

一、布教使は今以て出来ざれ共、暫時の後慰問使として特に可被許様陸軍大臣の内諾を得居り候間、其中誰か御見舞に罷出可申候。小生は近日傳道用にて木原氏と共に渡韓いたし候（年會にて京都へ傳道を始むる事となり木原外七氏選抜致され候）間、都合によれば平壤邊まで又は猶先きまで参り慰問いたし度考に御座候得共、朝鮮人の教會を訪問せんと考も有之候間、或ひは戦地には参着候も難計奉

存候。

一、曾て小生方に寄寓いたし候韓人朴源根遞相大浦氏の周旋にて、第一軍司令部の通辯となりし哉に承候。果して然る時は時々御目に懸る事と奉存候。先般小生より書狀さし出候事有之候。相達し候や御尋ね被下度願上候（自然御逢の事有之候はゞ）。

一、近時は頻りに露探騒ぎ有之、妄誕無稽笑止千萬の浮説多く有之殘念至極に御座候。是實に露探の流言なるべしと存候。甚しきは長谷川師團長福島少將等皆露探の嫌有之様申傳へ、抱腹絶倒何とも申兼ね候。我國民も未だ實に幼稚なり、戦に勝ちても逆ても誇ること出来不申候。陸海軍の程度に比して萬事非常に低度に御座候。先は御見舞まで略呈仕候。頓首。

五月二日

庸

哲藏様

四月三十日青年會にてマギイ夫人一行歓迎會満場立錐の地なし。閉門の爲歸りしもの幾百人盛大を極め申候。（明治三十七年五月二日、岡田哲藏氏宛）

天國の網は大なり

拜誦仕候。ガラクタ物に付御懇辭を賜汗顔の至に御座候。小生は愈來る十二日渡米仕候。有志者中にも渡米は餘入念過ると思ふ人もあり。然うする人も可有之候得ども、三派合同此機一去りて復歸らずと存じ候間、大事を取り渡米仕候。小生過念の謗を受るに至れば幸甚と存候。歸期は豫定いたしがた

く候へども十月中には歸れる事と存候。
藤崎の〇〇氏は餘程ブレマスに心を傾け居候様子に御座候。彼黨の人々熱信を有するは小生も認め居候得共、實際如何なる者なるやは明知不仕候。平生皮相に見聞する處にては頗固陋の弊あり、廣く衆生を救ふには多くの短處あるにあらずやと憂ひ居る事に御座候。併しながら其類の人を甚く攻撃するは矢張固陋の病に陥る事と存候。ドコまでも異色の人々にも親愛を盡し、ツマラヌ反動の興らぬ様注意すること緊要と存じ候。天國の網は大なり、大根本に故障無之教會の整理を紊さる已上は、可成寛容に異色の人を勞り其長を利用すること至當と存候。序ながら一寸所感を申上置候。折角時下御厭ひ被遊度奉存候。恐惶謹言。

七月七日

庸

元次郎様

——山鹿氏宛、明治四十二年相州二宮にて——

韓國教會慰問要旨

拜啓、東洋古今未曾有の事變に際し、大日本帝國に於ける福音的諸教會及諸團體を聯合せる福音同盟會が、本多庸一、中田重治の二教師を委員として、大韓國に在る諸教會を訪問せしむるに當り、謹で愛敬する兄弟諸君に一書を呈し委員差遣の要旨を左に略陳す。

一、韓日兩帝國は古來深厚なる關係あり。別て近二十年間に於て修交新に近密を加へ、政事商業及文武教練等は勿論、邦家の存在領土の保全に至るまで其利害を共通するの事情に在り、特に本年兩帝國同盟の約成るに及で列邦間比類なきの間柄となれり。此際に於て秀高なる意義を以て兄弟姉妹の關係ある吾儕基督信徒たる者は、漫然として經過すべからず、速かに一般兩國民に過ぐるの交情を耕養すべきは理の當さに熄むべからざる所なりと信ず。是委員差遣の急なる所以なり。

一、日露の交戦は韓日兩帝國の安全と東洋の進歩平和とに關し免るべからざる所となれり。而して不幸にして韓國の領土に於て開仗する事となれり。之が爲めに韓國全般と共に、主に在る兄弟姉妹をして幾多の迷惑を感せしめたるは、在日本兄弟姉妹の同情に堪へざる所なり。是慰問を急にする所以なり。

一、韓日兩帝國は天祐を享受すること甚だ久しと雖ども、眞神の道未だ普及せず、人道亦未だ甚明か

ならざる所あり。實に兩國の大患なり。而して吾儕基督信徒は衆同胞に先て恩寵を受けたり。宜しく同心協力して與に聖道傳播に勉むべし。是修交協同の急なる所以なり。

一、韓日兩國に在る福音的教會は、多くは英米兩國に在る諸教會の傳道に由る者にして、其教理主張共に開化文明の進歩趨勢に適合する者なり。吾儕は幸にして内外に此好關係を有せり。宜しく東西歩武を一にして東洋の進歩祝福を圖るべし。殊に戰爭終局に歸し韓滿兩地の平和全く回復し東洋全般洞開の日に至らば、韓日人の往來は勿論歐米人の兩地に來往する者一層多かるべきは自然の勢ひなり。吾儕は豫め備へて健全なる修交を圖り、天父を奉じ天下を家とするの博愛と地上を天となすの清操を以て、神榮を顯彰せざるべからず。是祈禱を一にし修養を與にするの急なる所以なり。

最後に表明せんと欲する吾儕の願望は他なし、在天の父と主耶蘇基督の恩寵と平安とは、常に在韓國兄弟姉妹の上に在り、神國の擴張日々に進歩して息まざらんことを誠實切望する所也。頓首謹言

明治三十七年五月

大日本福音同盟會

大韓國基督教會兄弟

玉机案下

聖誕節に際して

拜啓日曜學校の小供衆が忙しく相成候と共に教會の職員ども、何かと心せわしく相成候折柄、クリスマス號の爲めに何か寄稿せよとの御催足に預り、イヤとは申兼候義理合には御座候得共、何分材料蒐集の遑無之には閉口仕候。仍て論題を掲げて長文を綴ることは思ひ止まり、塵芥掃溜の體裁を以て筆の動くまゝに断片を相並べ申べく候。

一、近頃護教を讀む毎に思ひ出し慙愧の感に堪へざる一事は、朝鮮旅行記を半途にして相休み續稿を起すの機會遠く去りて、今更如何ともなしがたきに至りたる事に御座候。幾度も試み候得ども、色々妨げにて立消えと相成候次第、残念ながら止むを得ざる儀に御座候。就ては此通信の第一項に於て朝鮮の事を一寸申可候。去月半の事に御座候、平壤に在る一宣教師よりの書中に曰く、日本の軍隊と官憲に對しては左までの事も無之候得共、冒險的小商人並勞動者の非行に對しては、一般韓人の感情追々宜しからざるの傾あるは遺憾の事なり。同時に韓官の腐敗は未だ依然たる者なり。人民は内外の壓迫にて安ずべきの地なし。願くば日本政府適當の措置ありて、此民を救はれ度云々、と誠に尤の次第に御座候。而して此般の痛苦を尤も多く感ずるは、彼地方人中尤開明の運に向ひ居る信徒等ならんと思ひ候へば轉た心痛に堪へざる儀に御座候。彼等は比較的正しくして進歩自由を欲する者なり。其他國人の暴慢邪曲に遭遇して苦痛を感ずること、暗愚卑屈なる者に勝るは當然の事に御座候。吾人我國勢擴張の爲めに韓國人民の爲めに旻天に號泣せざるべからざること、存候。

一、天長節と旅順陥落は最早問題とならざる様相成候。クリスマスと旅順は如何に候半歟、旅順艦隊は既に片付候。難産の半分は濟みたりと申すべく候。クリスマス迄には全く御産が濟み候はゞ、新年の御祝ひは格別の者と存じ申候。是までに既に我等の祈の一大目に有之候が今は特別な事と存じ申候。

一、過日遼東より歸られ候青年會同盟軍人慰勞部の落合君の談によれば、佛教の布教使等が比較的善き宿舎に居り差したる勤勞もなきを見て、或る軍人等の感觸を害するもの少からざるを見ることあり之に反して青年會軍人慰勞部が一定の會場に筆墨紙を備へて自由に通信せしめ、或ひは代書をもなし便利なる樂器、遊戲、器具、新聞、書籍、髪かり器械等を備へて使用を自由にし、時々演説、説教、聖書の講義等をもなす時は、皆々一方ならず喜び居るよし。知るべし、軍人は尊大に理論を説き聞かず事等よりは、實踐躬行物と精神と形而上と形而下と同時に慰藉を與ふるものを要することを。基督も玉へり、「瞽者は視、跛者は歩み、貧しき者は福音を聽かせらる」と。

一、露都騷擾の報頻りに新紙上に上り申候。如何程の變化を生じ候かは不相分候得共、大小は兎も角露國覺醒の端緒に可有之候。從來彼地の學生共が屢々活動せんとしては忽ち打碎かれ候。彼等とて外國に事ある時に内亂を興すことは好むことにはあらざるべし。左れど元より外に致し方なしと考へ居る事ならん。若し此大戦が機會となり、露國の政界に文學に宗教に幾分の自由を増す事とならば、そ

は日露戦争の美果なるべし。露國は負けても猶大なる利益ありと云ふことを得べし。これは吾人は露都騷擾の評判よりも一層有効ならんことを希望する者に御座候。

一、クリスマスは今日教會限りの祭日にあらずして、世間一般の祭りとならんとするの兆有之候。元來御祭好なる日本人には形より入ること寧順當なるも難計候得共、兎角方便は方便丈にて終り、之を経て目的に達することを忘るゝこと多きものに御座候。天主教會がクリスマスを俗的に小供らしく修飾するは、全く一の方便なるべし。或る進歩せる時代迄其要求を充し置きて、漸く誘導する積りなりしならん乎。然るに今は一點一畫も舊套を改め難き有様になり居るには無之候や。大方の形式は皆如此者に御座候へば、クリスマスの意味を可成失はぬ様に執行致度ものに御座候。

一、耶蘇と云ふ嬰兒が地上に生れたることを祝するは、成長して基督となり玉ふことを含みての事は勿論に候得共、大なる基督が耶蘇と云ふ名を命せられし爲めに、かよわき赤兒として生れたることなかりしとせば、吾人は如何に考ふべき者に候や。今日よりも一層困難なる問題多かるべく候。如何なる大人物にもせよ、吾人と同じ様に赤兒として生れ、母の乳を吞て生長したることを聞けば、吾人は既に生活に於て兄弟たるの情動きて禁ずること能はざる次第に御座候。ロミユラスと申豪傑が、狼の乳を吞みて生長したりと計り聞きて、何様氣味悪く感せられ候。況んや天よりか地よりか、母のなき大男が突然に世に來りて云々することありとすれば、是吾人の同類にはあらざるべしと思はるゝ

ことを免れず候。然るに耶蘇はさる奇怪なることなくして、全く萬人と同じ様に母より生れて乳を呑みたまへり。匍匐をして遂に歩行に移れり。而して後生長して我に従へ、我父に來れと教へ玉ふ。吾人は其赤兒たりし耶蘇と赤兒たりし吾人との間に通有せる状態により、無量の同情を懐くことを得るなり。左れば赤兒の耶蘇と光榮の基督と決して其大小を論すべからざるものあり。クリスマス亦祝せずして休むべき儀に無之と存候。

一、クリスマスに向つて猶遠く其先を見透し候得者希望満々として喜び限りなく候。然れどもクリスマスは後に來し方を眺むれば、遺憾なることのみ多く御座候。但し過失と遺憾と折り重りて見ゆる上に、恩寵の雲がたなびきて愛の光が断えず火花を散らしつゝあることを見れば、感恩の情禁じがたき者あるは、信仰の人には皆同じ心なるべしと存候。

一、五十七歳のクリスマスを迎へんとして、我も人の親なることを新たに感じたる心地いたし、亡親に對するの情座ろに禁じがたく候。人が親の心を知ること大方最早遅しの場合なるは残念に御座候。併しながら是天父の心を知るの修業なりと思へば、決して遅きことはあらざるなり。永遠の父には永遠の子として仕へ奉ることを得べきは勿論の儀に御座候。

一、天下將に亂れんとす。劍を杖いて慨然として獨り自ら誓へる青春の一瞬時を回顧すれば、風霜凛烈森嚴の情に堪へざらんとす。然れども同時に重任背を壓し荆棘足下に充滿して進退殆んど究まれる

の記憶を起さざるを得ず。翻つてクリスマスの時主の前に跪き、主よ我に何を爲さしめんとし玉ふやと問へば、心地頓に謙虛平易の體を得、靜にして安く勇ましくして活潑なるの感に充され申候。

一、人はみな一寸にても廣き地面、一尺にても大きな勢力範圍を欲しき者に御座候。左れば己を思ふことを少し減じて人の事世の事を思ひ候はゞ、人と衝突することなくして我版圖が廣くなり、功業の心を満足せしむるに足る事と存候。且つ人は己に對して餘りしつこき者に候間、己の事を思ひ續けると大小の苦勞骨を削る計りに起り可申候。他人の事には程よく加減をなす事の出來る者に候間、随分多く考へ候ても甚しく痛苦を感せず候。故に心の休みを得度候はゞ他人の爲めを思ふことも安全に御座候。勿論人は絶対に無心なることは出來難きものに御座候。左れば出來る丈け清く安く有益なることを思ひ候事も、然るべきことと存候。形而下に領分を擴めんとすれば忽ち衝突するの虞あれども形而上には如何に版圖を擴め候共衝突の憂無候。敢て功名心を抛棄せよとは申さず候。少し廣く高く深き方面に心を放ち候へば、益ありて害なき事と存候。此歳暮年始は例よりも一層他を思ひやるの便宜多く候。軍人を思へ、家族を思へ、傷病兵を思へ、將軍を思へ、衛生隊を思へ、看護婦を思へ、將軍參謀の苦衷を思へ、萬機を統べ國家の大憂大患を御一人に集め玉ふ天命を擔ふ御方を思ひ奉れ。翻て彼敵を思へ、キリスト敎國と稱して其實行之に副はざる露の君臣上下異種異論者の同じく一大懲罰の下にある者を思へ。何れか主の恩寵に洩るべき者ならんや。之を思ひ彼を思ひて聊か主の跡を尋る

の實を擧げば、何の年か何の日か幸福ならざらん。來れ、幸福のクリスマスよ來れと爾云、頓首。

(明治三十七年十二月、護教社宛)

伊藤侯爵に呈する書

拜啓仕候。韓國事件再炎いたしてより日々の御論議熱讀仕り往々首肯仕居候。然るに所謂勇斷英斷に至りては、平生常識に富み穩健實行を貴ばるる貴論とは大に趣きを異にするの感なき能はざる所に御座候。

御明論の如く今日に於て虚名にのみ拘泥するの要なきは、利害痛痒なき列國の態度なるべしと存候得共、實際韓國を統治して平和に進歩を圖るの便否如何と顧みれば所謂勇斷は果して策の得たる者に候や、小生は經世の學に乏く候得共、維新の際日本人民中の劣等者又俗論黨と見做されたる東北の經驗より考へ候得ば、新附の民族を慰撫統治するには、其感情(センチメント)を重じ同情を鼓吹し、信用と希望を懐かしむること尤急なるべしと存候。維新の際に西南の無經驗にして無同情なる青年政治家が、東北を蹂躪することなかりせば、東北の進歩は猶十年を早めたるべしと感ずる節も有之候。萬世一系の皇室を戴ける日本領土内に於ても然り、況んや三百年來一度も意思の疏通したることなき日韓の關係に於てをや。腐敗せりと雖も一千萬人(最近の調は九百八十萬人と目賀田は語れり)の人口ある

國民なり。之を治むること決して威武と法律のみにて行はるべきものに非らず。必らずや我官民に相當の徳望ありて彼等を悦服せしむる者なかるべからず。憶ふに干涉の程度は徳望の程度なり。此約合を失ひて深入りをなすときは必らず紛亂を興すに至るべしと存候。今日の處若し日韓の區域を要せざる程の勇斷をなすに至らば、我官民の驕傲なること俄かに數十度を進め、韓民の堪へ得ざる處となるべし。我同胞は器用にして能く臨機の事をなし得ると同時に、實に境遇に制せられ易く罪惡に陥り易きは劣等國に於て殊に之を見る(是より草稿中絶せるもの如し)。尤の事に御座候。久しく虐政に苦みたる人民を慰諭するは、大に便利なる狀勢なきにあらず。在韓官にして少しく注意をなさば大に懷柔の實を擧ることを得べしと奉存候。要するに同情を以て事を處するなるべしと奉存候。

閣下の公平なるは韓人も亦知るところなるべしといへども、色々なる故障は今猶民間に多かるべしと存候。願くは一日も早く人民の安心する時を來たし得度ものに御座候。尹致昊は懇意なる私共も懇話いたし候事にて、決して世間に訴ふるの措置を取りたるには無之候。彼は韓人中には稀なる精神家にして、正直なる者に御座候。彼を御引立被成候事大に利益ある事ならず歟と愚考仕候。不思冗言を書列ね候事御海恕被成下度奉願候。乍憚折角御厭被遊度奉存候。謹言頓首。

四月十六日

本多庸一

伊藤侯爵閣下

第十四編 書翰及日記

六九一

京城より

拜啓、豫定の通去る拾九日夜京城安着仕候。昨今日は兩年會を訪問いたし申候。

護教特別補助金の儀は南美の貳百五拾圓は監督ウイルソン氏並幹事ラムバス氏の受合有之候間確定と見るもさし支なかるべし。美以の方は監督クラムストーン氏と博士レナード氏と確答はなし能はざるも出来る丈け盡力すべしとの事、是も信仰を以て成る者としてよろしからんと存候。仍て鶴崎氏と着々御相談被成候ても可然、時期失ふべからざる場合なれば此上の確實を待つこと能はざるべし。此にて猶間違ひ出来候はゞ、我等も鶴崎氏も怪我と思ひて臨機の處置をなすより外なかるべしと存候。

當地の傳道は火事場のごととも云ひ得べし。兩美以派にて直接に傳道に従事する宣教師凡て十一名なるに、養ふべき信徒求道者四萬人にして、地方人にして按手禮を受けたる者僅かに四人、外に數名の補助者もあるよしなれ共、どうする事もならぬ様子なり。玉石混淆恐くは玉石四分に瓦石六分歟も知れず、非常の配慮を要する趣に御座候。

日本の如く將多くして卒少きも困るなれども、當地の様に將校甚だ少くして、教へざるの兵多數なるも中々難儀なる事に御座候。然れど神には能はざるところなし。

年會場にも英語の噉々響けども、韓語は絶えて聞へず、日本の年會とは全く反對の顯象なり。宣教師

諸氏の一生懸命は急需に應せんと盡力しつゝあるも、亦餘程違ひ居る顯象に御座候。

先は要用而已略呈仕候。(明治四十年六月二十一日、在東京別所梅之助氏宛)

相州二宮より

廿日附華書拜讀仕候。貴地方にて靜養の儀御勸諭の趣深謝仕候。靜養には海邊を擇ぶ事に候間、自然其時は興津沼津邊を最良とする譯に御座候得ども、小生も斯くして居ることは不満足でたまらぬ故、近日又診察を受けて彌好況なれば、遊半分にて先づ右地方筋より南方へ懸けて巡廻いたし度、又猶靜養を要するとすれば、原崎君の御邪魔にも相成度と考へ居候。何れ近日中に再診を受け夫より東京へ一寸歸り候上にて、方針を定め申度と存候。自然原崎君と御逢の事にも候はゞ、右の趣豫而御頼み置被下度願上候。

一、先日御廻はし被下候當夏のミッシオン會の決議は初めて一讀仕候。盛なる事に御座候。御手紙にはショーア氏の報告に基きカナダ傳道會社にて盛なる決議ありし様にて候。然れば拜見致候ミッシヨンの案に對してカナダにて決せし儀と了解いたし候。其は如何なる儀に候や、小生は未だ何にも承り不申候。多分知らさぬ方病氣の爲めによろしとの事にて、誰も知らせぬ事かと存候得ども、左程の病體にて無之候間承り度候。

一、過日曾木氏よりも委しき書面有之候。同氏一身上の事に付ては、關西學院の事も申候。是は神學校合併有無に拘はらず成功あらんこと願しく存候。

一、一説あり、舊加奈陀ミッション傳道地なりし地盤にある諸會は、合同後の事態に就き失望し、近頃益甚しきを加ふに至ると。是果して事實に候や。合同後我理想の實現に至らざるは實際の事何れの方面に就ても痛心致居候事不少候得共、特にカナダ傳道地の諸會に於て然りと果して然るや、又其程度如何、之を醫すること如何。御遠慮なく御示し被下度存候。カナダ傳道會社の好意も薄らぎ候半かと懸念ありと申人も有之候。愛兄の御見込果して如何に御座候や。

先は御報旁略呈仕候。頓首。

十二月廿三日

相州二宮、片岡方

庸

傳 四 郎 様

— 波多野氏宛 —

部會區域の事その他

拜復、容體御尋被下奉謝候。來る九日委員會御開き可被成趣敬承仕候。小生其頃までには(多分當日午前)歸宅いたし度考に御座候。

平田氏の事或ひは不合格ならん。殊にりとれかたのごときは全く生地の特徴に御座候。

山路氏の攻撃は相變らぬ事と存候。中々氣の付人に候間開きて益することも少からずと存候。

部會區域の事は考を要することにていつも念にかゝり居候。區域を大にして旅費を要すること多く、補助金を給料に多く費す様な事もあらば、自然外國人を選ぶことの必要多くなるもしるべからず候。

近報によればミッションは旅費を補給せぬ様の方針なるべしとの事に御座候。是も大いに關係あることに御座候。先御報まで一寸如斯に御座候。頓首。(明治四十一年三月四日、在東京別所梅之助氏宛)

仙骨は未だ少しも顯はれ不申候

拜 今中々の暑氣に御座候。御地方の苦熱御察し申上候。小生無事靜養致居候間、御放念可被成下候。

南美の監督 Seth word 氏(昨年も來リタル人)より、七月廿二日桑港を發し(モンゴ)、八月八日横濱着の豫定なりと申來り候。甚だ御迷惑ながら、同氏をモンゴリア號に御迎へ被成下様願上候。小生より書狀も可差出候得ども、小生少くも八月中は下山致さぬ見込の旨御はなし被下度願上候。小方君にも出迎の事を頼み度存居候得共、時節は時節故或ひは不在の時にはあらずや、氣遣ひ申候。案外に來客もあり、且郵便は遠慮會釋なく相達し候間、仙骨は未だ少しも顯はれ不申候。依然たる小

教會の世話人、庄屋然として毎日手紙書きに追はれ居り申候。此頃國民歌集を見候處、世を棄て、山に入る人山にても猶ほ憂き時はいづ地ゆくらむとの一首あり、讀みえてよき歌に御座候。先は右御願まで。早々頓首。

八月二日

平 三 様

庸 一

——明治四十二年常磐野牧場にて、平田平三氏宛——

教役者諸君に告ぐ

拜啓寒冷之候、益御清勝御精勤之段奉賀候。陳ば宣教開始五拾年も旬日之後將に過去らんとする當り、徐に帝國靈界の状態を通觀致候へば感慨に堪へざる者有之事御同感之事と奉存候。而して御同様は新に三派合同の新教會を負ふて指導教育之地に立者に御座候得ば、特に反省奮勵すべきは勿論の事に御座候。今や眼前に切迫せる聖誕歲晩年始等は省察悔改奮勵之爲めに恰好の時期に御座候。願くは此好期を逸することなく、更新之實驗を重ねて指導教育の資格を具へ、任務を果し度者に御座候。明年は合同後第三回の年會を開くべき事に御座候。此三年間我教會發達の程度果して如何。例之ば信徒信操の生長如何、教會に對する愛重之念如何、教會の性質組織及事業に關する知識如何等、凡て大に考察

すべき者に御座候。右は豫て御注意有之は勿論の事に御座候得共、殘る一季間猶精々御盡精有之度切に冀望仕候。斯て初期三年間の新なる御恩寵に副ひ、三派母會の扶翼にも副ひ、大榮の幾分を顯彰することを得べく奉存候。願くは父及主耶穌基督の憐憫と祝福と愛兄及教會之上に深厚ならんことを。誠惶謹言頓首。(明治四十二年十二月)

大本營も顔色なし

拜復、修正プログラム正に入手仕候。傳道局之報告はモ少し遅方都合よからんと存候間、廿九日は後議事 括弧内には教育出版護教を入れ、三十日午前の議事へ恩給財務兩課を入れ、三十日午前の議事へ傳道局を入れ申候。次週の護教に出る様に高木氏へ相廻可申候。

静岡對中央會堂の運動が餘り早く酣に相成、傍觀者らしき當局には甚だ困り候。開戰の發砲もなき内に、小せり合を始めて勝負を争ふは軍法に反する事ならんと存候。呵々。

實に一奇觀に御座候。箇様に公然と拔懸戰が興り候へば、大本營も顔色なしに御座候。此上如何して宜しからん乎、何れ大局の上から考ふるより外無之候間、此余は先づ無心にして責任者に任し候様愛兄にも又會員諸氏にも冀望仕る次第に御座候。中央の會員にもしか申置候。

一、本日ノルマン氏参り、退老者に對する準備を要し候間、其人名並に家族の實狀等を記し日美當局

者よりミツシヨンへ申込呉れよとの事に御座候。未だ本人より申立つるの時期來らざる様にも候得共
ミツシヨンへは見込にて申入れ候てもよろしく、貴兄部長として一紙御認め被下度、私も連署してミ
ツシヨンへさし出可申候。同文にても宜しからんと存候。早速御はからひ被下度候。藤井氏は其後如
何決定致候や承り度存候。先は急用まで如斯に御座候。頓首。

二月十五日 (明治四十五年)

庸 一

傳 四 郎 様

米國行につき

拜啓、御無沙汰仕候。干時來五月はミネアポリスに美以教會の總會被開候由に付、本別の關係として
一度は顔を出ねばならぬ義理合にて(一昨年は他兩家へは顔出をいたし候へども尤も大なる本家は殘
り居候)、是非訪問する事と相成申候。仍而東西兩年會相濟次第四月十七日横濱出帆のカナダ丸にてタ
コマへ渡航可致に付、東行には是非御地へ出候都合に相成候間其節は又々御厚情を蒙り可申候。就て
先づ一つ御願ひ申度は大北線なり北大平洋線なり、何れにても可成安直に乗船いたし度儀に御座候。
此度は全くの日本メツヂスト教會監督職の旅費を以て旅行いたし候儀に付、甚切詰の經濟に御座候。
山田君の經驗によれば、高橋氏に頼れば他になし能ざる便宜を得る事あらん乎との事に御座候。若し

御不都合なくば同氏へ一應御依頼被下まじく候や。

新聞上喧かりし三教會會同も相濟み候。其會には何にも取立申すべき程の者も無之候へども、兎に角

一應人心に響きを與へ申候。殊に田舎には餘程好き影響を與へ申候。

ミネアポリスの總會は小生著沙前に開始せらるべく候間、御地には長滞留は出來申間敷候へども、一

二泊は必要ならんと樂み居り申候。定期發着表によれば五月二日タコマ着の筈に御座候。

先は右御願まで、略意仕候。頓首。

三月六日 (明治四十五年)

庸 一

誠 明 様

—在シアトル、吉岡氏宛—

日 記(抜萃)

明治三十六年四月二十二日 午前七時半出立、田所秘書官を文部省に訪ひぬ。いよゝ、高等學校入
學の路なきを知れり。然れ共専門學校の方は未だ絶望せるにはあらず、教文館にて電話を以て井深氏
と語り、片岡氏の歸京を待つこととせり。監督シエレンスキを築地明石町五十一番地に訪うて聖

書贈與を議す。監督は身體言語とも不自由なれ共、支那譯聖書引照編纂の爲め勵み居れり。後二時より教文館にて出版委員會を開く。内村氏の原稿を買入るゝの相談を托せられたり。夕刻歸宅、神學部にて祈禱會を司る。

明治三十七年一月六日 近衛公爵の薨去は實に遺憾なり。斯時に斯人を失ふ、上下共に哀む。公爵邸より谷中まで徒歩、柩に隨ふ。一時より三時半迄かゝれり。五時歸途に上る。上野山下より電車をとり。萬世橋にて市街鐵に乗替へ四谷傳馬町まで來りしが、ポケットをスラれたるを發見し徒歩にて歸宅せり。公爵の葬儀質素にして嚴肅なりき。多數の學生中清國人も二百名位ありしと認む。

明治三十八年九月十四日 午前九時ガウチャー氏と馬車に同乗し同氏の邸宅よりボルテモア市ユニオン停車場に至る。出懸に金六拾弗の手形を贈與せられたり、多謝々々。十時ボ市を發す。雨後の晴天にて塵もなく愉快極まりなし。三時紐育に着し、直ちに二十九街のモット氏の事務所にてアンダーセン氏に逢ひ旅行のプランを定む。それよりミツシヨナルムにてレナード博士に逢ひしが、合同問題のことは殆んど忘却せるがごとし。スキドモア氏に至れば何をも知らざるに似たり。日本メソヂスト教會の合同の前途遠慮なり。ボルテモア市の愉快何れにか飛び去れり。ブルクリン市のミツシヨンに往き、石川氏と川島氏の御馳走にて支那料理を食し、八時ユニヴァーシティー、プレースの長老教會にて演説せり。

明治三十九年六月廿六日 午前七時昇校教授、後六時半ガウチャー館永別式會を催す。盛大なる集會なりし。生徒等は先生方の文學會なりと云へりとぞ。淺田、鹽谷、舟橋三氏の英語は實に我校の榮とすべきものなり。ガウチャー館靈あらば満足し瞑目すべし。

同年六月廿七日 午前昇校教授、十時過文部省に向ひ福原專問局長に法人願の寫を呈し置けり。野尻氏に高杉葛西兩氏の履歷書を托せり。牧野大臣に面會し青年會寄宿舎の事を語れり。本日より注射藥なし、明石の返信を待ち居るつもりなり。福音教會神學校池原氏來り金五圓を贈らる。猪俣泰作氏來訪。

明治四十年六月一日 好晴無比、午前九時より總會を開き暫時にして散會、條例委員會を開く。午後二時總會開會、監督選舉の處五十票中四十二票にて自分當選せり。今夜マナーシを試みしが甚だよし。責任の重さを今更らの如く感じ、人々の祝詞も或は弔詞の如く感せらるゝことあり。然れ共仰いで應ふべしと誓へり。

同年九月一日 午前八時雨中横濱入港、九時上陸、直ちに停車場に至りしが、バ氏のトランク遅れたる故一足先きに十時の列車にて歸京せり。十一時半青山着。午後四時長者丸教會にて鐘七の葬式、立山墓地に葬る。中村氏司會、石坂、小方、山田、ハリスの諸氏皆與かる。小兒としては大葬禮なり。鐘七餘榮ありと云ふべし。鐘七は伶俐なる小兒なり、從順者

なり。残念なる哉、療治は後れたり。されど彼は主の懐ろに生長すべし。天父と同じ経験を嘗むるは光榮なりと山田氏は祈れり、心から首肯す。

明治四十一年十月五日 早朝スベンセル氏を訪ひ米國に送るべき書狀に署名せり。午前七時家を出で品川電車停留場に至り、平岩氏と同伴にて伊藤公を大井村に訪ふ。幸ひに面會し、平壤教會寄附金を謝し稍暫らく閑談せり。歸途白木屋に至り、二郎不在なりしも買物をなして歸る。高木正義氏の事務所に至り、金七拾五圓受取れり。

明治四十二年九月二十七日(片貝伊藤一 隆氏宅滞在)午前二時一度起き、五時二十分離床、兩戸を開けば南風強く雨將さに來らんとす。傘を携へて海濱に散歩に出でしが、忽ち雨となりて歸り冷浴せり。それより聖經女學校の講演草稿に取りかゝりたれど、考なくして困れり。

午後二時片貝小學校に於て有志者の爲め國粹三論と題して演說せり。夜食後月光を踏んで海岸を散歩すること十五六分、清輝波に浮び何んとも云へぬ趣きあり。但し同夜は八月十三夜なり。

明治四十二年七月廿四日(陸奥常磐 野牧場)快晴、嶽山顛見ゆ。(午前八、〇〇 温度三六、三脈六〇) 昨朝に比し温氣高し。フランネル斗りにて濟めり。五時起床散歩十五六丁、三十分。歸來冷水浴、六時朝食。今朝長崎なるスミス氏の頼みに應じ、教會略報を草し居る處へ山田さよ子老姉廿一日死去の旨通知を得たり。盛岡巖手公論社より祝辭の督促あり。午後四時過ぎ三通の書類を調べ、五時温段に赴き投函せり。同

處冷の湯に一浴して歸る。左背の腫物イタミ出せり。嶽より買ひたる無二膏を張れり。今晚サ、グ汁新鮮にて美味なり。今夜月暈あり。

明治四十三年三月廿日 午前家居養生せり。後二時部長會を我家に開く。會者は前夜の通り(平田值賀兩氏を缺く)懇談漸く熟して遂に誓約となり、懇禱熱涙靈に充てり。實に是れ一記念會なり。午後三時長者九教會にて弟武雄の葬式あり、然れど出席する能はず。

明治四十四年一月一日 零時曉鐘を聞いて寢に就く。新年第一の仕事は寝ることゝなれり。七時半離床、八時半雜煮四碗、九時出立九段教會に赴く。十時廿分頃禮拜開始三十名斗。山鹿牧師説教後護教新年號公書に付一言せり。一時山鹿家出立、小石川津輕伯邸に赴き伯に謁し年賀を述べ。伯老來益健大賀の至りなり。偶然菊池九郎氏と共に謁す。齋藤燐氏を訪へば對馬老人亦在り、皆是久瀧を叙し互に喜ぶ。男爵家に至りお夫婦并に三愛兒に面接す。

今年は幾年振りにて家族と共に雜煮を喰べ、家拜を以て舊新年を送迎せしが、二人の長子遠く二人の年少者は茅ヶ崎病院に在り。本日宇野氏生鶴を携へ來りて曰く、之を與へん。然れ共料理に困らば此同伴の友その勞を取らんと、能く主婦の情を知れりと云ふべし。

明治四十五年一月一日 此日天氣麗かなれ共昨日より電車罷業の爲め市中往來少し。午前は構内の諸家を訪問せり。午後小石川津輕伯邸に向はんとせしが、電車不通なるに加へ人力車不足にて、徒

歩の外交通の便なし。然れば止を得ず、伯爵并に京城英磨君に電報にて賀正を申送り。歸宅年賀狀追加に取りかゝり、夜分迄數時間を要す。夕刻より電車往來の數増加せるが如し。東京の失禮言語に絶せり。

一月十四日 日曜(大) 九時西館來訪、九時半出立。電車にて谷町に向ふ。十時禮拜、西條氏説教の後、自ら聖餐式の準備として簡單なる説話をなし、堀氏司式の下に聖餐を行ふ。十二時堀氏と共に追手通師團長官舎に一戸兵衛氏を訪ふ。席に藤本太郎少將(和歌山旅團長)あり。日清戦時に南滿洲に於て其本部に寄泊せしことありし人なり。食事中快談あり。三時大江橋北詰大橋亭に至り三教會員諸氏と會談す。午後七時福島教會にて吉崎氏と説教をなす。聴衆九十餘名盛會なりし。十時半川口に移る。十一時就寐。夕刻魚崎中村氏に明日午後行くべきを電報せり。

三月十日 日曜日、晴、十時富小路二條下る組合教會にて禮拜説教を爲す(國是と宗教)。教會樓上にて會員の重立ちたる人々と會食せり。樓は三層にして四方の景色を観るべし。二時東洞院白蓮寺に野澤を訪ふ。在らず。對馬太郎一戸長男在り。久し振にて逢へり。四時歸宿、惡寒疲勞を感せり。六時四十分御幸町二條下る中央メソヂスト教會にて説教す(道德と信仰の調和力)。

三月十一日 月曜日、晴、五時四十分起、七時卅分廣島行汽車にて發す。宿より辨當を興へられたれば、七條にてお茶を買ひ途中にて喫せり。午後二〇五、豫定の通り岡山着。安藝、高岡(日基牧師)、よ

し野諸氏其他に迎へられ、自由舎に投ず。三時より貞子は孤兒院後樂園に赴き、自分は組合教會の役者會に赴き三教者合同に就き語る。七時メソヂスト講議所に臨む。滿堂一杯の聴衆なり。百人斗々十時歸宿。入浴後就寝前、此記を認む。

今朝神戸吉岡氏より廣島ターナー氏死去の事を聞く。明日神戸に葬式あるよしなれば、七・四五にて會葬すべし。

三月十二日 火曜日、午前七時四十五分岡山を發し神戸に向ふ。昨夜岡山を通過せるターナー氏の葬儀に列せんが爲なり。十二時半三宮下車、直ちに關西學院に至る。吉岡氏に投ず。後四時學院西方にある外國人墓地にて葬式を執行す。司式博士ニユートン氏にして、鶴崎、本多、マツウ之を輔く。夕氏夫人三兒を携へて會葬す。慘悽を極む。

夜十時吉岡氏の宅を出で三宮に至り、十時四十八分下の關行に乗る。群衆車に充ち、曉三時頃に至り始めて少しくつろぐ事を得たり。(朝十時貞子は廣島に向へる等)

三月十三日 水曜、半晴、朝七時三三廣島にて貞子に逢へり。工藤夫婦も送り來る。

今日非常に寒し、惡寒にて甚不快なり。前二時馬關着、三時過發、此邊にて數名の年會員と落合ひたり。——以下鉛筆——

後十時十五分長崎驛に着す。出迎大勢あり。平戸町池田屋に投宿す。體温の高さを覺ゆ。

三月十四日 午前休養、午後二時教職會を銀屋町會堂に開く。午後六時發熱、嘔氣あり。今晚の教職會を鶴崎君に依頼し休養す。井上醫師を招聘し診察を受け、投薬を受く。

三月十五日 金、午前十時押して出席、年會組織を司る。午後一時の教役者會に缺席す。午後四時教職者會を司る。午前九時部長會を池田屋に開く。

三月十六日 土、午前九時年會議事を司る。午前十時年會を司る。午後七時傳道局委員會を池田屋に開く。

藪内敬之助氏より見舞としてカステラと密柑と戴く。(夫人書添)

三月十七日 日、午前十時禮拜説教をハリス監督に依頼して自分は休養す。

午後二時ハリス監督並にニュートン、デビス、マケンジー、太田、古坂、田中の六長老と共に接手續を行ふ。病苦の全力を盡し、辛ふじて結了す。午後三時笹森博士、ターナー博士の記念會を開く。祈禱の終まで列席して退出せり。

三月十八日、月、午後九時よりの年會の司會を鶴崎氏に、午後二時よりの司會を中山氏に依頼して休養す。——以下夫人記——

三月十九日、火、伴野雄七郎氏見舞にとて來られ、お菓子を頂戴す。宮田よし子看護婦を雇ふ。縣立病院出身なり。年會有志者より見舞として金子六十七圓贈與せらる。

體溫 晝三十九度 夜三十九度四分

三月廿日部長方其他は大抵夜の十一時半の汽車にて歸らる。

體溫 朝八度八分 晝九度 夜八度九分

三月廿一日 木、晚十一時半の汽車にて部長方も歸らる。釘宮木原兩氏猶滞在。

體溫 朝八度三分 晝八度六分 夜八度九分

三月廿二日 明日病院へ行くことに定む。

廿二日	八度八分	九度
廿三日	八度八分	九度二分
廿四日	八度五分	八度二分
廿五日	七度五分	七度五分
廿六日	七度五分	七度

格言集

- 善良なる習慣は品性培養の肥料なり。
- 少年は其の能くする所を爲さんことを欲せず、年長者は其の爲さんと欲する所を爲す事能はず。
- 拔群は孤秀衆劣を意味す、均一進歩は真正の偉大なり。
- 人は動もすれば神を畏れず、人を憚らざるを以て強とす。吾人の強は之に反す。
- 小損を甘んじて大損を救ふ。
- 小敵に懼ぢずして大敵を懼れよ。
- 眼前の小利を貪りて永遠の大損を招くこと勿れ。
- 個人を重んずるも、之が爲めに國家の軽くなる恐なし。重き個人より組織せる國家はいよゝ重くなるに因る。
- 王公權門の勢力を恃みて罪を犯すは惡むべし。然れ共彼等が罪を犯し易き地位に居ることを恕せざるべからず。
- 死は人生の警聲なり。
- 死は人生の公道なり。

附錄 本多先生說教及演說年譜

明治三十五年

日	時	場	所	演題
一月二日(日)	午前九時	東京九段教會		新年の最大祈願
同日(主)	同上	總州水海道集會所		演題不知
同日(日)	同上	右同		祈る者は行ふべし
同日(日)	同上	右同		隱微なる權
同日(日)	午後六時	青山學院		祈りて行ふ
同日(日)	午後六時	銀座中央會堂		教會の成長
同日(日)	午前十時	横濱瀧邊神學校		自信と信仰
二月廿三日(金)	午前十時	九段教會		最貴の魂
同日(日)	夜	青山學院		同題
同日(日)	午前	九段教會		隱不知
同日(日)	午前	九段教會		信徒の完全
同日(日)	午前	神田青年會		至高なる同情
同日(日)	午前十時	九段教會		隱不知
同日(日)	午後	青山學院		卒業式說教
三月廿三日(日)	午前十時	九段教會		教會所感
同日(日)	午前十時	靜岡市教會		日本富強論
同日(月)	年會中夜	名古屋南久屋町教會		演題不知
四月三十日(日)	年會中夜			

附錄 本多先生說教及演說年譜

同	十四日(日)	午後	靈南坂教會	同上
同	同日(日)	午後	九段教會	同上
同	廿一日(日)	午前	同上	同上
同	同日(日)	午後	同上	同上
同	廿八日(日)	午前	同上	同上
此日大風雪の爲め夜説教なし				
同	十月五日(日)	午後	同上	同上
同	同日(日)	午後	同上	同上
同	十二日(日)	午前	同上	同上
同	同日(日)	午後	同上	同上
同	十七日(金)	午後	福島杉妻町日美教會連回會	同上
同	十九日(日)	午前	九段教會(監獄日曜禮拜式)	同上
同	同日(日)	午後	青年會	同上
同	同日(日)	午後	九段教會	同上
同	二十二日(水)	午後	武州川越町一力座橋演連回會	同上
同	二十五日(土)	午後	横濱戸部教會	同上
同	廿六日(日)	午前	同上	同上
同	同日(日)	午後	東京市番町教會	同上
同	三十一日(金)	午後	仙臺市フェルプス嬢宅	同上
同	十一月一日(土)	午後	同上	同上
同	二日(日)	午前	同上	同上
同	同日(日)	午後	同上	同上
同	同日(月)	午後	仙臺日基教會	同上

同上
 基督教問答第十一問講義
 題不知
 同上
 同上
 同上
 同上
 題不知
 聖別會
 題不知
 同上
 神の大能
 監獄日曜の趣意に付き
 同上
 基督教問答講義
 めぐみと眞理
 題不知
 聖晩餐に付心得方
 題不知
 神に關する思想と人類觀
 神の子と罪惡
 新約第一誠
 信仰と平和
 題不知

同	六日(水)	午後	小牧に開かるゝ連回會の催
同	七日(金)	午前	名古屋清流女學校講堂
同	同日(金)	午後	名古屋南久屋町教會
同	九日(日)	午後	東京青年會傳道獎勵
同	同日	午後	九段教會
同	十四日(金)	午後	千葉縣八日市場町自由亭
同	十六日(日)	午前	同上禮拜
同	同日	午後	青山學院
同	十八日(火)	午後	横濱戸部愛隣女學校
同	廿三日(日)	午前	九段教會禮拜
同	同日	午後	一番町會堂
同	三十日(日)	午後	九段教會
十二月			
同	六月(土)	午後	青山學院神學部
同	七日(日)	午前	九段教會
同	同日	午後	神田青年會
同	九日(火)	午後	芝三田會堂
同	十四日(日)	午前	青山學院
同	同日	午後	九段教會
同	廿一日(日)	午前	同上
同	廿八日(日)	午前	同上

題不知
 人間の價値
 題不知
 同上
 神と人
 神殿中の基督
 同上
 獻堂式に就て
 獨立
 信仰と平和
 佐藤治六改心の書狀を朗讀
 神學生及傳道志望者に語る
 最大慰藉者
 先づ勇者を捕へよ
 人間の地位と慰藉
 最大慰藉者
 十字架の効力
 インカルネーション
 寛を送り新を迎ふ

明治三十六年

八月十四日(金) 午後八時 北海道岩見澤教會

附録 本多先生説教及演説年譜

題不知(及内國傳道會社の爲め)

月	日	時	場所
同	十五日(土)	午後八時	同 小樽會堂
同	十六日(日)	午後八時	同上
同	二十日(木)	午後八時	同 旭川教會
同	二十一日(金)	午後八時	同 岩見澤會堂
同	二十三日(日)	午後七時	同 函館美以會堂
同	二十六日(水)	午後七時	秋田縣大館尋常小學校
同	二十八日(金)	午後七時	青森縣弘前美以教會
同	二十九日(土)	午後七時	同上
九	月		
同	一日(火)	午後七時	青森縣五所川原病院
同	二日(水)	午後七時	青森美以教會
同	三日(木)	午後七時	同 縣八戸美以教會
同	四日(金)	午後七時	岩手縣盛岡市美以教會
同	五日(土)	午後二時	同上日基講義所
同	六日(日)	午後七時	仙臺市美以教會
同	七日(月)	午後七時	福島市牧師宅
同	八日(火)	午後	白川郡會議事室
同	十九日(土)	午後六時	神田青年會
同	廿七日(日)	午後七時	武州川越教會堂
同	十月		
同	十六日(金)	午後七時	神田青年會
同	十七日(土)	午後五時	山形市假講義所
同	十八日(日)	午後七時	同 教會に開きたる連同會
同	十九日(月)	午後七時	米澤教會
同			仙臺日基教會

六

山と海と青年 同上(青年會の爲めに)
日本物價論(及内國傳道會社の爲め)
人間の値上げ
我等の神我等の人
獨立
題不知
日本物價論
人格論
題不知
人間値上げ
同上
基督教は日本の祭壇に何を貢獻すべき乎
題不知
人格の競争
人格の競争
最終最烈競争
題不知
青年會秋季學生歡迎に就いて
最も恐るべき競争
秋郊感懷
眞文明と人格
題不知

明治三十七年

月	日	時	場所
同	二十日(火)	午後七時	四那須野新會堂
同	二十八日(木)	午後七時	愛知縣西尾大給町會堂
同	三十日(金)	午後二時	岡崎市
同	同日(金)	午後七時	同市
同	三十一日(土)	午後三時	豊橋教會
十一	月		
同	二日(火)	午前七時	名古屋清流女學校
同	三日(水)	午後七時	水海道
一	月		
同	一日(金)	午前十時	東京市銀座會館
同	十日(日)	午前十時	青山學院
同	十七日(日)	午前十時	右同上
同	廿四日(日)	午前十時	相州鎌倉會堂
同	同日(日)	午後七時	相州腰越 佐竹氏宅
同	三十日(土)	午後六時半	東京市神田基督教青年會
同	三十一日(日)	午前十時	青山學院 禮拜説教
二	月		
同	七日(日)	午前七時半	右同上
同	十四日(日)	午後六時半	右同上
同	同日(日)	午前十時	右同上
同	二十一日(日)	午後六時半	東京市神田基督教青年會
同	同日(日)	午前十時	京都同志社
同	同日(日)	午後六時半	同 烏丸通中央教會
同	廿七日(土)	午後一牛	東京講農會

七

新年の祈願
心を化て新にせよ(ロマ書十二章二節)
新年の新事業
教會の成長
傳道説教
何故に青年は聖書を學ぶべき乎
同上
内國傳道會社に付
基督降臨の動機(内國傳道會社の)
信に由れるモーセ
基督教徒として征露を賛成する理由
演説 題不知
演説 同上
修養瑣談

八月二日(火)	午後	長崎銀屋町會堂
同日(水)	午後四時	同 活水女學校(外人の小集會)
同日(木)	午後七時	同 瓊林館ノ懇和會
同日(金)	午後	熊本美會堂
同日(日)	午後八時	福岡市天神町美會堂
同日(日)	午後一時	神戸下山手五丁目美會堂
同日(日)	午前	大阪美會堂(青年懇親會席上)
同日(日)	午後四時	青山學院
同日(火)	午後八時	本郷森川町會堂
同日(火)	午後九時	神田青年會
同日(日)	午前九時	銀座中央教會
同日(日)	午前十時	麻布教會
同日(日)	午後一時	戸山學校豫備病院
同日(水)	午後九時	箱根夏期學校
同日(日)	午後	青山學院
同日(日)	午後	同上
同日(日)	午後	青山學院
同日(日)	午後	武州川越芝座
同日(日)	午後四時	神田青年會
同日(日)	午前	青山學院
同日(日)	午後七時	九段美會堂
同日(日)	午後	千葉縣安食美會堂

戰地視察談
朝鮮傳道事情
同上續き
戰地視察談
演說 題不知
演說 同上
演說 同上
報告演說(木下氏の爲め)
報告演說(戰地慰問)
演說
傷病兵慰問演說
韓國視察談
高大の犧牲
韓國視察談
演說
演說 矯風會の爲
救はるゝものは誰ぞや
演說
韓國視察談
演說

九月九日(日)	午前十時	同上
同日(日)	午後七時	同上
同日(日)	午前十時	青山學院
同日(日)	午後二時	神田青年會館
同日(火)	午後六時	芝教會
同日(土)	午後七時	甲府美會堂
同日(日)	午前十時	甲府櫻町教會
同日(日)	午後一時	甲府縣會議事堂
同日(月)	午前八時	甲府英和女學校
同日(木)	午後七時	熊谷町美會堂
同日(金)	午前	木庄會堂
同日(日)	午前	青山學院
同日(日)	午後六時	同上
同日(日)	午前十時	同上
同日(日)	午後七時	青年會館
同日(日)	午後七時	青山長者丸美會堂
同日(土)	午後	横濱蓬萊美教會
同日(日)	午前十時	同上
同日(日)	午後七時	東京九段教會
同日(土)	午前	青山學院
同日(日)	午後二時	青年會
同日(木)	午後七時	相州小田原町富貴座
同日(日)	午前十時	青山學院

演說
演說 實験と進歩
同上
演說 題不知
演說 矯風會の爲
演說
演說 日露戰爭に付吾人の覺悟
演說
演說
演說 いのり
演說 韓國視察談(宗教に就て)
演說 いのり
演說 警監同盟大會
演說 日露戰爭に付吾人の覺悟
演說 韓國視察談(青年會の爲)
演說 回順して青年の爲めに祈る
いのり
演說
演說 克己
演說 天佑を空うする勿れ
勤勞

附錄 本多先生説教及演說年譜

同 十二月 同 日(日) 午後六時 青年會館
同 十二月 四日(日) 午前十時 青山學院
同 十一月 十一日(日) 午前十時 同上
同 十一月 十八日(日) 午後三時 神田青年會館
同 十一月 廿五日(日) 午前十時 青山學院

明治三十八年

一月 一日(日) 午前十時 青森美以教堂
同 一日(日) 午後七時 弘前市美會牧師館樓上
同 三日(火) 午後八時 青森市浦町會堂
同 十五日(日) 午前十時 東京青山學院
同 同日(日) 午後一時 神田青年會
同 二十二日(日) 午前十時 青山學院
同 二十九日(日) 午前七時 青山學院
同 十二月 五日(日) 午後七時 青山學院
同 十二月 十二日(日) 午後 青山學院
同 十二月 十四日(火) 午後六時 青山長善丸美會堂
同 十二月 十九日(日) 午前十時 芝三田美教會
同 十二月 十九日(日) 午前十時 香山學院
同 十二月 十六日(日) 午前十時 香山學院
同 十二月 十六日(日) 午後七時 同 伊語會堂演說會

祝辭(日本基督教傳道局十年記念會)
良習慣
最良の知己
克己
クリスマス趣意

説教 題不知
同上 同上
朝鮮談
故を謝し新を祈る
同上
傳道要訣
汝は其人なり
演説 題不知
學生青年世界同盟新編につき
罪につき
説教 題不知
正確なる結足
約翰傳第十三章の一節
説教(蘇蘭人マクラント司會の下に)
説教 題不知(英語)(井深氏と兩人)
演説(同上)

同 五月 十七日(月) 午後
同 五月 六日(土) 午前
同 五月 十三日(水) 午後
同 五月 十四日(木) 午後
同 五月 十八日(日) 午後
同 五月 十九日(日) 午後
同 五月 廿四日(水) 午後
同 五月 廿七日(土) 午後
同 五月 三十日(火) 午後
同 五月 三十一日(水) 午後
六月 四日(日) 午後八時
同 五月 五日(月) 午後
同 五月 六日(火) 午後
同 五月 八日(水) 午後
同 五月 十日(土) 午前
同 五月 十一日(日) 午前
同 五月 十六日(金) 午前
同 五月 十八日(日) 午前
同 五月 二十日(火) 午後

同 青年會
イイス
同上
アラツセル市カートノール青年會館
ハーグ、青年會館
同上
アムステルダム市大學小講堂
ストツカルト市青年會館
同市 同上
ミュンヘン市青年會
ベスト市、ミユセの演說會にて
ウイナナ府青年會館
同リフオムド教會
伯林 青年會館
ハン市某會所
ライプツエク 青年會館
伯林 伯爵某の世話する學生會にて
コツベンハーゲン 青年會三層樓
同上 美會コブツン氏の會堂にて
モルトケ伯家に會し四拾餘名有志者と共に
ピエルカ市
ストツホルム美以教會に於て
同 青年會館

同上 同上
聖書に付演説
コンパルメヨンに付各國代表者一人づつ
語る其の一人として
演説 井深 本多
演説
同上(カールコソ氏の談によれば我等の談は餘り政事的として聽衆に喜ばれざりしと)
演説 學生の爲
演説
演説 工業學校教授シェノイス氏通譯兩人
演説 通譯者 教授某氏
演説
演説 (ヘクラ氏に伴はれ、聽衆六七百人)
演説 英人インワード氏及米人ミラー氏と共に語る
演説 二百餘の集會
演説(クンタルト氏に導かれ、聽者三百許)
演説(イルマル氏に導かれ)
演説(聽者八百人許 二人共)
我改心に付(ペンテスコストなり)
演説(兩人共)
演説
演説(エスタスン氏通譯聽衆百五十人)
演説(聽衆四百人許)

附錄 本多先生説教及演說年譜

附録 本多先生説教及演説年譜

同	廿一日(水)	午後五時	同 フリー氏宅にて	演説(兩人共)
同	廿六日(月)	午前一時	トラメン教會堂	演説(ノルウェー青年會同)
同	八月二十日(日)	午後七時	ウエストウオルズ美以教會	日本の事に付き
同	二十九日(火)	午後三時	オーションクローヴ大會堂	演説(長老會にて)
同	九月三日(日)	午後三時	ロンスワクルの集會	演説
同	同日(日)	午後七時	アルークリンミッソシヨにて	同上(ウイリソン監督の紹介にて)
同	九日(土)	午前七時	パルホルビル年會にて	演説
同	同日(土)	午後八時	同 傳道會にて	演説
同	十四日(木)	午後八時	ユニヴァシテプラー長老教會	演説(兩人共)
同	十五日(金)	午後七時	同 クラブにて	演説
同	十七日(日)	午後八時	同 東百三三街樋口氏宅	演説
十月	一月一日(日)	午後三時	ニエートン YMGAYにて	日本基督教現狀とYMCA事業について
同	七日(土)	午後三時	オークランド YMGAYにて	演説(日本語)
同	八日(日)	午後八時	同 バインME 教會にて	歐洲宗教視察談
同	同日(日)	午後三時	オークランド YMGAYにて	演説(英語)
同	同日(日)	午後八時	同 ロリソクホールにて	同上(同上)
同	十一日(水)	午後	ホルトランド、ミッソシヨにて	演説
同	同日(水)	午後	同 青年會にて	同上
同	十五日(日)	午後	晚香坡、鋪木氏會堂	演説
十一月	十月十日(金)	午後六時	青山學院歡迎會にて	演説
同	十二日(日)	午前十一時	青年會館	歐米宗教談(歐米土産)
同	十九日(日)	午前十一時	青山學院	歐米宗教談

同	廿五日(土)	午前十時	仙臺東北學院講堂	演説
同	廿六日(日)	午後十時	仙臺美以教會堂	歐洲宗教談
同	同日(日)	午後	仙臺日基教會堂(各青年會聯合會)	歐米旅行談
同	廿七日(月)	午後	盛岡市美以講義所	歐米旅行談
同	廿八日	午後	同師範學校(女生に對して)	同上
同	廿九日(水)	午前十一時	青森市高等小學校	同上
十二月	一月一日(金)	午後三時	青森師範學校	演説
同	二日(土)	午後二時	弘前市東興義塾	演説
同	三日(日)	午前十時	弘前市山下町女學校(禮拜)	演説
同	同日(日)	午後七時	青森市浦町會堂	演説
同	八日(金)	午後	青山長者丸美教會	歐米の社會と基督教の關係
同	九日(土)	午後	同上	歐米の慈善事業
同	十日(日)	午前十時	青山學院	演説
同	十七日(日)	午後	青山長者丸美教會	歐洲宗教談
同	同日(日)	午後十時	九段教會	歐米米水
同	十七日(日)	午後	麻布美教會	演説
同	廿二日(金)	午後三時	麻布東洋女學校(クリスマス)	クリスマス祝演
同	廿四日(日)	午前	青山女學院	演説
同	同日(日)	午後	府下 澁谷娛樂堂	演説

明治三十九年

附録 本多先生説教及演説年譜

同 一月十三日(水) 午後六時

青年會 サー・ツヨルツ・ウイリヤムス氏
追悼紀念會に於て
青山學院

附録 本多先生説教及演説年譜

同	六月三十日(水)	午後七時	青山學院神學部(總組會)	所感
同	六月三十日(水)	午後七時	青山學院	説教
同	六月三十日(水)	午後七時	青年會館	國士論
同	六月三十日(水)	午後七時	仙臺市美以教會	獻堂説教
同	六月三十日(水)	午後七時	同上	國士論
同	六月三十日(水)	午後七時	同上	競争の秘訣
同	六月三十日(水)	午後七時	同上	克己と同情
同	六月三十日(水)	午後七時	同上	品性の權威
同	六月三十日(水)	午後七時	同上	平和と勝利
同	六月三十日(水)	午後七時	同上	演説(卒業式に於て)
同	六月三十日(水)	午後七時	東京新富橋福音教會	奉教三要
同	六月三十日(水)	午後七時	青山學院神學部講堂	説教
同	六月三十日(水)	午後七時	横濱愛徳學校	戦争後の日本
同	六月三十日(水)	午後七時	シアトル甲辰館	説教
同	六月三十日(水)	午後七時	同 教會	演説
同	六月三十日(水)	午後七時	同 婦人矯風會	修養談
同	六月三十日(水)	午後七時	同 ミッション文學會	舊新日本に就て
同	六月三十日(水)	午後七時	同 カイアン美以教會	神靈なる記念
同	六月三十日(水)	午後七時	同 ミッション(禮拜式)	短き演説をせり
同	六月三十日(水)	午後七時	同 ミッション	演説(路傍にて)
同	六月三十日(水)	午後七時	同 ショーク市	演説(ハリス監督と共に傳道委員總會にて)
同	六月三十日(水)	午後七時	同 ショーク市(年會の催なる路傍演説組に)	日本最初の教會に就て
同	六月三十日(水)	午後七時	同 モントリオール市セントジョエームス會堂	
同	六月三十日(水)	午後七時	同 ヲシントン府青年會	
同	六月三十日(水)	午後七時	同 武市教會(祈禱會)	

同	十月七日(日)	午前	桑港バイオン町教會堂	説教
同	十月七日(日)	午後	オークランド、ミッジョン	演説
同	十月七日(日)	午後	桑港教師會	合同問題に付き
同	十月七日(日)	午後	同 クリスチアン教會招待會	國士論
同	十月七日(日)	午後	青年會館(天長節)	演説
同	十月七日(日)	午後	小石川竹早町修養社	演説(迎送會に於て)
同	十月七日(日)	午後	青山學院 禮拜にて	演説
同	十月七日(日)	午後	青年會館(作新會演説會)	演説
同	十月七日(日)	午後	日本橋常盤俱樂部	説教
同	十月七日(日)	午後	武州島村美以教會	國士論
同	十月七日(日)	午後	同 本庄美以教會	國運の隆盛と國本の堅固
同	十月七日(日)	午後	同 本庄芝居座	演説
同	十月七日(日)	午後	牛込袋町美以教會	萬國青年會祈禱週所感
同	十月七日(日)	午後	青山長者丸美以教會	同上
同	十月七日(日)	午後	神田青年會館	演説
同	十月七日(日)	午後	淺草柴崎町美以教會	演説
同	十月七日(日)	午後	青山師範學校附屬小學校父兄講話會	國運の隆盛と國本の堅固
同	十月七日(日)	午後	鎌倉福音館	信教の自由及特權
同	十月七日(日)	午後	同上	國運の隆盛と國本の堅固
同	十月七日(日)	午後	京都柳馬場教會	スザンナ・ウエスレ
同	十月七日(日)	午後	同 柳馬場教會婦人會	國士論
同	十月七日(日)	午後	京都組合教會	演説
同	十月七日(日)	午後	同 柳馬場教會	

附録 本多先生説教及演説年譜

十二月 一日(土) 午後二時 神戸下山手五丁目教會婦人會
 同 日(土) 午後七時 同上
 同 二日(日) 午前十時 同上
 同 日(日) 午後七時 神戸教會
 同 四日(火) 午後三時 名古屋青年會
 同 九日(日) 午後七時 九段教會
 同 廿三日(日) 午前十時 青山學院(クリスマス)
 同 廿八日(金) 午後六時 弘前市元寺町會堂
 同 廿九日(土) 午後六時 同上
 同 三十日(日) 午前十時 同上
 同 日(日) 午後六時 同上
 同 三十一日(月) 午後七時 同 牧師館階上

明治四十年

一月 十八日(金) 午後七時 名古屋第二教會
 同 十九日(土) 午後七時 同 久屋町會堂
 同 二十日(日) 午前十時 同 第二教會
 同 日(日) 午後七時 同 久屋町會堂
 同 廿三日(日) 午前九時 神戸教會
 同 月 日(金) 午後六時 二本榎教會
 同 九日(日) 午前十時 芝三田美以教會
 同 十日(日) 午後七時 青山長者丸美以教會
 同 十日(日) 午後七時 同上

長を助け短を補ふ
 思慮ある生涯
 日本メソヂスト大試験
 競争の秘訣
 演説
 演説(青年會のため)
 聖誕を記念して人生の尊きを感じる
 國運の隆盛と國本の堅固
 天國の士
 日本メソヂスト大試験
 「視よ戸の外に立て叩く」
 演説(青年會の爲め)

同 二月 廿三日(土) 午後七時 武州川越町寄席
 同 廿四日(日) 午前十時 武州川越町美以教會
 三月 三日(日) 午後二時 東京中國青年會
 同 八日(金) 午後七時 東京本郷日基教會
 同 十日(日) 午前十時 東京牛込拂方町教會
 同 日(日) 午後七時 横濱戸部山王山美以教會
 同 十七日(日) 午前十時 東京九段美以教會
 同 日(日) 午後一時 神田青年會
 四月 十三日(土) 午後二時 神戸中山下組合婦人會
 同 日(土) 午後七時 同 美以教會(學生大會)
 同 十三日(日) 午前十時 岡山市美以教會
 同 日(日) 午後七時 岡山市會堂
 同 十六日(火) 午後二時 今治町中學校
 同 日(火) 午後七時 今治教會
 同 十七日(水) 午後二時 今治小學校(近傍の島嶼より來るもの七)
 同 日(水) 午後七時 同 教會
 同 十八日(木) 午前八時 同 高等女學校
 同 日(木) 午後七時 松山市公會堂
 同 十九日(金) 午後七時 伊豫松山市公會堂
 同 二十日(土) 午後 宇品女學校
 同 廿一日(日) 午後二時 同 高陵中學校
 同 日(日) 午後七時 同 女學校
 同 廿二日(月) 午前九時 同 女學校

罪の救
 説教
 演説
 國士論
 説教
 日本人と聖書
 大會の事に就て
 軍人に對して
 演説
 學生の地位及責任
 基督と罪惡
 萬國同盟大會に就て
 演説
 説教
 耶蘇の教育法
 天來の貴賓を歓迎すべし
 演説
 演説
 國粹進化論
 演説
 同上
 同上
 演説(ホス氏と生徒に對して)

附録 本多先生説教及演説年譜

同	同日(月)	午後三時	同上	演説(カーマカー氏と婦人會に關して)
同	二十六日(金)	午後五時	豊橋高等女學校	演説
同	同日(金)	午後八時	豊橋會堂	演説
同	廿七日(土)	午前十時	同 商業學校	演説
同	五月五日(日)	午前十時	青山學院	演説
同	五月十二日(日)	午前十時	青山長者九教會	同上
同	六月十六日(日)	午前十時	青山新講堂(三派合同して日本美會組織)	宗教個條第十六條に就て(新教會の新憲法一斑)
同	二十三日(日)	午前十時	朝鮮名古屋城	演説
同	同日(日)	午後八時	同美以教會	演説
同	廿七日(木)	午後三時	京城美教會堂	演説(婦人會の爲め)
同	廿九日(土)	午後九時	平壤クラブ	演説
同	三十日(日)	午後	平壤クラブ	演説
同	七月七日(日)	午後八時	豊橋市日メソヂスト教會	演説
同	十四日(日)	午前十時	東京銀座教會	新教會と新宗教個條に就て
同	十五日(月)	午前十時	青山女學院	皇后ルイスの逸事
同	廿一日(日)	午前十時	東京九段美教會	新しき誠
同	廿七日(土)	午後	鶴沼渡邊莊氏別荘	講演
同	廿八日(日)	午前九時	横濱蓬萊町美會堂	演説
同	同日(日)	午後八時	横濱戸部教會	演説
同	八月七日(水)	午後	鎌倉福音館	演説
同	十日(土)	午後	神田青年會館	演説(救世軍エスチル少將歡迎會)
同	十一日(日)	午前九時	東京青山教會	新しき誠
同	同日(日)	午後七時	東京駒込教會	同上

同	同日(月)	午後八時	信州松本市開成座	國粹論 第一
同	十六日(金)	午後八時	同上	同上 第二
同	十七日(土)	午前七時	松本市麻枝小學校	演説
同	十八日(日)	午前八時	同 會堂	演説
同	廿九日(木)	午後六時	長崎夕陽會	演説
同	九月八日(日)	午前九時	神戸メソヂスト教會	新教會の三寶
同	十四日(土)	午後八時	青森市美會堂	演説
同	十五日(日)	午前十時	北海道函館區相生町美假會堂	演説
同	十六日(日)	午後九時	同 小樽稻穂美會堂	演説(上宮協會の爲)
同	十七日(火)	午後	北海道小樽英和學校	演説
同	同日(火)	午後	同 小樽稻穂美教會	今はいかなる時ぞや
同	十八日(水)	午後七時	同 札幌美教會	新教會に就て
同	十九日(木)	午後七時	同 旭川新會堂	婦人の爲めに語る
同	二十日(金)	午後二時	同上	演説
同	同日(金)	午後八時	同上	演説
同	二十一日(土)	午後八時	同上	演説
同	廿二日(日)	午前十時	同上	演説
同	同日(日)	午後	同上	演説
同	廿三日(月)	午後七時	同 岩見澤組合教會	演説
同	廿四日(火)	午後二時	同 札幌豊平館(津輕人茶話會)	演説
同	同日(火)	午後七時	同 同美會堂	演説
同	廿五日(水)	午後七時	北海道八雲町劇場	演説
同	廿八日(土)	午後七時	青森縣弘前市美會堂	國粹論 第一

附録 本多先生説教及演説年譜

附錄 本多先生説教及演説年譜

Table with columns for date, day of the week, time, and location. Includes entries for 十五日(金) through 九日(月).

- 宗教選擇論
實験的宗教
教會の三綱領
中庸論
「聖き門より入れよ」
奉教の動機
中庸論
實験的宗教
「聖き門より入れよ」
葬儀説教(大久保勝氏の葬儀)
敬神論
天門在心中
「聖き門より入れよ」
天門在心中
修養談
實験的宗教
敬神と人の生涯
天門在心(聽者滿堂)
同題
敬神論一斑
道は汝の心にある
中庸論

Table with columns for date, day of the week, time, and location. Includes entries for 十日(火) through 一月三日(金).

- 境遇の人たらんか、將品性の人たらん乎(使徒行傳廿四章)
實験的宗教
新島襄氏について、
スザンナ・ウエスレ
神と人
品性の人乎、境遇の人乎
中庸論
新教會の標榜
人
道在汝心
敬神論
品性建築
實験的宗教
品性論
神と人
基督の教育主義
宗教撰擇論
説教
人
演説
教育演説

附錄 本多先生説教及演説年譜

明治四十一年

一月三日(金) 午後七時 琉球、名護町小學校

